

## 資料 2

# 平成 2 8 年度 大阪市障がい者等 基礎調査の状況について

速報版のため集計数値は変わる可能性があります。



# 1 基礎調査の結果概要 (速報版)

## 2 各調査票の集計結果 (速報版)

# 基礎調査実施の概要

(実施期間 平成28年12月1日～平成28年12月26日)

## 障がい者（児）等基礎調査票（本人・家族用）

身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院）受給者証の交付者から無作為抽出。郵送調査。

## 障がい福祉サービス事業者等調査票

障がい福祉サービスを提供している事業者等（全件）。郵送調査。

## 大阪市発達障がい者支援センター・ 発達障がい児専門療育機関利用者アンケート

エルムおおさか及び発達障がい児専門療育機関利用者のうち住所氏名の把握等が可能な方。郵送調査。

## 高次脳機能障がいに関するアンケート

大阪市内の整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、精神科、神経科、神経内科、心療内科を標榜している医療機関に入院または通院された方で、当該医療機関医師が高次脳機能障がい（疑い含む）であると判断した方。大阪府高次脳機能障がい相談支援センターへ相談に来られた方。医療機関及び大阪府高次脳機能障がい相談支援センターを通じて配布（一定期間）し、郵送にて回収。

## 障がい者（児）等基礎調査票（施設入所者・管理者用）

施設入所前の住所が大阪市内である施設入所者及び当該施設の管理者。郵送調査（送付時は施設毎にまとめて発送。回収は返送用封筒にて個別に回収）

## 特定医療費（指定難病）助成事業対象者基礎調査票

大阪市内に居住している特定医療費（指定難病）受給者から無作為抽出。郵送調査。

## 小児慢性特定疾病医療支援事業対象者基礎調査票

大阪市内に居住している小児慢性特定疾病医療受給者から無作為抽出。郵送調査。

## 基礎調査の結果概要（速報版）

調査票	種別	発送数	有効回収数	有効回収率	(参考) 前回回収率
障がい者（児）基礎調査票（本人用）	A 1	11,366部	4,266部	37.5%	39.8%
障がい者（児）基礎調査票（家族用）	A 2	11,366部	3,264部	28.7%	32.4%
障がい福祉サービス事業者等調査票	B	2,842部	1,505部	53.0%	50.7%
大阪市発達障がい者支援センター・ 発達障がい児専門療育機関利用者アンケート	C	383部	160部	41.8%	46.7%
高次脳機能障がいに関するアンケート	D	1,236部	96部	7.8%	5.6%
障がい者（児）基礎調査票（施設入所者用）	E 1	1,387部	910部	65.6%	70.2%
障がい者（児）基礎調査票（施設管理者用）	E 2	163部	109部	66.9%	61.6%
特定医療費（指定難病）助成事業対象者 基礎調査票	F	728部	389部	53.4%	51.7%
小児慢性特定疾病医療支援事業対象者 基礎調査票	G	729部	335部	46.0%	44.8%
合 計		30,200部	11,034部	36.5%	38.0%

# 1 基礎調査の結果概要 (速報版)

## 2 各調査票の集計結果 (速報版)

# 障がい者等基礎調査票（本人用）

---

## 調査票 A 1

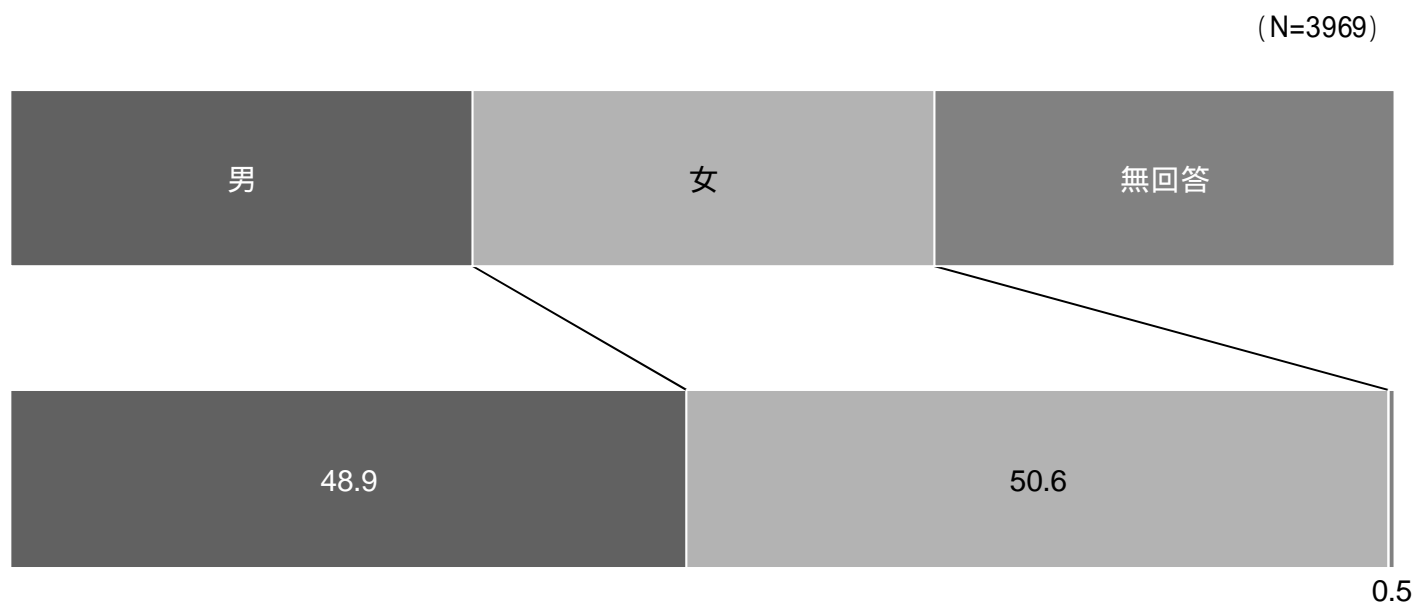
回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 1 )

---

## 問2 性別

- 「男性」 ( 48.9% )、 「女性」 ( 50.6% ) となっている。



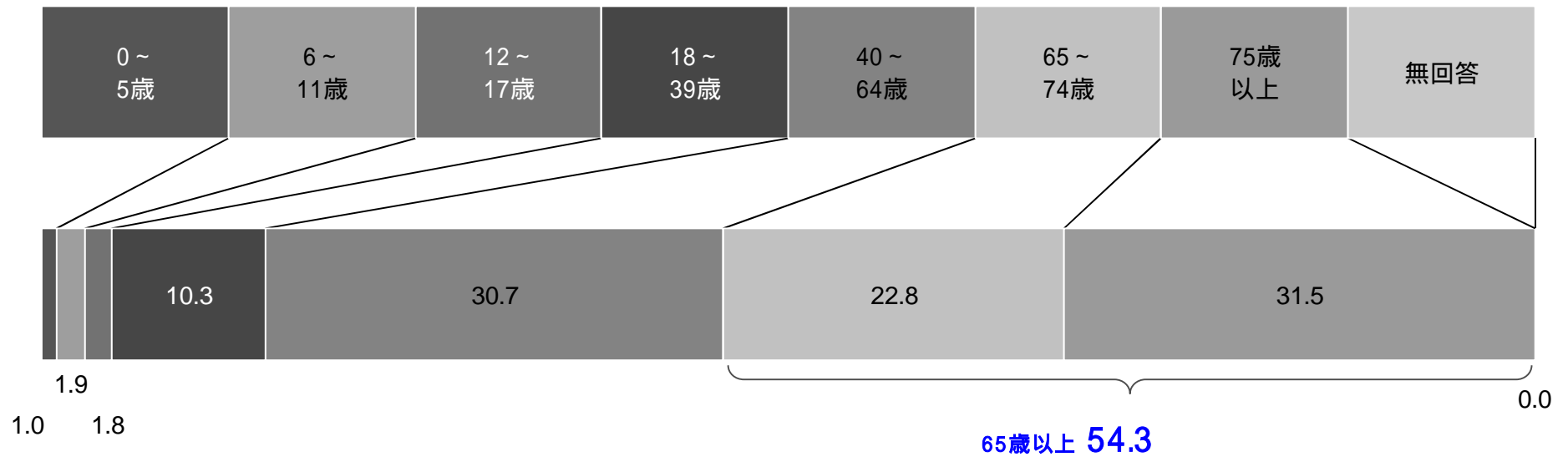


# 調査票 A 1 の結果概要 ( 2 )

## 問3 満年齢

- 65歳以上の割合が5割を超えている。

(N=3969)

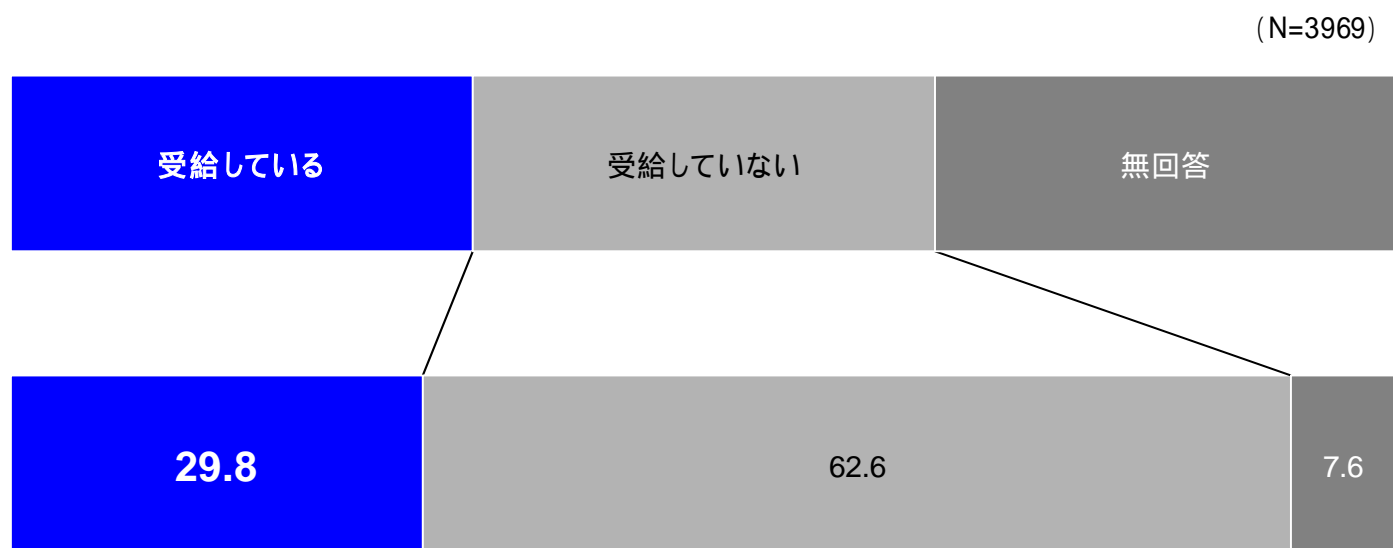


前回調査結果  
● 65歳以上の割合 51.0

## 調査票 A 1 の結果概要 ( 3 )

### 問8 自立支援医療（精神通院）の受給状況

- 約 3 割の方が自立支援医療（精神通院）を受給している。

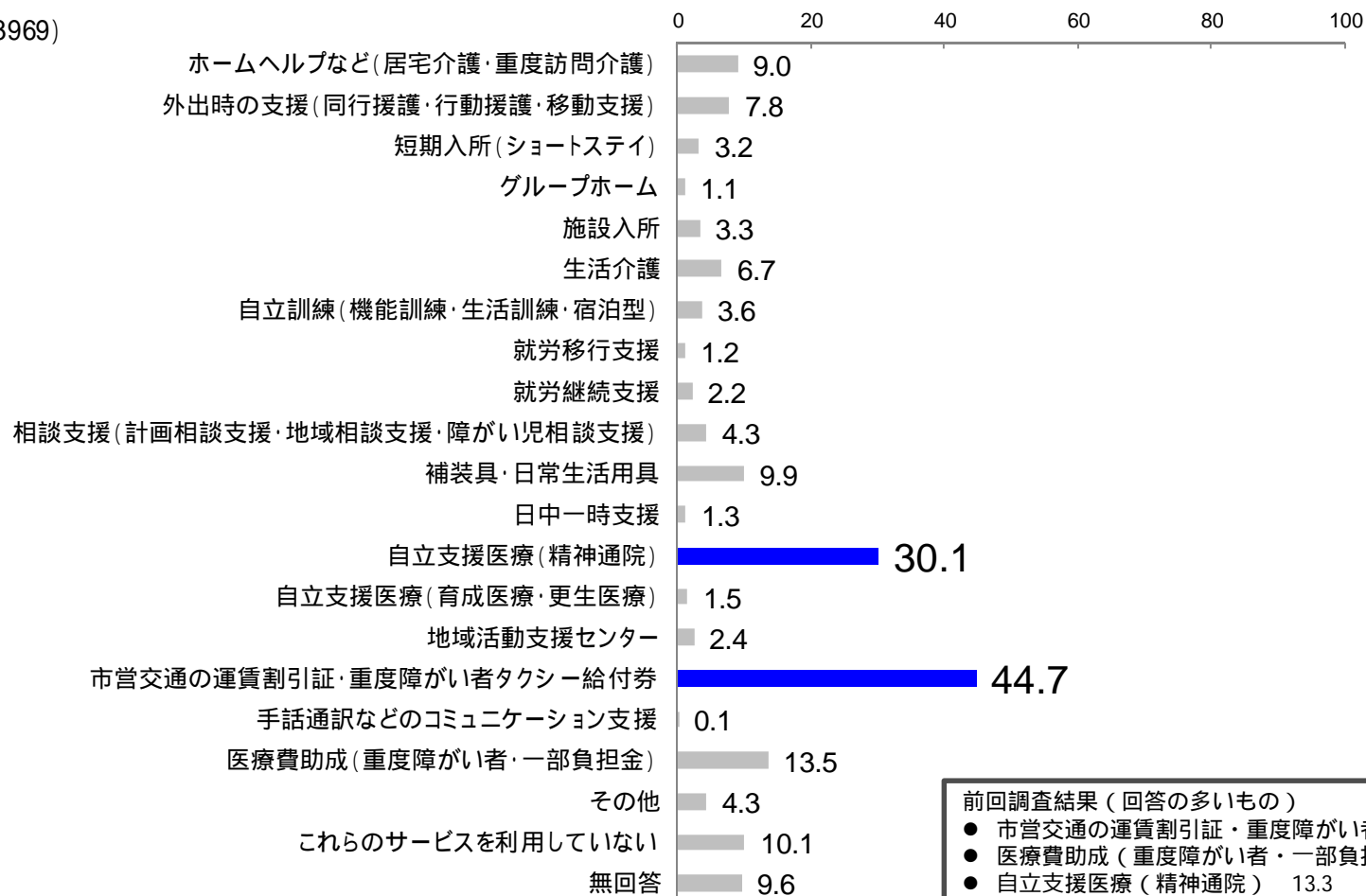


# 調査票 A 1 の結果概要 ( 4 )

## 問10 利用している障がい福祉サービス

- 「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」( 44.7% )、 「自立支援医療(精神通院)」( 30.1% ) といった回答が多いが、約 1 割の方は「これらのサービスを利用していない」と回答。

(N=3969)



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 5 )

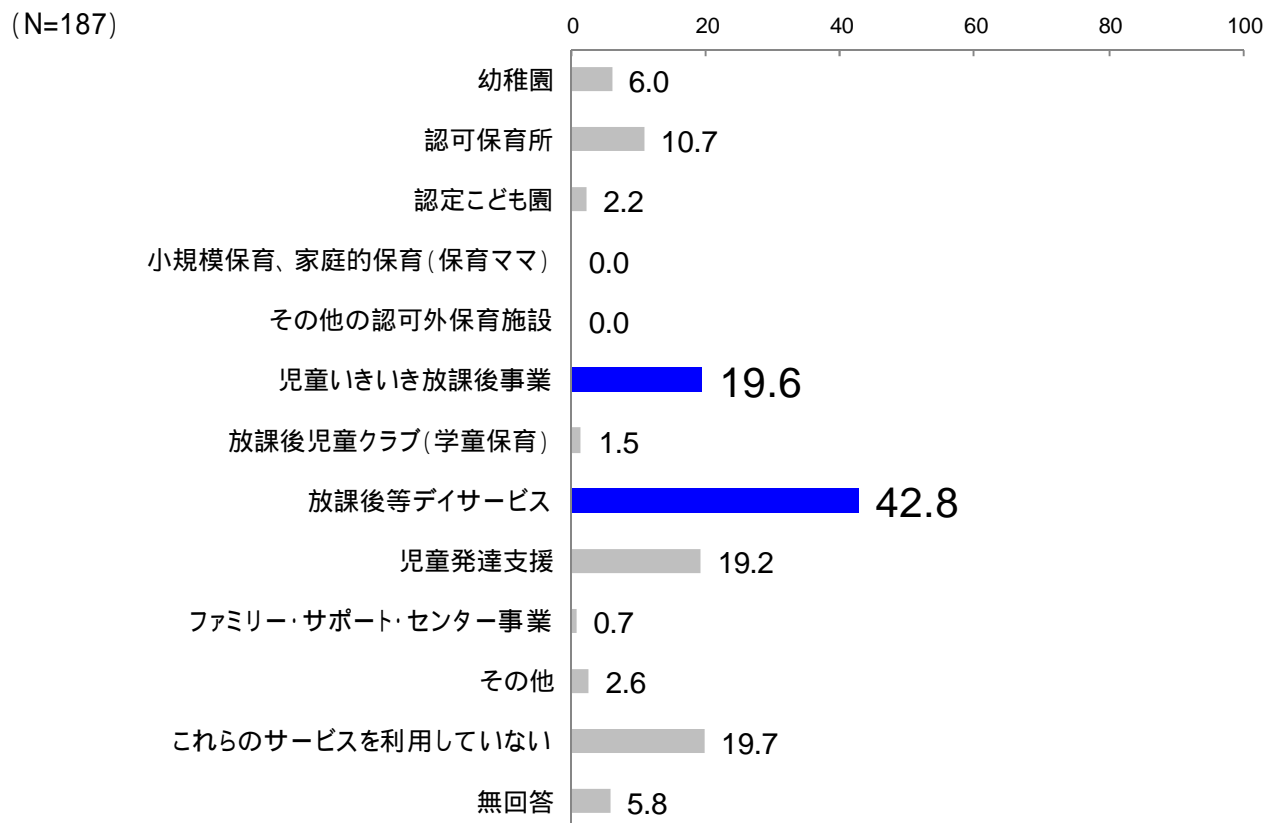
## 問10 利用している障がい福祉サービス ( クロス集計 )

	N 数	ホームヘルプなど ( 居宅介護・重度訪問介護 )	外出時の支援 ( 同行援護・行動援護・移動支援 )	短期入所 ( ショートステイ )	グループホーム	施設入所	生活介護	自立訓練 ( 機能訓練・生活訓練・宿泊型 )	就労移行支援	就労継続支援	相談支援 ( 計画相談支援・地域相談支援・障がい児相談支援 )	補装具・日常生活用具	日中一時支援	自立支援医療 ( 精神通院 )	自立支援医療 ( 育成医療・更生医療 )	地域活動支援センター	市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券	手話通訳などのコミュニケーション支援	医療費助成 ( 重度障がい者・一部負担金 )	その他	これらのサービスを利用していない	無回答
全体	(3969)	9.0	7.8	3.2	1.1	3.3	6.7	3.6	1.2	2.2	4.3	9.9	1.3	30.1	1.5	2.4	44.7	0.1	13.5	4.3	10.1	9.6
身体障がい	(2617)	9.7	6.6	3.2	0.3	4.3	6.5	4.2	0.2	0.5	2.2	14.7	1.2	9.0	1.7	2.3	50.4	0.2	17.0	4.2	13.9	11.3
知的障がい	(456)	14.0	25.4	10.1	4.9	1.8	10.5	4.1	4.2	8.7	17.5	5.1	3.6	24.2	1.8	3.7	53.3	0.3	16.8	6.8	4.7	9.3
精神障がい	(1002)	8.5	7.2	0.9	1.7	1.2	6.4	2.7	2.7	4.6	5.9	1.4	0.7	89.0	1.1	2.7	33.2	0.1	4.0	3.9	1.5	3.9
発達障がい	(221)	6.2	16.4	5.3	1.0	0.4	5.1	2.7	3.9	6.3	22.8	2.0	4.7	40.5	1.3	3.3	54.4	0.0	14.3	9.6	3.1	6.6
高次脳機能障がい	(86)	20.6	7.2	10.2	0.0	10.8	8.7	10.4	1.4	1.4	0.3	21.6	3.8	33.3	1.2	0.3	44.5	0.0	10.1	2.6	1.3	3.8
難病	(170)	12.6	15.4	5.3	0.0	5.4	9.3	2.4	1.3	1.6	4.6	15.6	1.2	22.8	5.7	1.0	54.3	0.0	40.4	3.4	6.0	6.0

## 調査票 A 1 の結果概要 ( 6 )

### 問11 利用している子育て支援等サービス

- 「放課後等デイサービス」( 42.8% )、「児童いきいき放課後事業」( 19.6% )といった回答が多いが、約 2 割の方が「これらのサービスを利用していない」と回答。



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 7 )

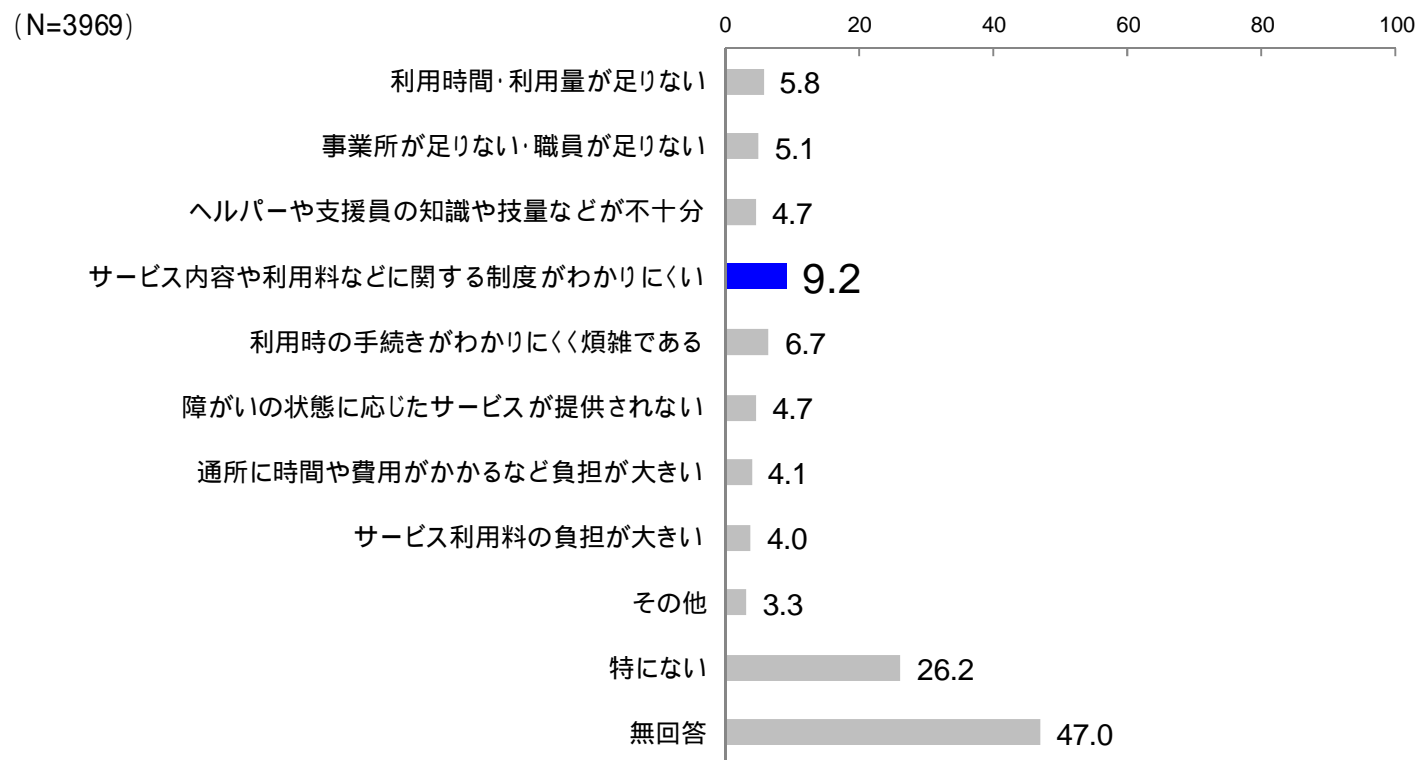
## 問11 利用している子育て支援等サービス (クロス集計)

	N 数	幼稚園	認可保育所	認定こども園	小規模保育、家庭的保育 (保育ママ)	その他の認可外保育施設	児童いきいき放課後事業	放課後児童クラブ (学童保育)	放課後等デイサービス	児童発達支援	ファミリー・サポート・センター事業	その他	これらのサービスを利用していない	無回答
全体	(187)	6.0	10.7	2.2	0.0	0.0	19.6	1.5	42.8	19.2	0.7	2.6	19.7	5.8
身体障がい	(38)	4.7	12.0	1.0	0.0	0.0	20.0	1.1	38.0	19.3	1.0	3.4	19.5	3.5
知的障がい	(154)	6.6	11.9	2.6	0.0	0.0	18.4	1.8	47.1	21.6	0.8	2.2	15.1	6.0
精神障がい	(19)	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	21.2	0.0	46.1	10.0	1.2	6.2	25.9	10.5
発達障がい	(110)	6.9	10.8	2.4	0.0	0.0	20.1	1.1	48.8	22.5	0.9	2.8	15.5	5.3
高次脳機能障がい	(2)	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	81.3	0.0
難病	(10)	2.7	12.6	5.3	0.0	0.0	28.7	0.0	23.3	20.1	0.0	1.4	19.2	6.0

## 調査票 A 1 の結果概要 ( 8 )

### 問13 障がい福祉サービス等を利用して思うこと

- 「サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい」( 9.2% ) と回答した方が多い。



#### 前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい 15.4
- 利用時の手続きがわかりにくく煩雑である 10.6
- 利用時間・利用量が足りない 10.4

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 9 )

## 問13 障がい福祉サービス等を利用して思うこと (クロス集計)

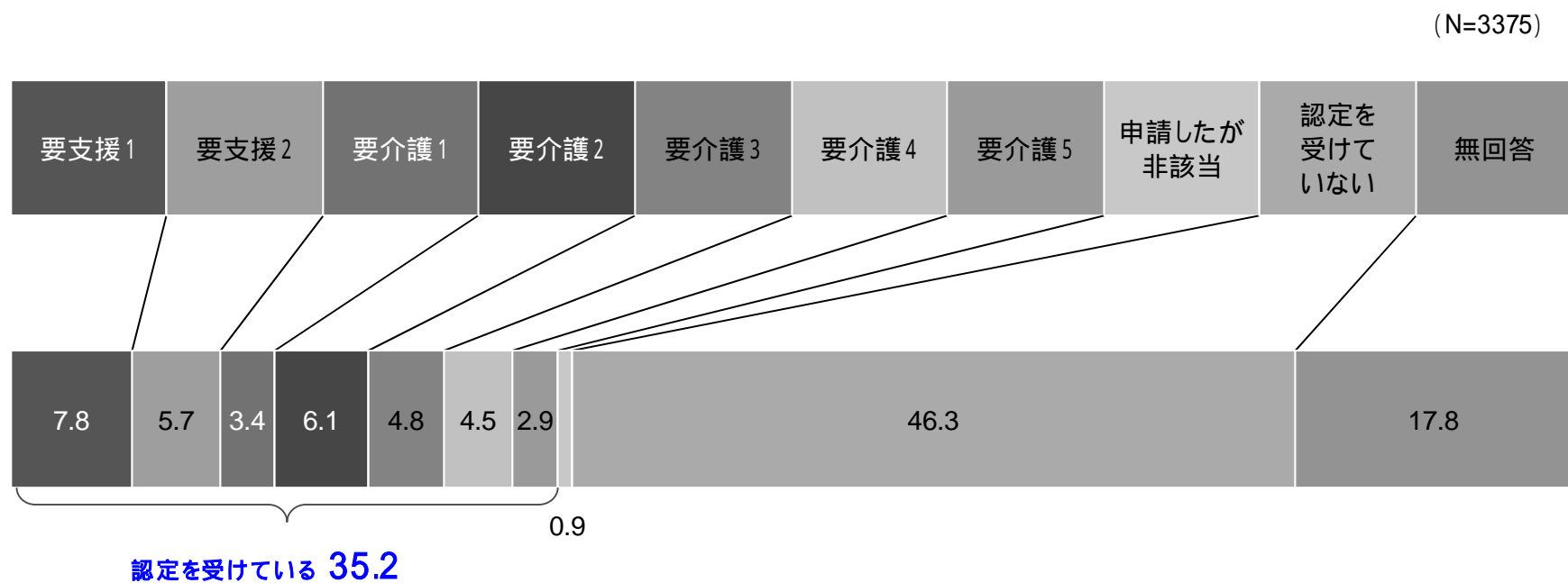
	N 数	利用時間・利用量が足りない	事業所が足りない・職員が足りない	ヘルパーや支援員の知識や技量などが不十分	サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい	利用時の手続きがわかりにくく煩雑である	障がいの状態に応じたサービスが提供されない	通所に時間や費用がかかるなど負担が大きい	サービス利用料の負担が大きい	その他	特にない	無回答
全体	(3963)	5.8	5.1	4.7	9.2	6.7	4.7	4.1	4.0	3.3	26.2	47.0
身体障がい	(2617)	5.8	3.7	4.1	7.7	4.9	4.2	3.0	4.4	3.2	24.8	51.5
知的障がい	(450)	13.4	16.9	12.7	14.6	12.7	10.7	6.0	4.0	2.8	26.1	29.0
精神障がい	(1002)	5.1	5.2	4.6	11.7	9.0	5.0	6.1	3.1	3.7	29.7	39.5
発達障がい	(218)	10.9	18.5	14.1	18.2	14.8	14.3	6.7	6.0	5.1	24.8	24.5
高次脳機能障がい	(86)	17.5	11.5	12.1	8.3	7.6	4.0	12.2	8.6	6.2	16.1	39.8
難病	(170)	5.6	7.8	10.7	10.9	6.0	9.8	8.5	6.8	5.9	16.1	44.0



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 10 )

## 問16 要支援・要介護の認定状況

- 要支援・要介護認定を受けている方は3割を超えている。



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 11 )

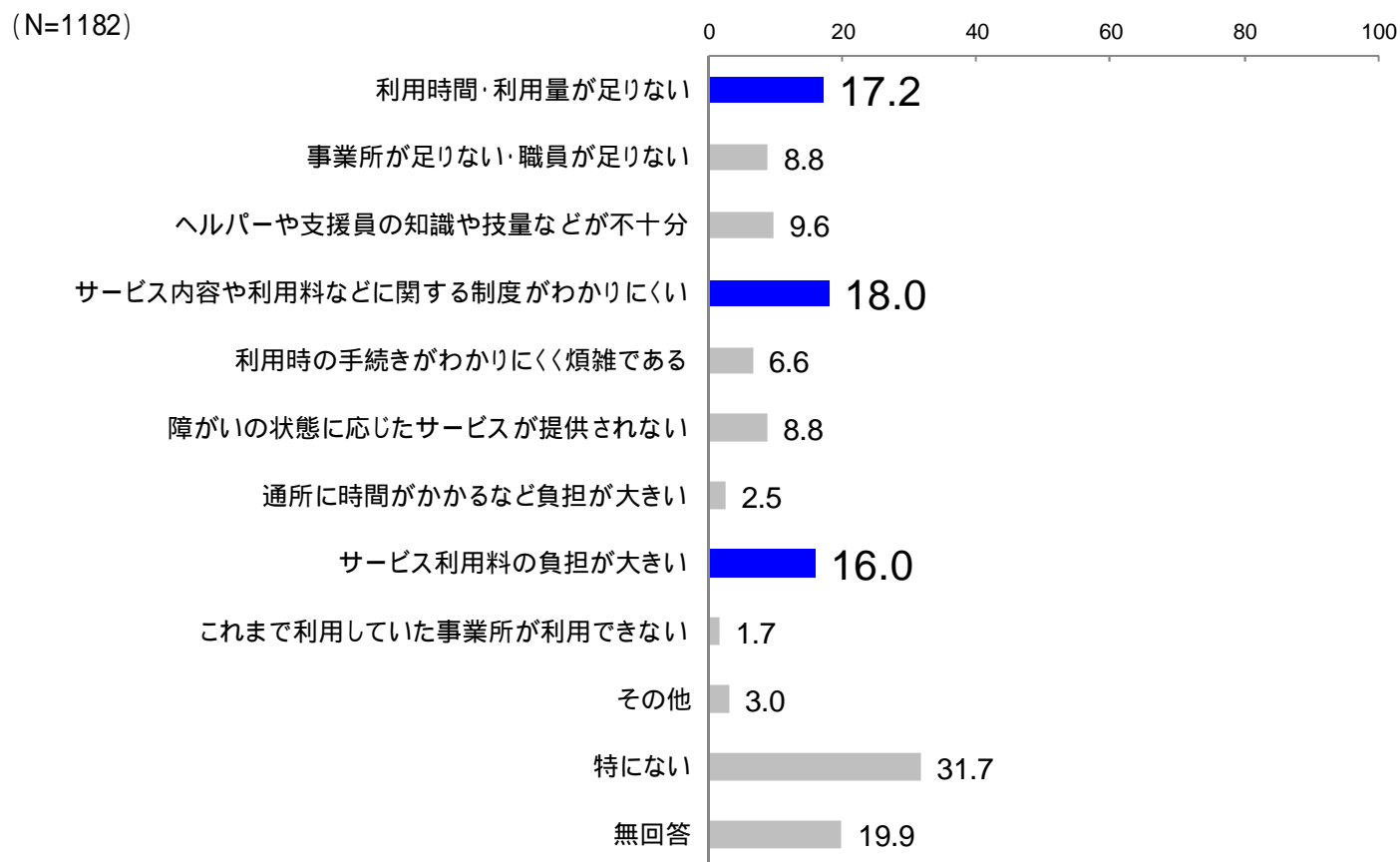
## 問16 要支援・要介護の認定状況 (クロス集計)

	N 数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請したが非該当	認定を受けていない	無回答
全体	(3375)	7.8	5.7	3.4	6.1	4.8	4.5	2.9	0.9	46.3	17.8
身体障がい	(2537)	9.5	7.0	3.9	7.2	5.5	5.6	3.5	1.0	38.7	18.0
知的障がい	(163)	3.3	1.4	4.8	4.3	0.7	1.4	2.3	2.0	55.0	24.8
精神障がい	(743)	2.5	1.8	2.2	3.4	3.0	1.1	0.5	0.4	68.8	16.3
発達障がい	(38)	5.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	74.2	17.1
高次脳機能障がい	(79)	12.1	0.8	3.0	24.5	3.2	9.4	9.0	0.3	25.2	12.5
難病	(147)	4.1	6.7	1.7	7.9	9.6	4.9	7.1	3.4	38.1	16.5

## 調査票 A 1 の結果概要 ( 12 )

### 問18 介護保険サービスを利用して思うこと

- 「サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい」( 18.0% )、「利用時間・利用量が足りない」( 17.2% )、「サービス利用料の負担が大きい」( 16.0% )といった回答が多い。



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 13 )

## 問18 介護保険サービスを利用して思うこと (クロス集計)

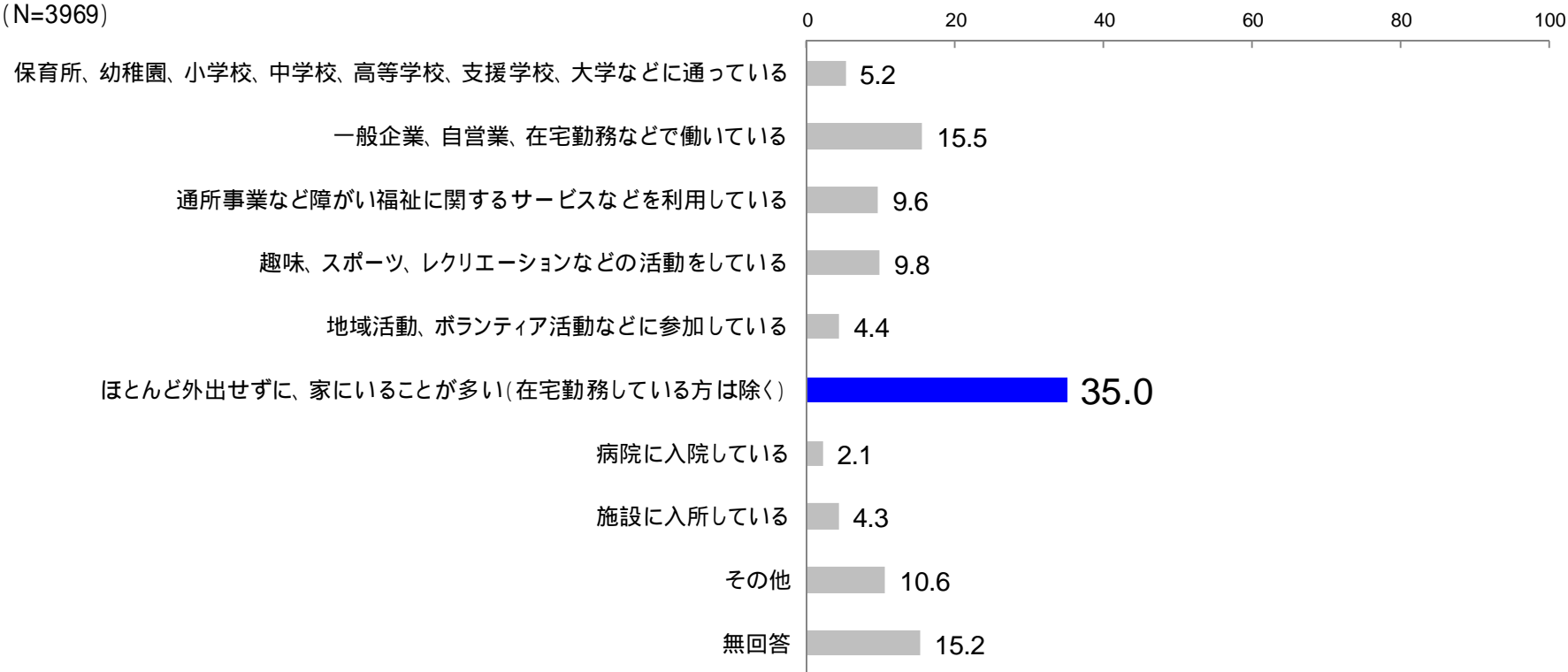
	N 数	利用時間・利用量が足りない	事業所が足りない・職員が足りない	ヘルパーや支援員の知識や技量などが不十分	サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい	利用時の手続きがわかりにくく煩雑である	障がいの状態に応じたサービスが提供されない	通所に時間がかかるなど負担が大きい	サービス利用料の負担が大きい	これまで利用していた事業所が利用できない	その他	特にない	無回答
全体	(1182)	17.2	8.8	9.6	18.0	6.6	8.8	2.5	16.0	1.7	3.0	31.7	19.9
身体障がい	(1072)	17.2	8.7	9.5	17.8	6.6	9.1	2.5	16.3	1.4	3.0	31.1	20.2
知的障がい	(30)	13.6	7.2	7.5	11.7	10.4	15.0	0.0	3.8	1.9	1.9	24.0	32.5
精神障がい	(108)	15.7	7.8	12.8	17.3	5.9	13.0	3.3	14.2	2.4	2.1	32.1	17.5
発達障がい	(3)	0.0	0.0	20.3	27.9	0.0	20.3	0.0	0.0	20.3	0.0	51.8	0.0
高次脳機能障がい	(49)	29.3	14.2	16.0	21.0	0.9	9.6	0.0	27.6	3.2	17.2	30.5	11.4
難病	(62)	8.9	10.3	4.0	22.2	1.7	18.8	0.0	23.4	5.4	1.2	28.8	20.8

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 14 )

## 問19 日中の主な活動

- 「ほとんど外出せずに、家にいることが多い(在宅勤務している方は除く)」(35.0%) が最も多い。

(N=3969)



前回調査結果(回答の多いもの)

- ほとんど外出せずに、家にいることが多い(在宅勤務している方は除く) 34.4
- 一般企業、自営業、在宅勤務などで働いている 14.1
- 趣味、スポーツ、レクリエーションなどの活動をしている 12.0

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 15 )

## 問19 日中の主な活動 (クロス集計)

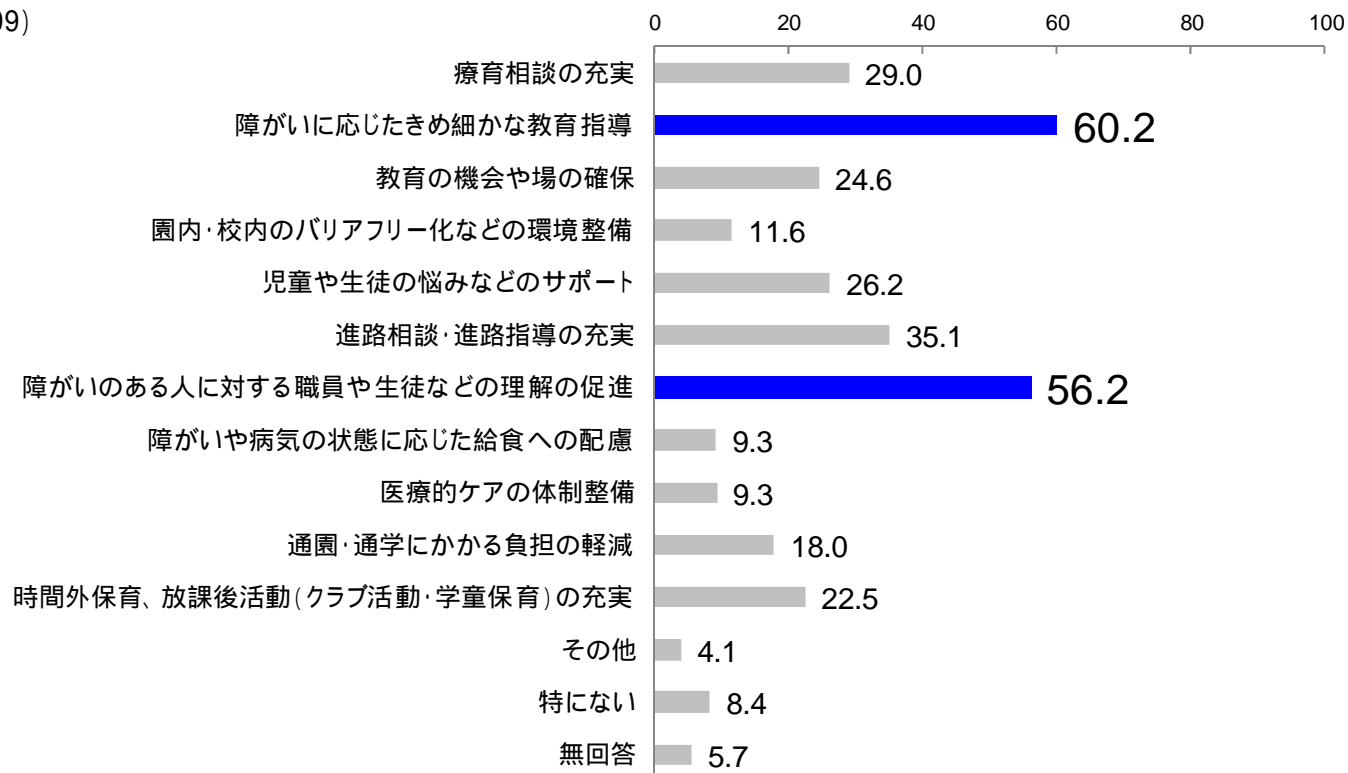
	N 数	学校、保育所、支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学などに通っている	一般企業、自営業、在宅勤務などで働いている	通所事業など障がい福祉に関するサービスなどを利用している	趣味、スポーツ、レクリエーションなどの活動をしている	地域活動、ボランティア活動などに参加している	多い (在宅勤務している方は除く)	病院に入院している	施設に入所している	その他	無回答
全体	(3969)	5.3	15.5	9.6	9.8	4.4	35.0	2.1	4.3	10.6	15.2
身体障がい	(2617)	2.0	13.4	6.7	9.8	5.4	35.8	2.3	5.2	11.5	18.2
知的障がい	(456)	32.2	13.1	27.2	6.1	1.5	12.5	2.0	2.1	3.8	9.8
精神障がい	(1002)	3.1	20.2	13.3	10.5	2.5	41.7	3.0	2.8	11.0	8.8
発達障がい	(221)	48.4	13.8	17.9	6.4	2.7	16.6	0.8	0.5	4.0	6.1
高次脳機能障がい	(86)	4.9	15.1	14.9	7.0	3.6	31.5	1.8	15.2	6.3	18.7
難病	(170)	5.8	18.6	7.2	8.8	4.2	40.8	2.7	3.8	6.2	15.8

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 16 )

## 問20 保育や教育で充実してほしいこと

- 「障がいに応じたきめ細かな教育指導」( 60.2% ) が最も多く、次いで「障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進」( 56.2% ) となっている。

(N=209)



前回調査結果(回答の多いもの)

- 障がいに応じたきめ細かな教育指導 63.0
- 障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進 53.5
- 進路相談・進路指導の充実 42.9

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 17 )

## 問20 保育や教育で充実してほしいこと ( クロス集計 )

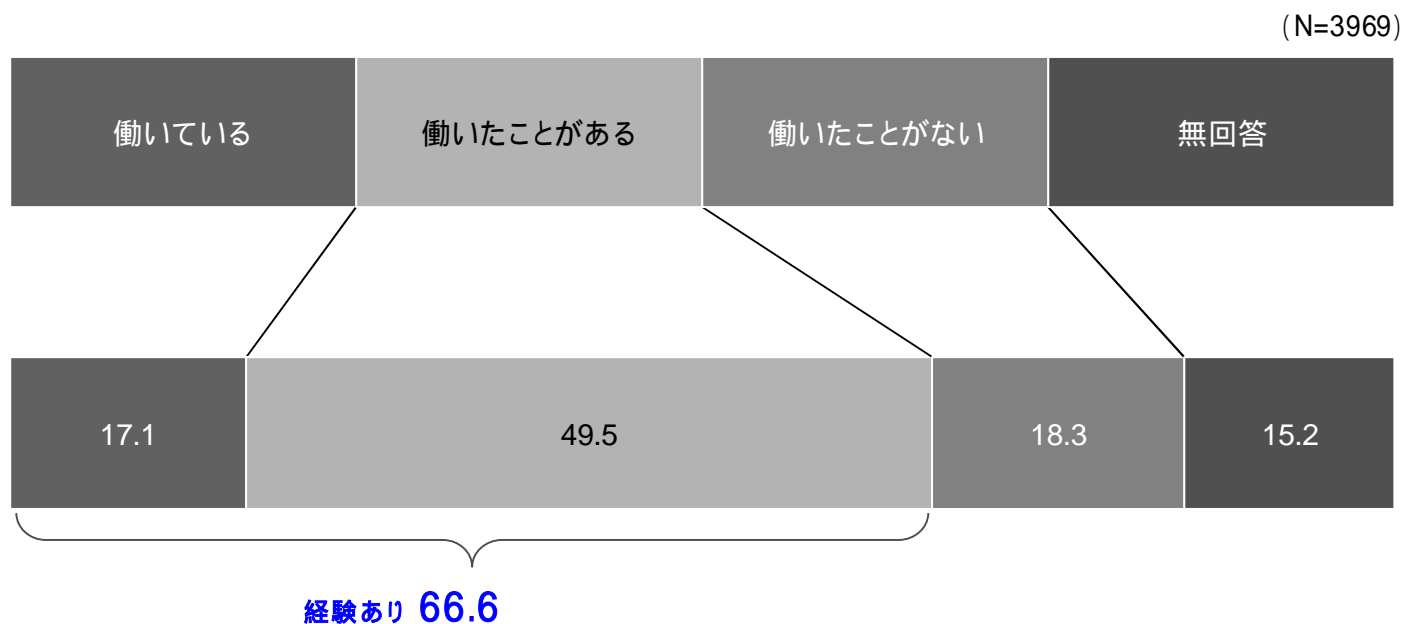
	N 数	療育相談の充実	障がいに応じたきめ細かな教育指導	教育の機会や場の確保	園内・校内のバリアフリー化などの環境整備	児童や生徒の悩みなどのサポート	進路相談・進路指導の充実	障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進	障がいや病気の状態に応じた給食への配慮	医療的ケアの体制整備	通園・通学にかかる負担の軽減	時間外保育、放課後活動（クラブ活動・学童保育）の充実	その他	特にない	無回答
全体	(209)	29.0	60.2	24.6	11.6	26.2	35.1	56.2	9.3	9.3	18.0	22.5	4.1	8.4	5.7
身体障がい	(52)	16.5	47.1	23.3	27.4	15.9	23.9	46.3	10.7	12.4	18.1	18.2	7.8	7.7	14.3
知的障がい	(147)	37.0	70.6	26.2	10.4	28.3	40.2	60.5	11.4	9.4	21.0	28.6	2.9	5.7	2.3
精神障がい	(31)	20.9	44.9	24.9	2.9	27.5	33.1	50.3	10.4	13.7	16.6	10.8	6.2	11.7	5.0
発達障がい	(107)	40.5	75.9	28.1	8.5	33.2	42.0	67.3	10.1	8.0	20.6	28.3	3.2	4.5	2.2
高次脳機能障がい	(4)	3.3	6.5	0.0	3.3	0.0	27.3	6.5	0.0	3.3	27.3	3.3	24.0	45.4	0.0
難病	(10)	8.3	30.7	7.1	12.6	26.9	27.4	53.3	8.5	8.5	24.6	5.8	3.8	22.3	1.6



## 調査票 A 1 の結果概要 ( 18 )

### 問21 一般就労の経験

- 約 7 割の方が一般就労の経験があると回答している。



## 調査票 A 1 の結果概要 ( 19 )

### 問21 一般就労の経験 (クロス集計)

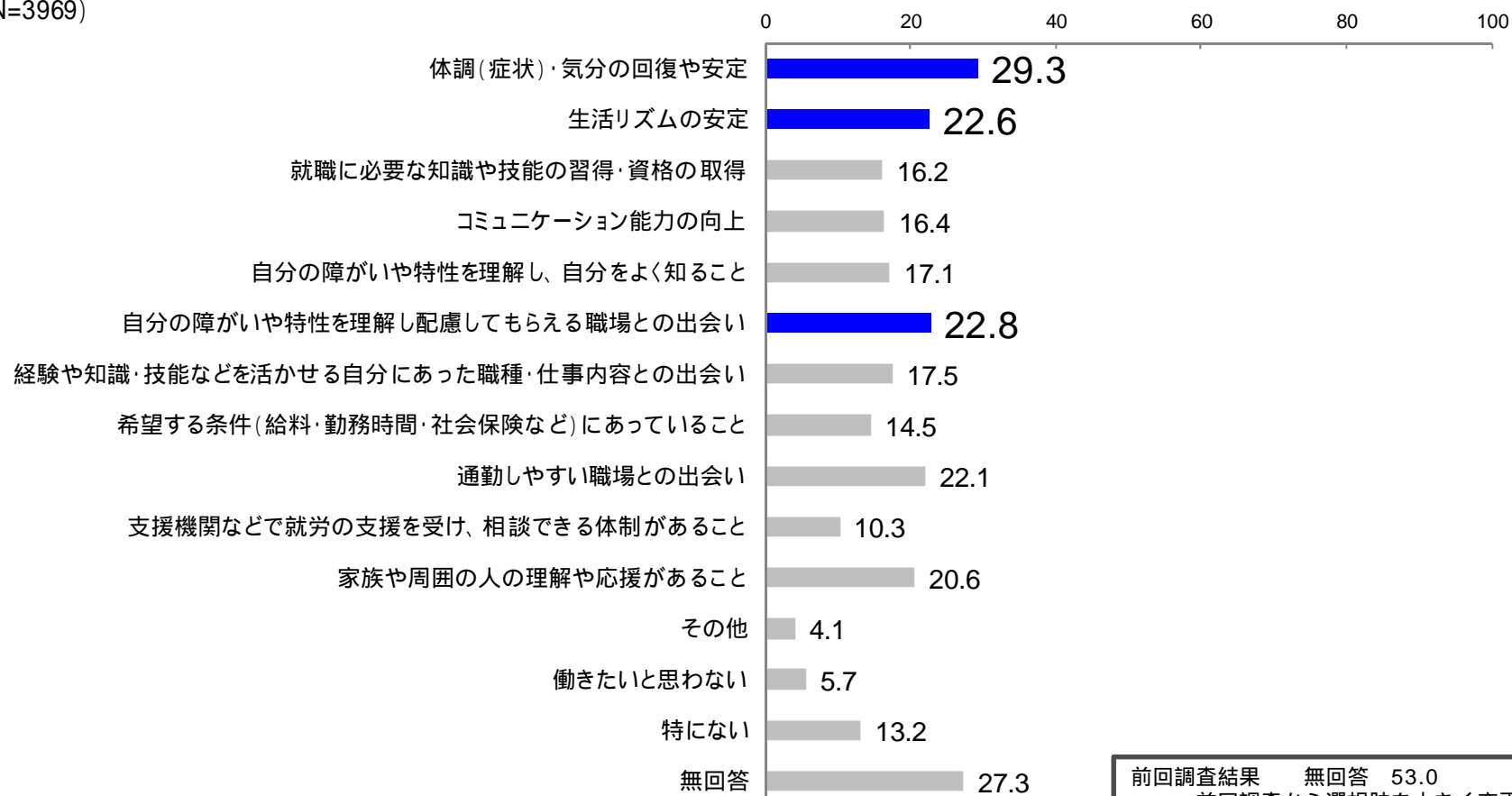
	N 数	働いている	働いたことがある	働いたことがない	無回答
全体	(3969)	17.1	49.5	18.3	15.2
身体障がい	(2617)	15.1	50.6	15.7	18.6
知的障がい	(456)	14.2	19.8	52.0	14.0
精神障がい	(1002)	21.0	60.0	12.3	6.7
発達障がい	(221)	12.6	17.5	55.5	14.5
高次脳機能障がい	(86)	16.1	52.0	16.6	15.3
難病	(170)	16.0	49.1	21.0	13.9

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 20 )

## 問22 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと

- 「体調（症状）・気分の回復や安定」（29.3%）が最も多く、次いで「自分の障がいや特性を理解し配慮してもらえる職場との出会い」（22.8%）、「生活リズムの安定」（22.6%）となっている。

(N=3969)



前回調査結果 無回答 53.0  
前回調査から選択肢を大きく変更

# 調査票 A 1 の結果概要 (21)

## 問22 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと (クロス集計)

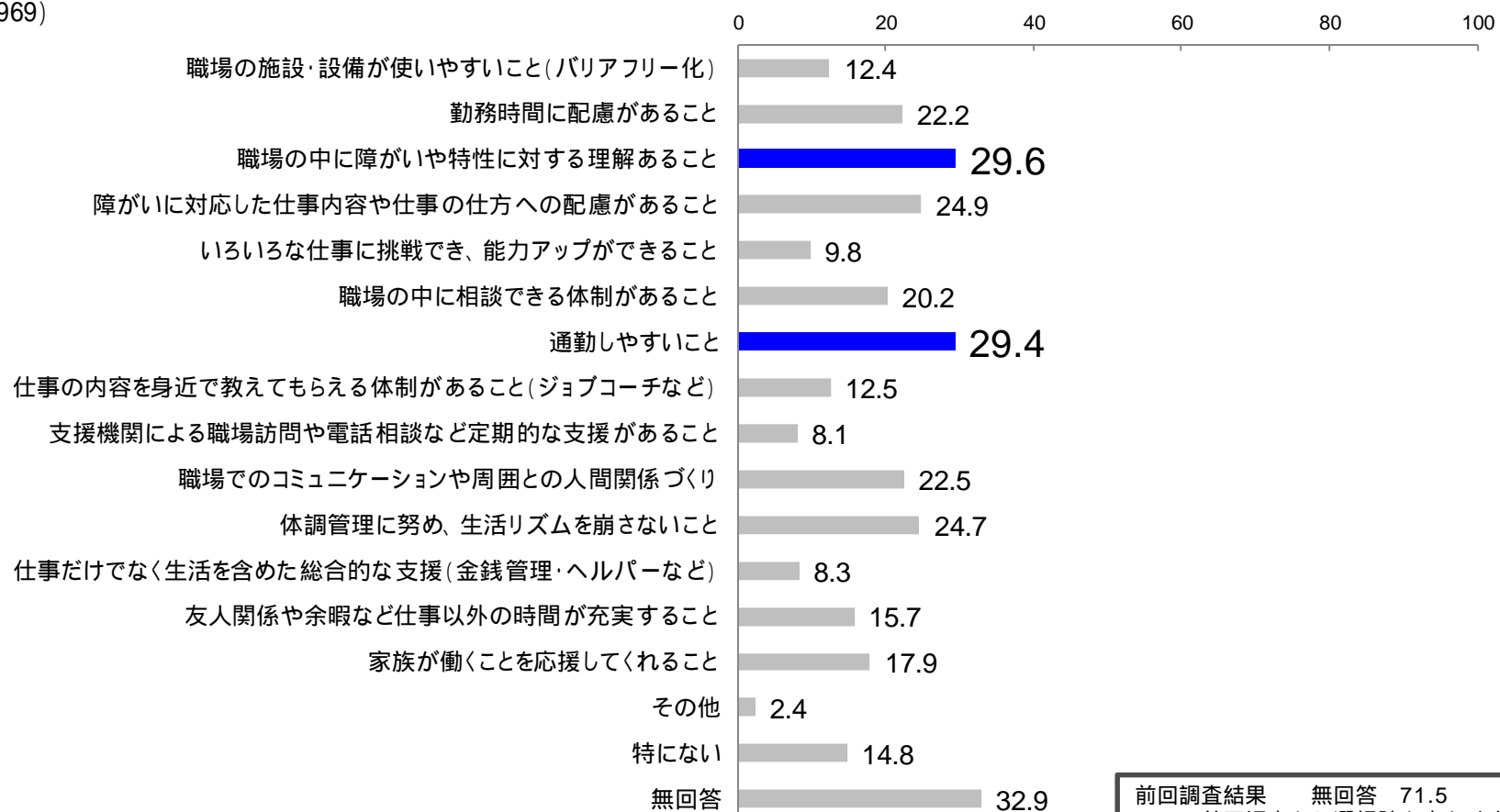
	N 数	体調 (症状)・気分 の回復や安定	生活リズムの安定	就職に必要な知識 や技能の習得・資格 の取得	コミュニケーション 能力の向上	自分の障がいや特性 を理解し、自分を よく知ること	自分の障がいや特性 を理解し配慮して もらえる職場との 出会い	経験や知識・技能 などを活かせる自 分にあつた職種・ 仕事内容との出 会い	希望する条件 (給 料・勤務時間・社 会保険など)にあ つていること	通勤しやすい職 場との出会い	支援機関などで 就労の支援を受け 、相談できる体制 があること	家族や周囲の人の 理解や応援がある こと	その他	働きたいと思わ ない	特 に ない	無 回 答
全体	(3969)	29.3	22.6	16.2	16.4	17.1	22.8	17.5	14.5	22.1	10.3	20.6	4.1	5.7	13.2	27.3
身体障がい	(2617)	18.2	13.3	11.7	8.8	11.9	15.1	13.1	8.3	15.9	4.7	15.2	4.6	5.3	16.1	33.7
知的障がい	(456)	23.3	26.3	21.3	30.5	20.8	38.8	22.0	17.1	27.9	24.2	29.0	1.5	4.0	9.1	28.4
精神障がい	(1002)	61.0	46.3	26.8	32.0	31.5	37.6	28.4	29.4	36.7	20.7	31.6	3.9	7.7	6.8	10.3
発達障がい	(221)	35.3	34.3	28.3	39.5	33.6	48.1	28.1	24.8	31.3	31.8	37.4	1.2	3.3	5.1	27.0
高次脳機能障がい	(86)	14.9	9.9	16.4	13.9	10.5	18.5	8.1	12.1	16.9	8.5	23.7	9.4	5.0	18.7	26.0
難病	(170)	29.3	16.0	14.6	12.1	19.1	25.8	15.4	15.6	23.1	11.2	20.4	2.5	1.9	11.4	32.3
働いている	(677)	48.2	36.2	24.8	22.2	30.3	35.1	27.7	23.4	35.6	11.5	41.9	1.8	1.0	6.6	5.2
働いたことがある	(1964)	35.1	27.0	18.4	18.7	18.2	24.4	19.6	17.3	25.8	11.6	20.4	5.5	6.7	15.3	17.0
働いたことがない	(725)	18.0	14.7	14.0	17.1	14.1	23.1	15.0	9.1	14.2	13.1	15.5	4.6	10.8	18.9	30.4

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 22 )

## 問23 働き続けるために必要と思うこと

- 「職場の中に障がいや特性に対する理解あること」(29.6%) が最も多く、次いで「通勤しやすいこと」(29.4%) となっている。

(N=3969)



前回調査結果 無回答 71.5  
前回調査から選択肢を大きく変更

# 調査票 A 1 の結果概要 (23)

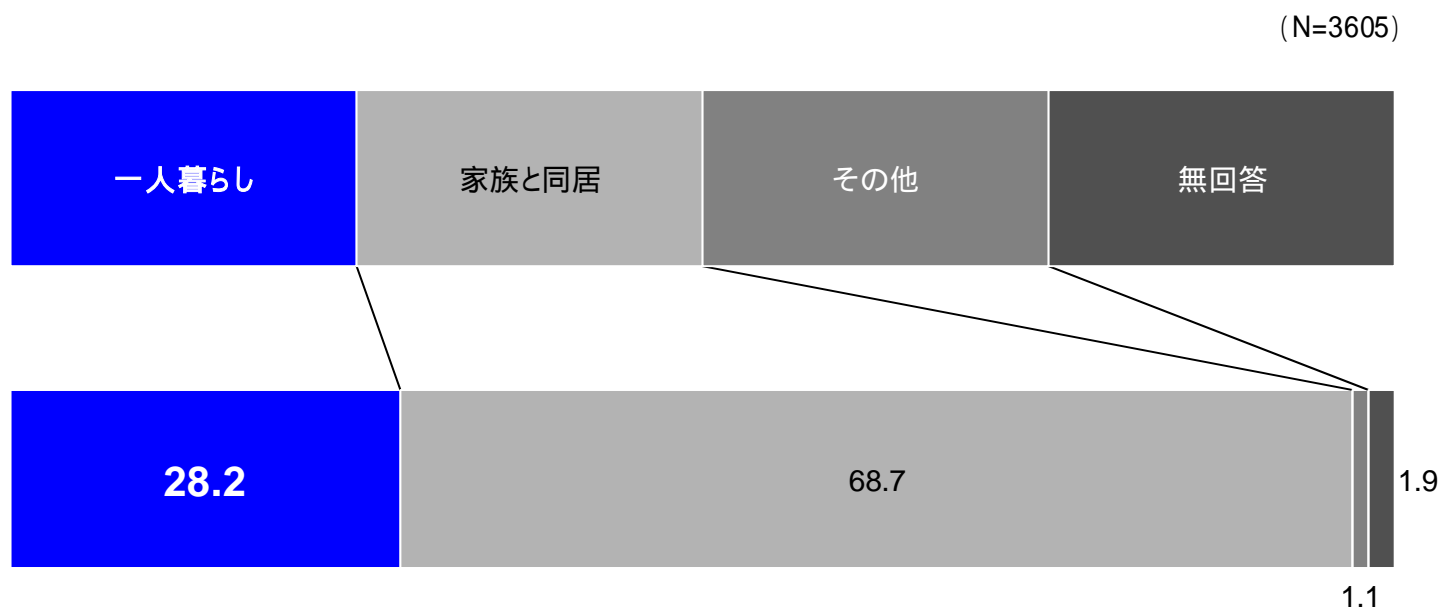
## 問23 働き続けるために必要と思うこと (クロス集計)

	N 数	職場の施設・設備が使いやすいこと (バリアフリー化)	勤務時間に配慮があること	職場の中に障がいや特性に対する理解 あること	障がいに配慮した仕事内容や仕事の仕 方への配慮があること	いろいろな仕事に挑戦でき、能力アッ プができること	職場の中に相談できる体制があること	通勤しやすいこと	仕事の内容を身近で教えてもらえる体 制があること (ジョブコーチなど)	支援機関による職場訪問や電話相談な ど定期的な支援があること	職場でのコミュニケーションや周囲と の人間関係づくり	体調管理に努め、生活リズムを崩さな いこと	仕事だけでなく生活を含めた総合的な 支援 (金銭管理・ヘルパーなど)	友人関係や余暇など仕事以外の時間が 充実すること	家族が働くことを応援してくれること	その他	特 に な い	無 回 答
全体	(3969)	12.4	22.2	29.6	24.9	9.8	20.2	29.4	12.5	8.1	22.5	24.7	8.3	15.7	17.9	2.4	14.8	32.9
身体障がい	(2617)	13.9	16.1	21.5	18.2	6.2	12.2	22.3	6.2	4.0	13.6	15.5	5.1	9.3	12.9	2.0	18.0	40.9
知的障がい	(456)	12.8	22.5	46.5	42.2	17.3	33.7	34.6	31.6	18.9	35.7	28.3	20.6	20.2	25.8	1.5	9.3	26.7
精神障がい	(1002)	10.1	39.0	44.6	36.9	16.9	37.8	46.4	22.3	15.4	40.3	47.1	13.0	30.7	27.6	3.7	8.4	15.1
発達障がい	(221)	13.5	27.3	56.2	52.5	19.3	44.0	38.1	39.8	26.6	48.5	36.8	24.4	27.3	31.8	1.7	4.7	22.6
高次脳機能障がい	(86)	8.1	6.5	23.0	16.6	10.8	11.6	19.7	11.1	5.2	9.7	12.0	4.6	6.6	11.9	5.0	22.9	33.2
難病	(170)	13.7	21.2	31.6	25.5	9.6	17.7	34.2	10.5	5.2	20.8	19.9	6.8	12.5	19.8	4.1	13.2	35.2
働いている	(677)	14.2	34.5	38.3	31.9	15.3	23.1	45.7	13.8	7.1	33.7	44.2	9.7	26.3	34.2	1.3	7.7	9.4
働いたことがある	(1964)	15.7	25.0	33.1	27.5	10.1	23.5	32.2	13.3	9.2	24.6	27.3	8.7	16.3	18.1	3.1	18.2	25.7
働いたことがない	(725)	9.3	16.9	30.4	27.6	9.7	21.2	23.9	17.8	10.8	21.0	15.8	11.0	14.2	14.0	2.8	17.9	37.7

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 24 )

## 問26 世帯の状況

- 約 3 割の方が一人暮らしとなっている。



前回調査結果	
● 一人暮らし	28.5
● 家族と同居	68.1

## 調査票 A 1 の結果概要 ( 25 )

### 問26 世帯の状況 ( クロス集計 )

	N 数	一人暮らし	家族と同居	その他	無回答
全体	(3605)	28.2	68.7	1.1	1.9
身体障がい	(2367)	28.4	67.9	1.2	2.5
知的障がい	(397)	13.4	83.9	1.9	0.8
精神障がい	(924)	34.8	62.8	1.3	1.1
発達障がい	(210)	8.7	89.5	0.8	1.0
高次脳機能障がい	(71)	21.5	78.2	0.3	0.0
難病	(156)	20.8	75.9	1.3	2.1

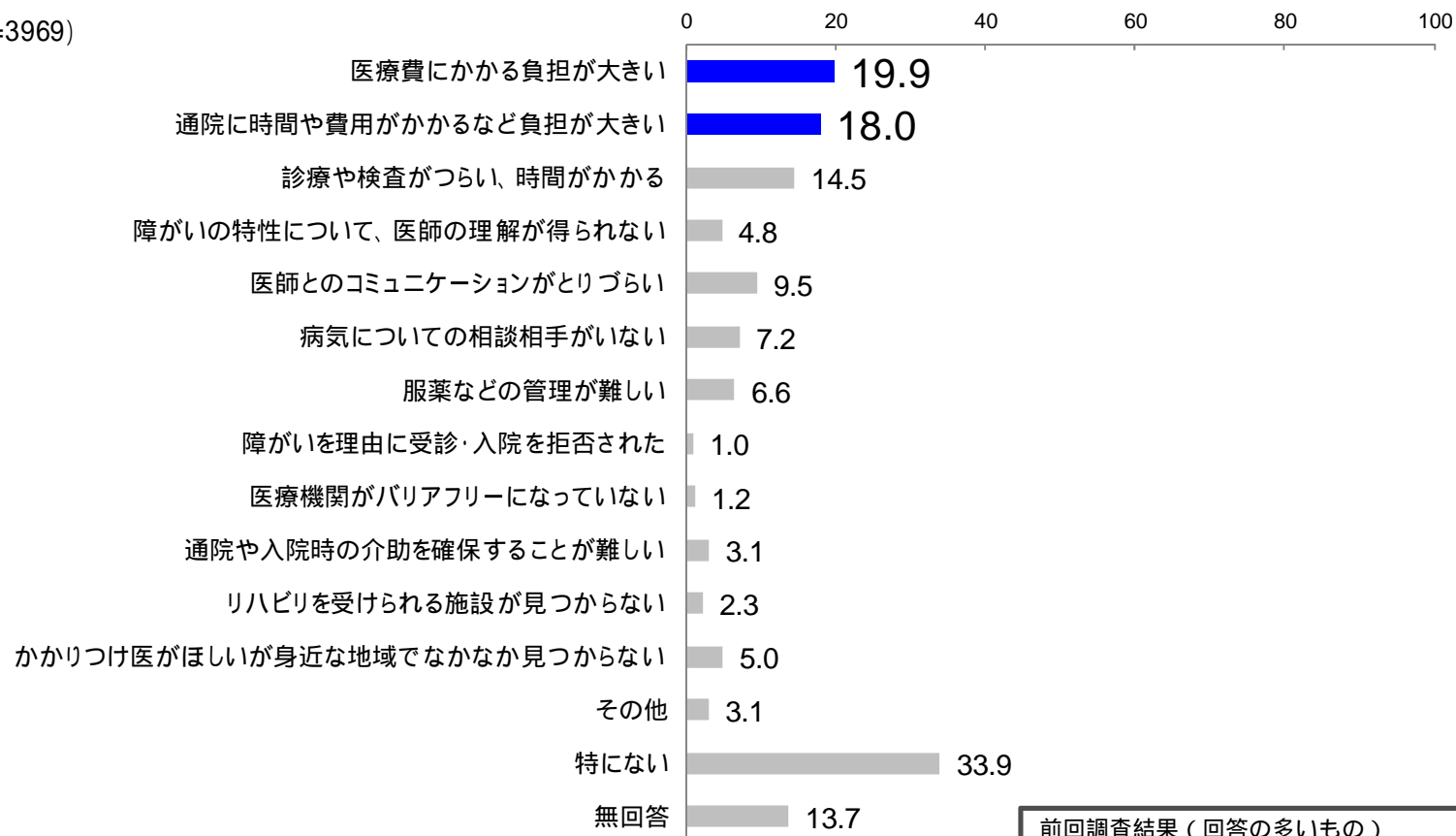


# 調査票 A 1 の結果概要 ( 26 )

## 問32 医療について困っていること

- 「医療費にかかる負担が大きい」 ( 19.9% ) 、 「通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい」 ( 18.0% ) といった回答が多い。

(N=3969)



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい 21.6
- 医療費が高い 19.2
- 診療や検査がづらい、時間がかかる 17.1

# 調査票 A 1 の結果概要 (27)

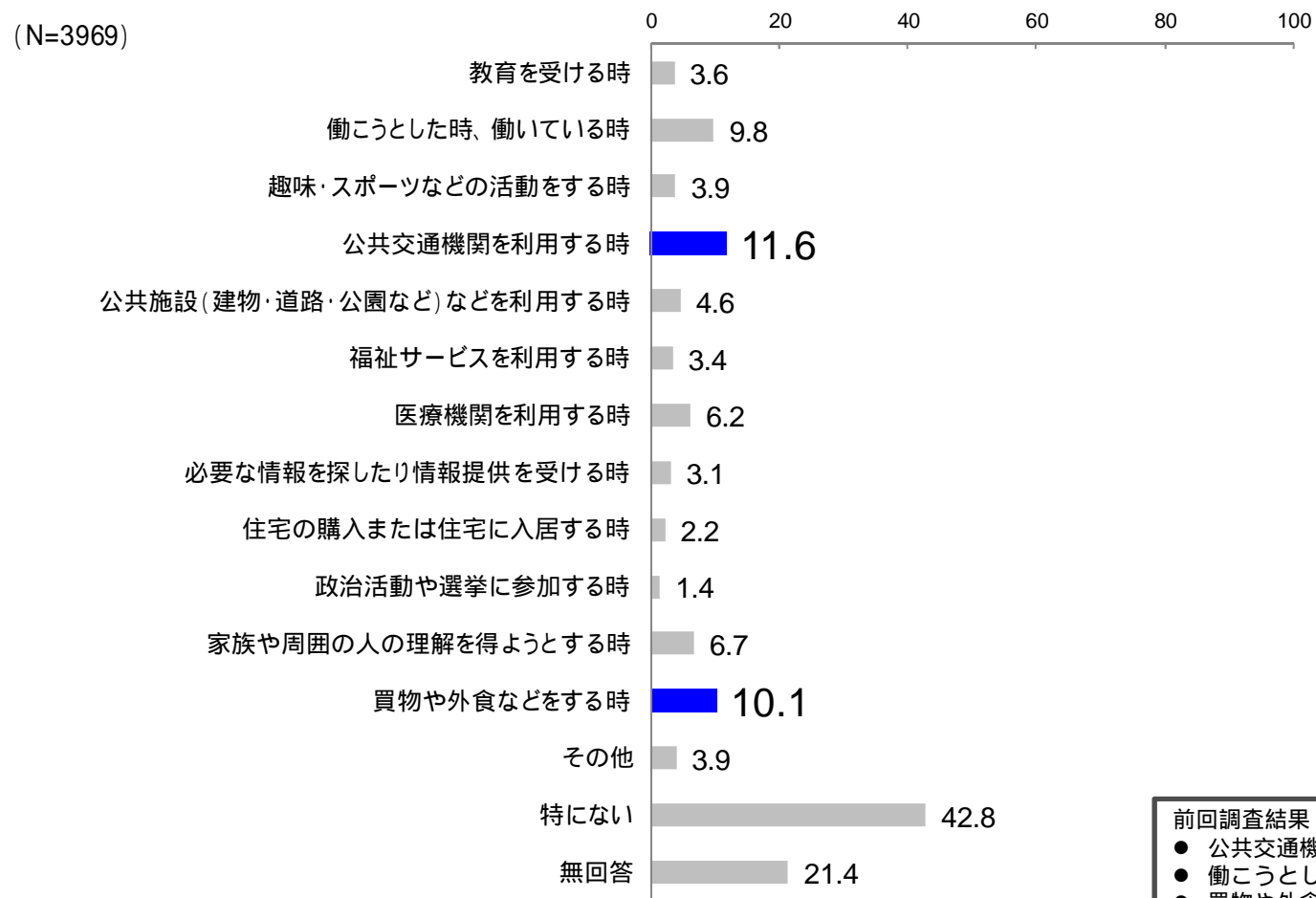
## 問32 医療について困っていること(クロス集計)

	N 数	医療費にかかる負担が大きい	通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい	診療や検査がづらい、時間がかかる	障がいの特性について、医師の理解が得られない	医師とのコミュニケーションがとりにくい	病気についての相談相手がない	服薬などの管理が難しい	障がいを理由に受診・入院を拒否された	医療機関がバリアフリーになっていない	通院や入院時の介助を確保することが難しい	リハビリを受けられる施設が見つからない	かかりつけ医がほしいが身近な地域でなかなか見つからない	その他	特にない	無回答
全体	(3969)	19.9	18.0	14.5	4.8	9.5	7.2	6.6	1.0	1.2	3.1	2.3	5.0	3.1	33.9	13.7
身体障がい	(2617)	20.2	17.0	15.0	3.6	7.2	4.8	5.4	0.5	1.5	3.0	3.0	3.5	2.2	34.2	16.0
知的障がい	(456)	11.2	16.0	17.6	11.7	20.2	7.6	13.8	2.8	0.7	5.9	1.4	8.7	2.7	31.0	13.6
精神障がい	(1002)	20.7	22.0	12.5	5.3	13.1	14.0	8.3	2.1	0.6	2.6	1.1	8.6	5.0	32.9	7.9
発達障がい	(221)	12.9	20.3	20.4	16.3	25.8	10.3	12.4	2.6	0.3	4.7	1.9	10.7	4.1	23.4	9.2
高次脳機能障がい	(86)	25.7	38.8	20.9	4.6	3.2	4.7	12.1	1.3	2.3	2.1	7.0	2.4	6.4	16.8	12.3
難病	(170)	19.1	23.9	17.7	6.2	8.2	8.4	11.3	1.3	1.0	4.3	2.4	6.9	4.2	26.3	13.1

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 28 )

## 問33 障がいを理由に不快 ( 差別 ) や不便さを感じた時

- 「公共交通機関を利用する時」 ( 11.6% )、「買物や外食などをする時」 ( 10.1% ) といった回答が多い。



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 公共交通機関を利用する時 11.2
- 働こうとした時、働いている時 10.6
- 買物や外食などをする時 9.6

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 29 )

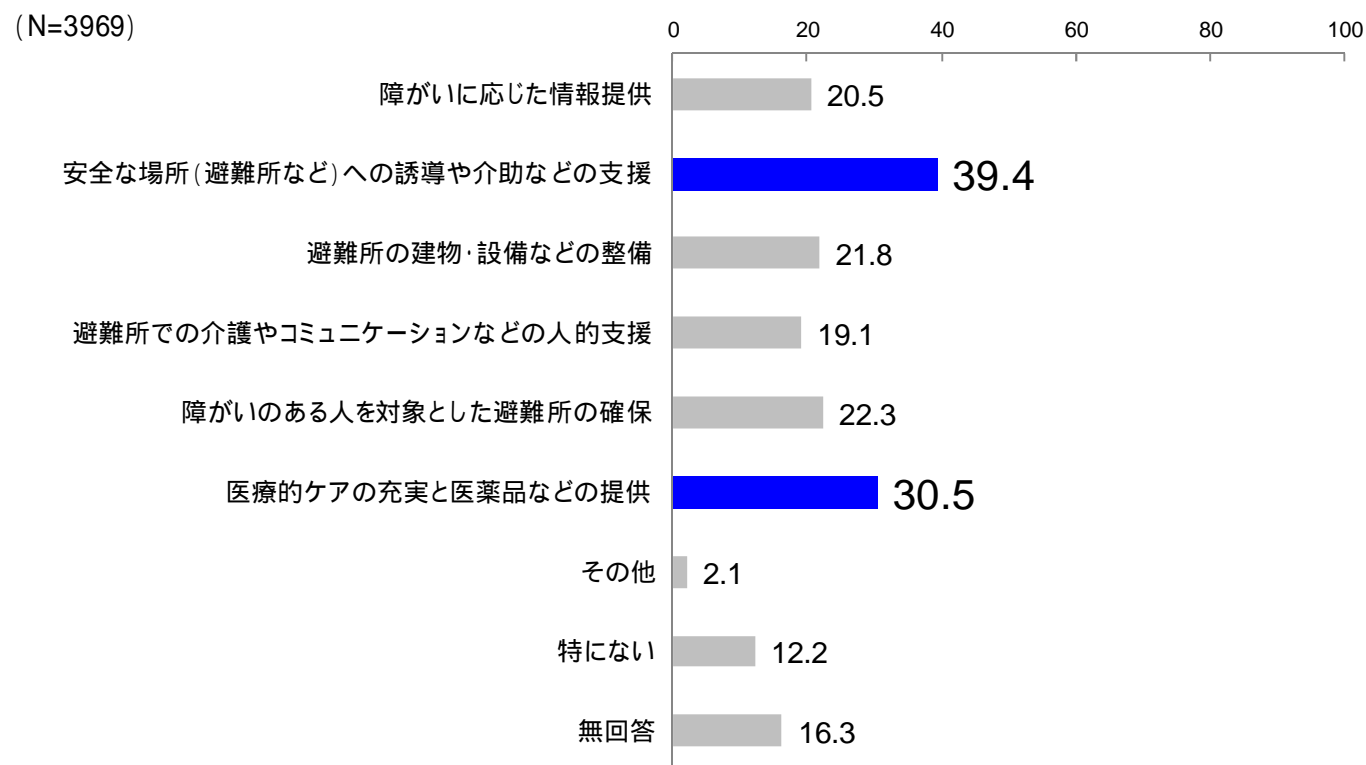
## 問33 障がいを理由に不快 ( 差別 ) や不便さを感じた時 ( クロス集計 )

	N 数	教育を受ける時	働こうとした時、働いている時	趣味・スポーツなどの活動をする時	公共交通機関を利用する時	公共施設 ( 建物・道路・公園など ) などを利用する時	福祉サービスを利用する時	医療機関を利用する時	必要な情報を探したり情報提供を受ける時	住宅の購入または住宅に入居する時	政治活動や選挙に参加する時	家族や周囲の人の理解を得ようとする時	買物や外食などをする時	その他	特にない	無回答
全体	(3969)	3.6	9.8	3.9	11.6	4.6	3.4	6.2	3.1	2.2	1.4	6.7	10.1	3.9	42.8	21.4
身体障がい	(2617)	1.7	5.2	3.7	13.1	5.5	2.8	5.6	2.9	1.4	1.1	3.6	11.4	2.9	44.6	22.9
知的障がい	(456)	13.9	11.1	4.7	12.5	6.2	5.3	8.7	3.9	3.5	3.4	8.2	11.0	3.9	34.1	24.3
精神障がい	(1002)	5.5	21.3	3.8	9.6	2.3	5.3	7.4	3.8	5.1	1.8	15.1	7.6	6.1	39.2	16.0
発達障がい	(221)	20.9	15.9	4.2	13.7	6.1	6.3	10.9	3.1	3.6	1.2	15.5	10.2	4.9	26.4	19.2
高次脳機能障がい	(86)	2.7	11.3	7.7	14.1	3.1	2.3	5.6	1.3	2.6	4.6	9.9	21.1	5.6	34.7	24.8
難病	(170)	3.1	10.9	6.6	15.7	6.9	3.5	10.0	2.8	2.1	4.6	6.5	9.5	6.3	46.1	16.8

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 30 )

## 問35 災害時に必要と思うこと

- 「安全な場所（避難所など）への誘導や介助などの支援」（39.4%）が最も多く、次いで「医療的ケアの充実と医薬品などの提供」（30.5%）となっている。



前回調査結果（回答の多いもの）

- 安全な場所（避難所など）への誘導や介助などの支援 42.8
- 医療的ケアの充実と医薬品などの提供 28.7
- 障がいのある人を対象とした避難所の確保 23.6

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 31 )

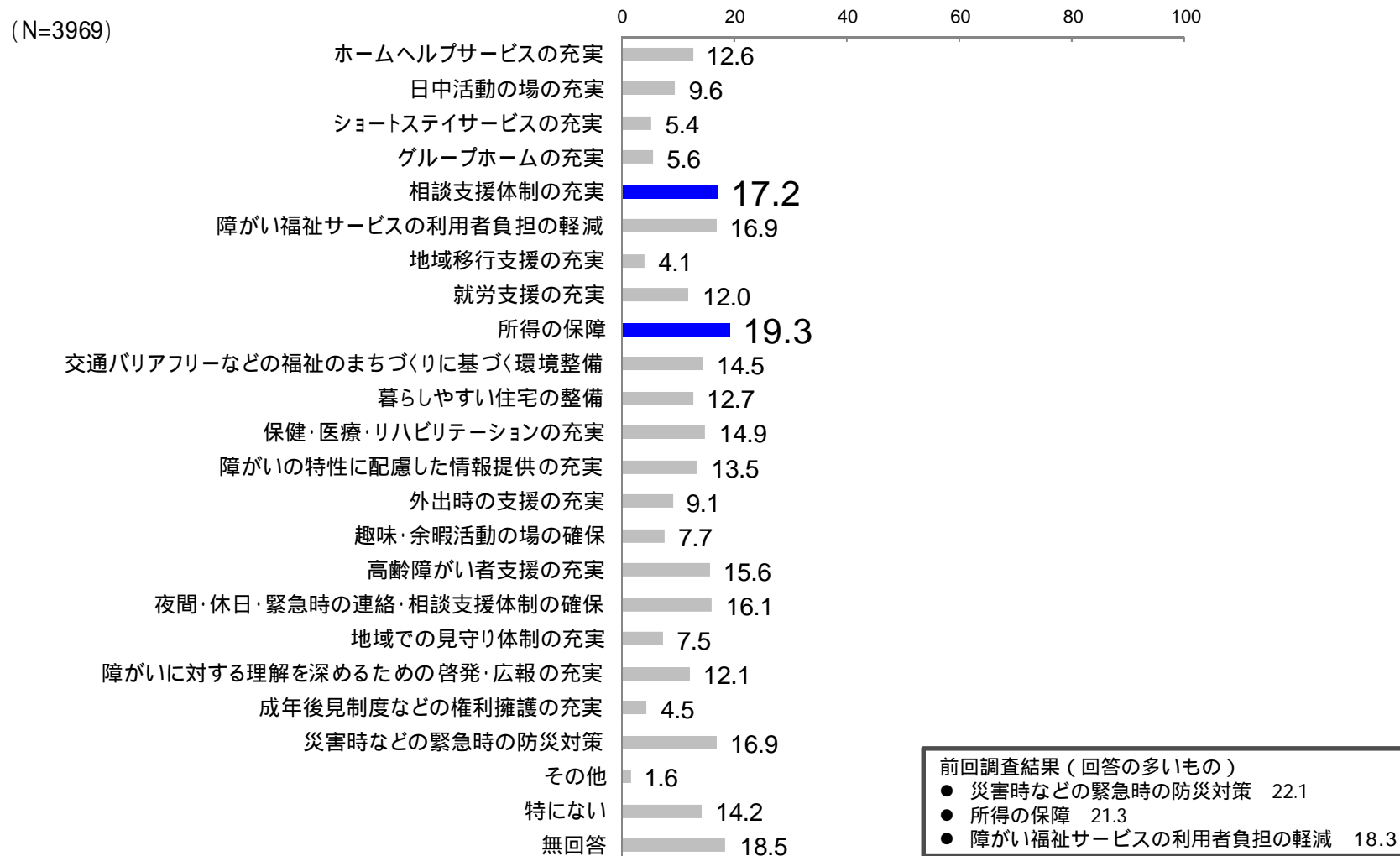
## 問35 災害時に必要と思うこと ( クロス集計 )

	N 数	障がいに応じた情報提供	安全な場所 ( 避難所など ) への誘導や 介助などの支援	避難所の建物・設備などの整備	避難所での介護やコミュニケーション などの人的支援	障がいのある人を対象とした避難所の 確保	医療的ケアの充実と医薬品などの提供	その他	特にな い	無回 答
全体	(3969)	20.5	39.4	21.8	19.1	22.3	30.5	2.1	12.2	16.3
身体障がい	(2617)	18.8	42.0	20.4	16.9	21.7	27.1	1.7	11.5	18.0
知的障がい	(456)	28.1	43.5	21.3	31.7	36.5	22.2	1.7	11.2	15.1
精神障がい	(1002)	23.5	32.4	24.1	21.5	20.6	43.8	2.9	14.1	11.8
発達障がい	(221)	32.9	39.9	24.8	32.9	37.7	26.0	3.1	6.3	14.8
高次脳機能障がい	(86)	15.4	35.9	19.5	15.4	17.1	18.6	2.6	16.7	16.8
難病	(170)	24.8	41.6	22.6	24.7	25.7	36.5	1.7	7.4	15.1

# 調査票 A 1 の結果概要 ( 32 )

## 問36 障がい者施策全般について望むこと

- 「所得の保障」( 19.3% ) が最も多く、次いで「相談支援体制の充実」( 17.2% ) となっている。



# 調査票 A 1 の結果概要 ( 33 )

## 問36 障がい者施策全般について望むこと (クロス集計)

	N 数	ホームヘルプサービスの充実	日中活動の場の充実	ショートステイサービスの充実	グループホームの充実	相談支援体制の充実	障がい福祉サービスの利用者負担の軽減	地域移行支援の充実	就労支援の充実	所得の保障	交通バリアフリーなどの福祉のまちづくりに基づく環境整備	暮らしやすい住宅の整備	保健・医療・リハビリテーションの充実	障がいの特性に配慮した情報提供の充実	外出時の支援の充実	趣味・余暇活動の場の確保	高齢障がい者支援の充実	夜間・休日・緊急時の連絡・相談支援体制の確保	地域での見守り体制の充実	障がいに対する理解を深めるための啓発・広報の充実	成年後見制度などの権利擁護の充実	災害時などの緊急時の防災対策	その他	特 に ない
全体	(3969)	12.6	9.6	5.4	5.6	17.2	16.9	4.1	12.0	19.3	14.5	12.7	14.9	13.5	9.1	7.7	15.6	16.1	7.5	12.1	4.5	16.9	1.6	14.2
身体障がい	(2617)	13.7	6.4	4.9	3.6	12.3	16.4	2.9	4.9	13.6	17.2	12.8	15.0	10.2	8.7	5.2	19.4	14.5	6.3	7.6	2.8	16.6	1.4	14.6
知的障がい	(456)	15.8	23.0	12.3	20.6	24.7	18.0	7.6	23.6	24.8	11.5	12.5	12.4	21.8	16.9	16.2	10.6	16.1	12.6	24.0	15.4	19.9	1.4	11.1
精神障がい	(1002)	11.0	14.2	4.2	5.3	28.3	17.9	6.4	24.5	30.6	10.4	14.5	16.9	19.7	9.0	11.8	10.1	22.2	9.3	20.8	5.9	18.8	2.0	14.6
発達障がい	(221)	9.5	23.4	10.7	14.8	34.7	22.7	8.2	34.2	32.4	11.6	12.5	15.8	31.3	15.2	16.7	7.3	18.1	12.8	36.5	13.7	20.5	2.8	4.7
高次脳機能障がい	(86)	12.2	9.3	7.1	4.7	19.0	22.1	6.8	10.3	19.1	18.1	11.1	19.2	9.6	5.7	12.8	22.8	9.6	14.8	11.7	7.0	16.6	0.9	10.7
難病	(170)	12.6	11.5	10.1	5.3	16.0	17.6	4.9	12.0	29.1	16.0	9.4	11.9	17.5	12.7	3.6	17.3	13.5	3.7	13.4	5.0	18.5	5.9	11.7



# 障がい者等基礎調査票（家族用）

---

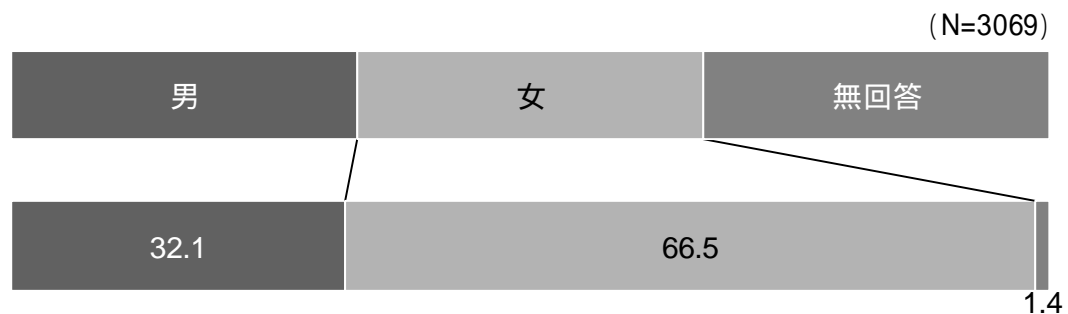
## 調査票 A 2

回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票 A 2 の結果概要 ( 1 )

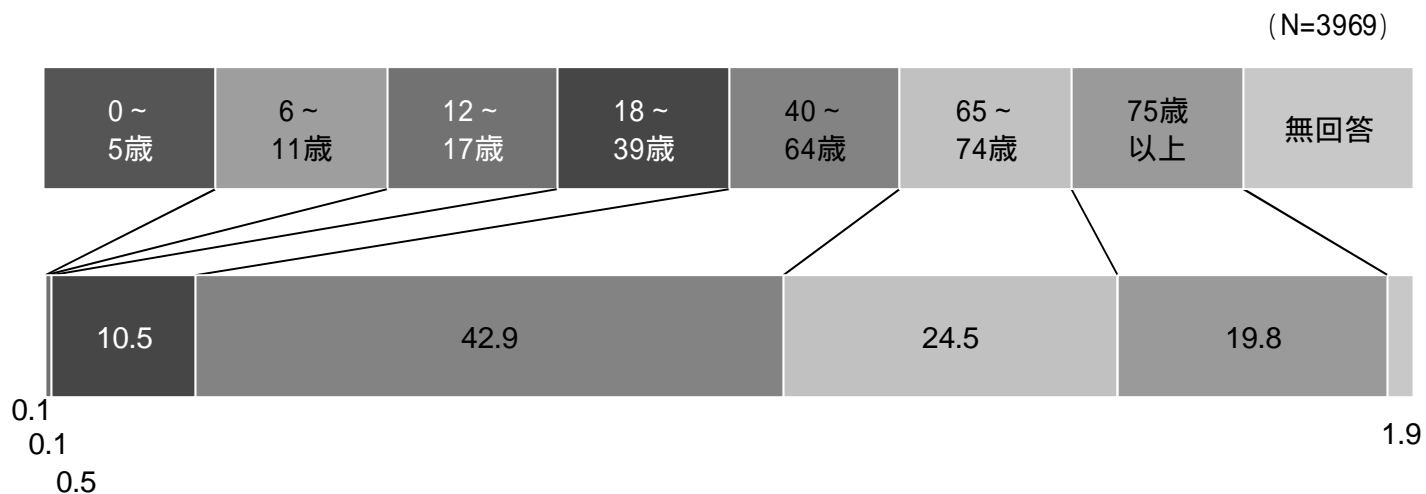
## 問2 家族の性別

- 「男性」 ( 32.1% ) 、 「女性」 ( 66.5% ) となっている



## 問3 家族の満年齢

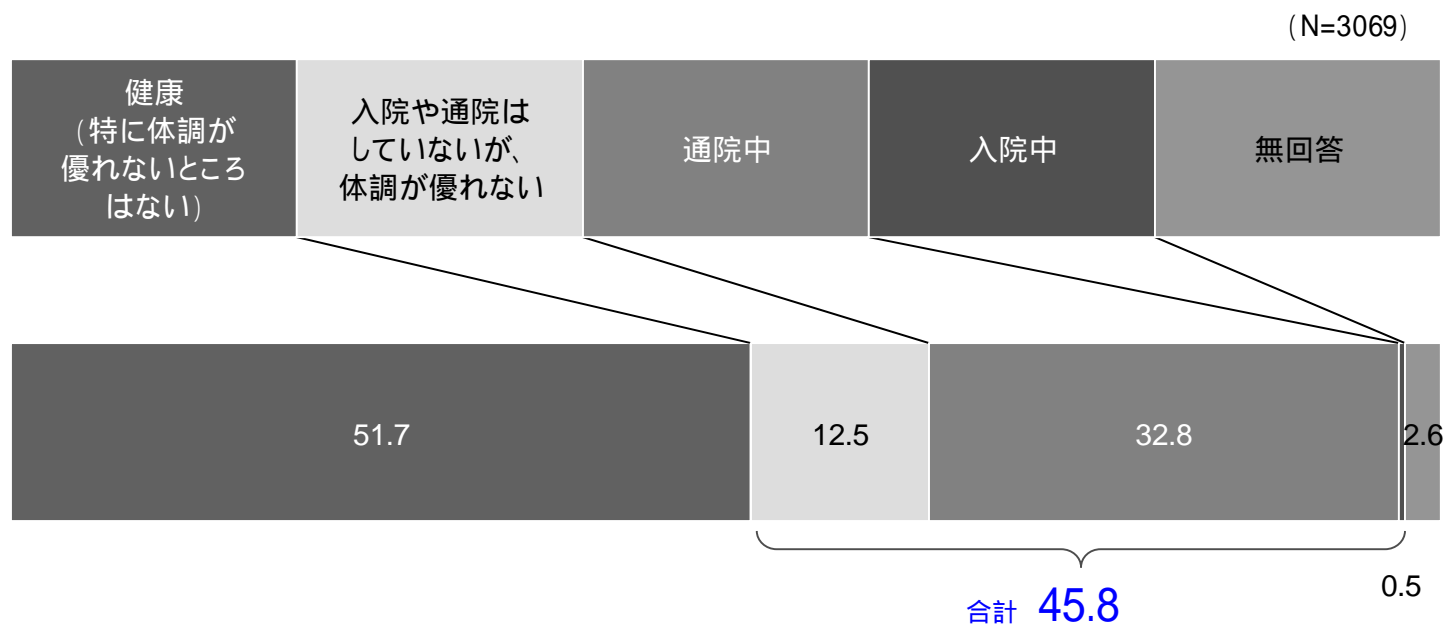
- 「40～64歳」 ( 42.9% ) が最も多い。



## 調査票 A 2 の結果概要 ( 2 )

### 問4 家族の健康状態

- 「入院や通院はしていないが体調が優れない」、「通院中」、「入院中」と答えた方が 4 割を超えている。



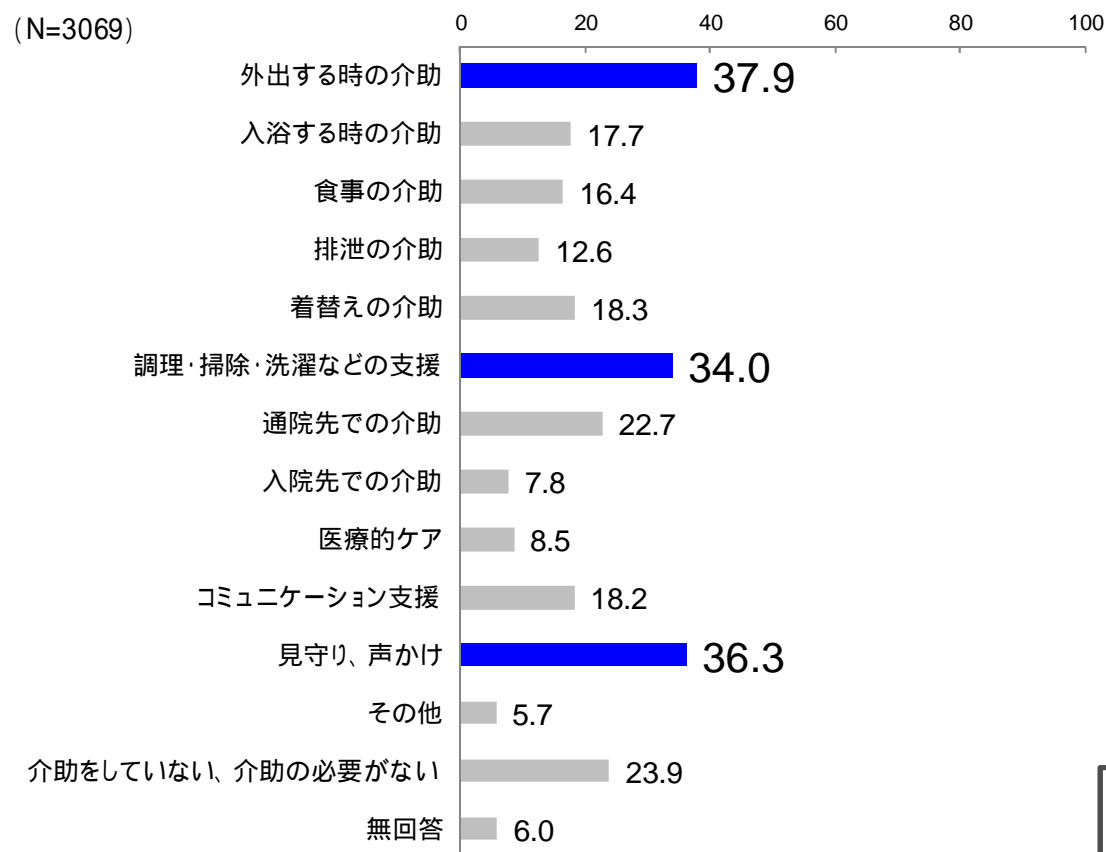
#### 前回調査結果

- 体調が優れない・通院中・入院中の方の割合 45.8

## 調査票 A 2 の結果概要 ( 3 )

### 問14 介助の内容

- 「外出する時の介助」( 37.9% ) が最も多く、次いで「見守り、声かけ」( 36.3% )、「調理・掃除・洗濯などの支援」( 34.0% ) となっている。



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

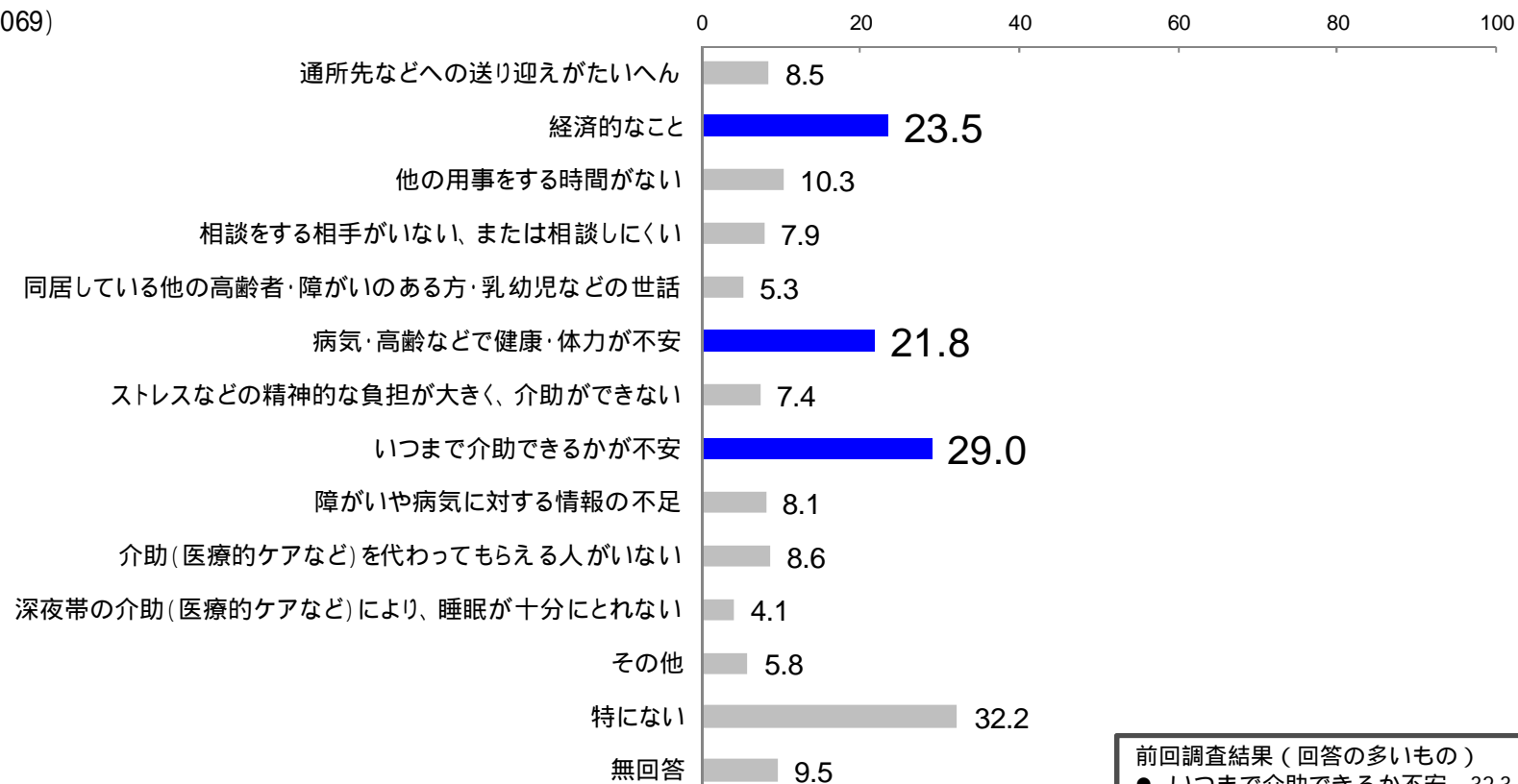
- 外出をする時の介助 40.3
- 見守り、声かけ 37.5
- 調理・掃除・洗濯などの支援 34.5

## 調査票 A 2 の結果概要 ( 4 )

### 問15 介助するうえで困っていること

- 「いつまで介助できるかが不安」( 29.0% )、「経済的なこと」( 23.5% )、「病気・高齢などで健康・体力が不安」( 21.8% )といった回答が多い。

(N=3069)



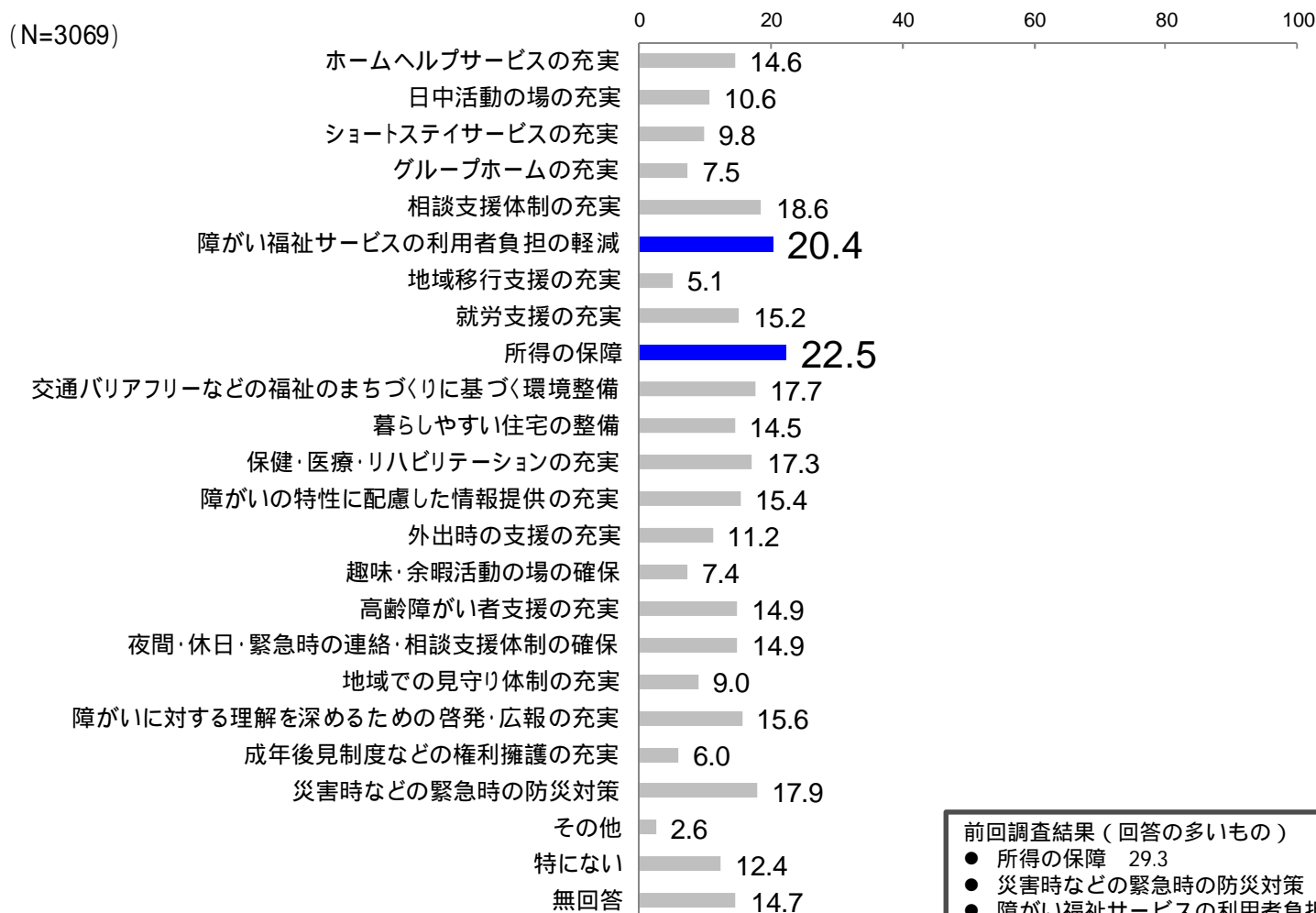
前回調査結果(回答の多いもの)

- いつまで介助できるか不安 32.3
- 経済的なこと 28.3
- 病気、高齢などで健康・体力が不安 21.4

# 調査票 A 2 の結果概要 ( 5 )

## 問22 障がい者施策全般に望むこと

- 「所得の保障」 ( 22.5% ) が最も多く、次いで「障がい福祉サービスの利用者負担の軽減」 ( 20.4% ) 。



# 障がい福祉サービス事業者等調査票

---

## 調査票 B

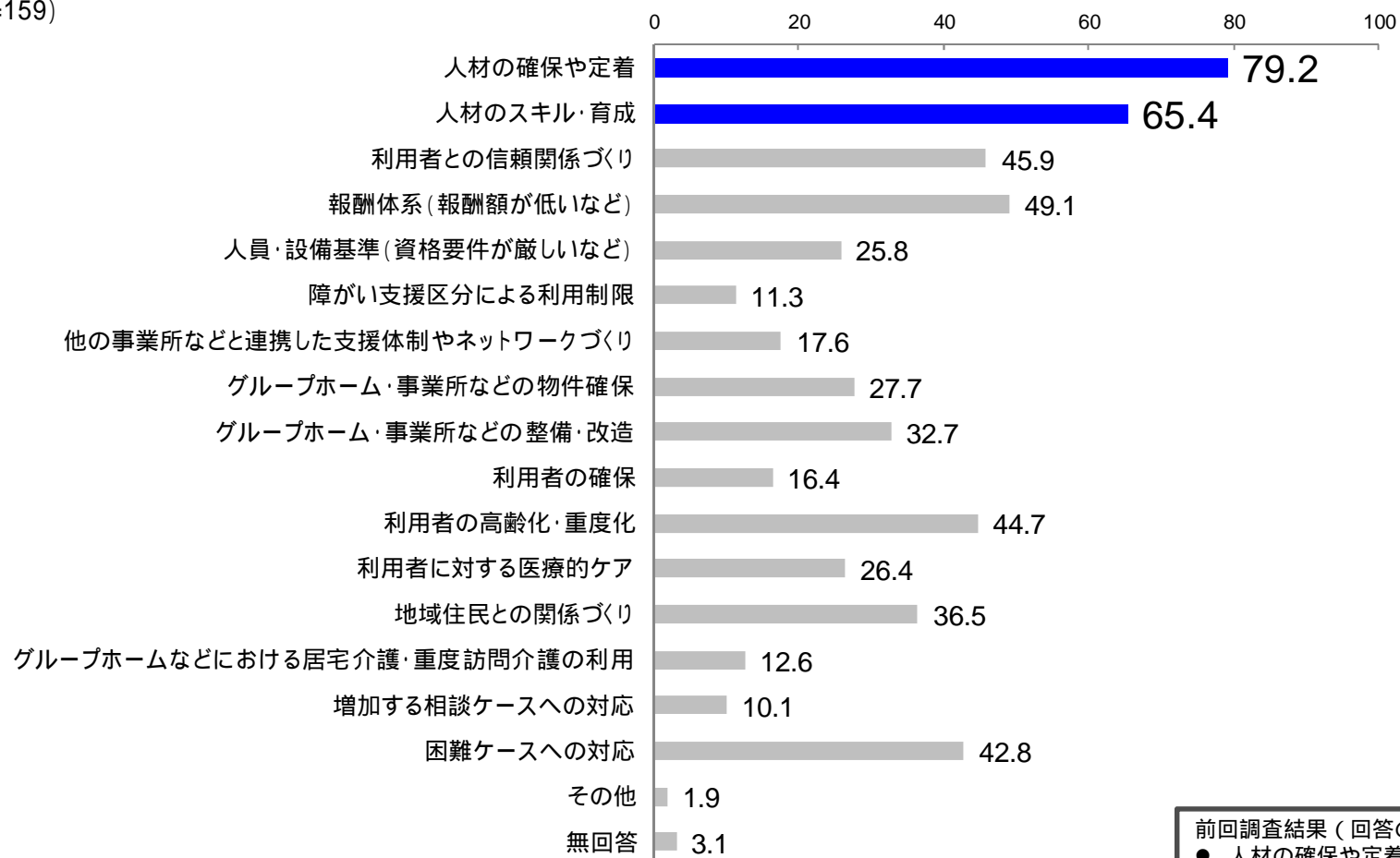
回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票 B の結果概要 ( 1 )

## 問2 課題と思うこと ( 居住系サービス )

- 「人材の確保や定着」 ( 79.2% ) が最も多く、次いで「人材のスキル・育成」 ( 65.4% ) となっている。

( N=159 )



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 人材の確保や定着 84.5
- 人材のスキル・育成 73.8

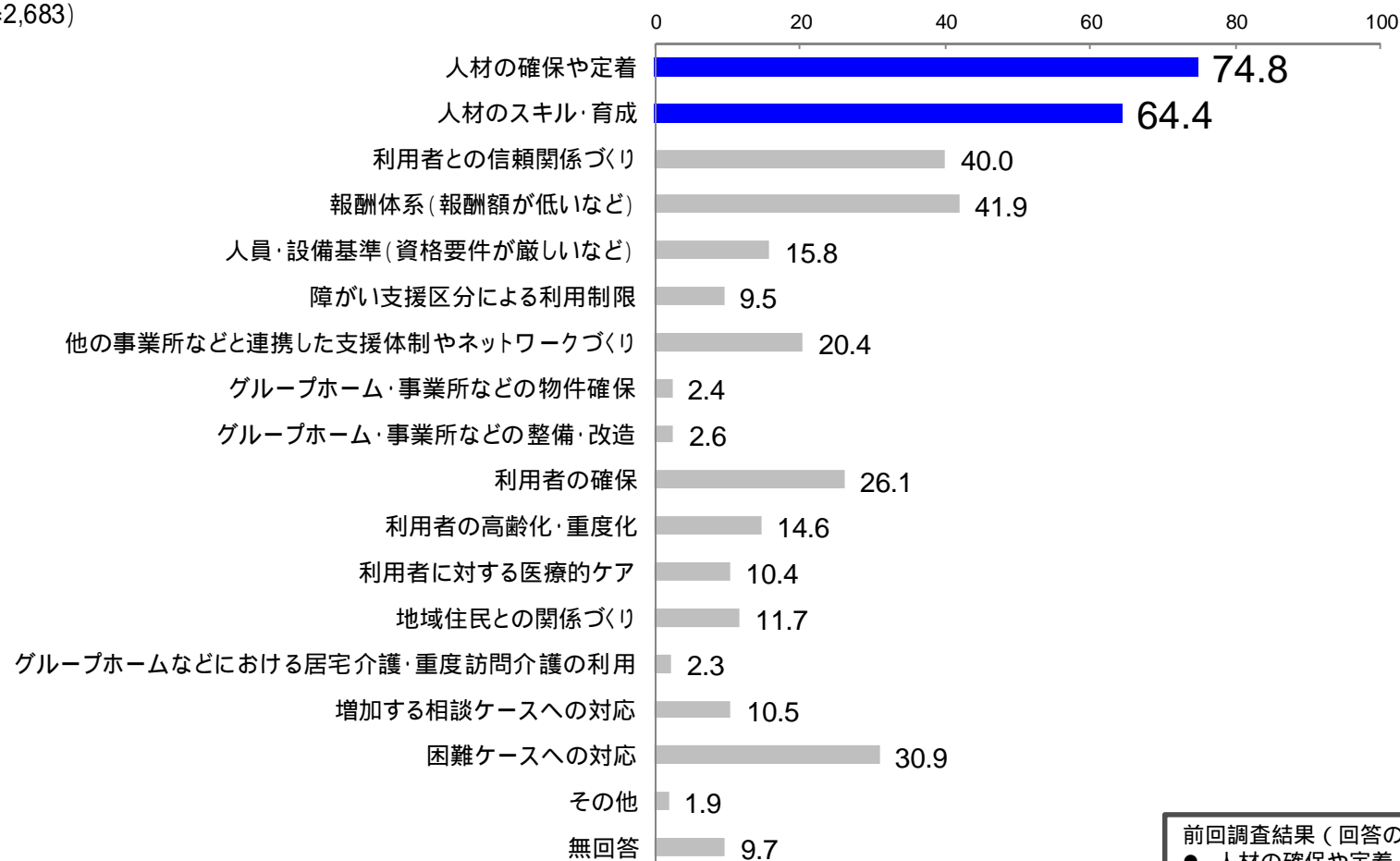


## 調査票 B の結果概要 ( 2 )

### 問2 課題と思うこと ( 訪問系・短期入所・日中活動系サービス )

- 「人材の確保や定着」 ( 74.8% ) が最も多く、次いで「人材のスキル・育成」 ( 64.4% ) となっている。

( N=2,683 )



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

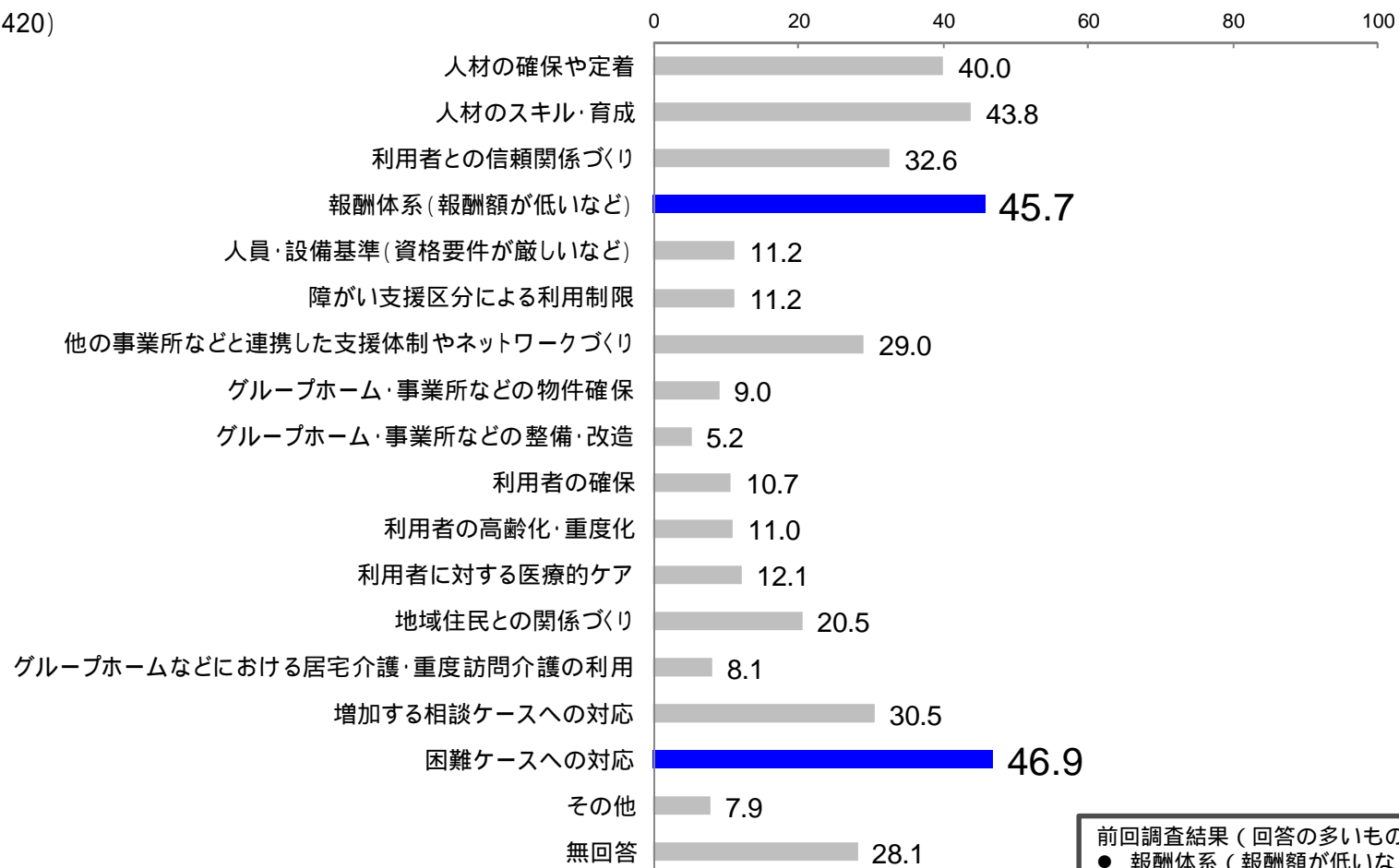
- 人材の確保や定着 77.9
- 人材のスキル・育成 64.2

## 調査票 B の結果概要 ( 3 )

### 問2 課題と思うこと ( 相談支援系サービス )

- 「困難ケースへの対応」 ( 46.9% ) が最も多く、次いで「報酬体系 ( 報酬額が低いなど )」 ( 45.7% ) となっている。

( N=420 )

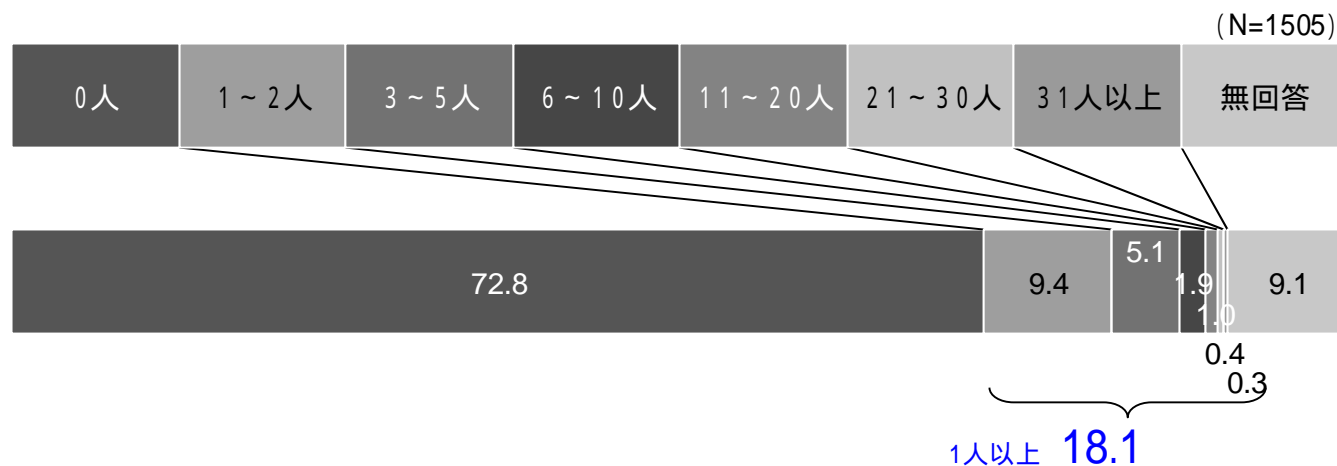


前回調査結果 ( 回答の多いもの )  
● 報酬体系 ( 報酬額が低いなど ) 77.9  
● 困難ケースへの対応 69.8

## 調査票 B の結果概要 ( 4 )

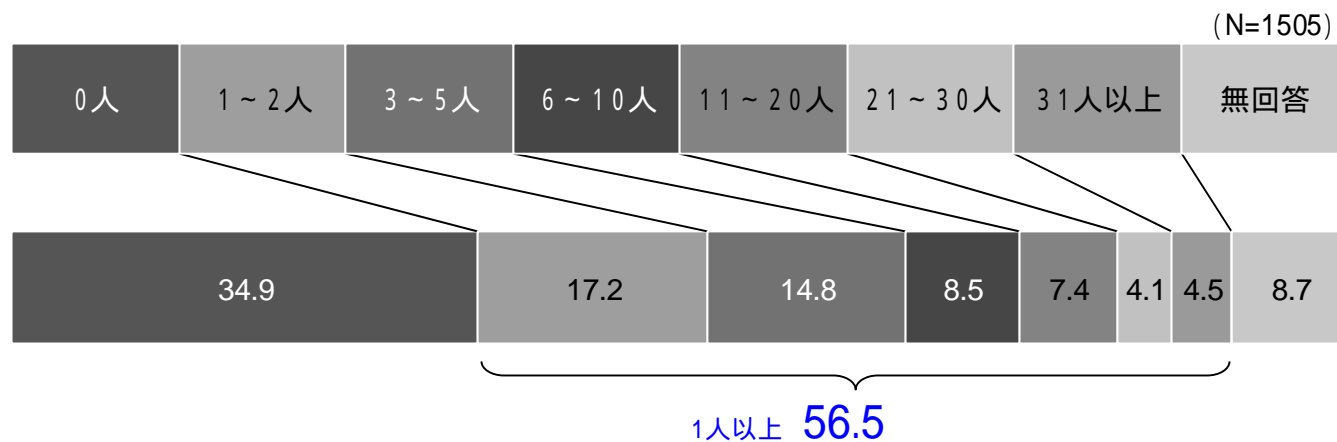
### 問4 強度行動障がいのある方の利用者数

- 約 2 割の事業所が1人以上を回答している。



### 問7 発達障がいのある方の利用者数

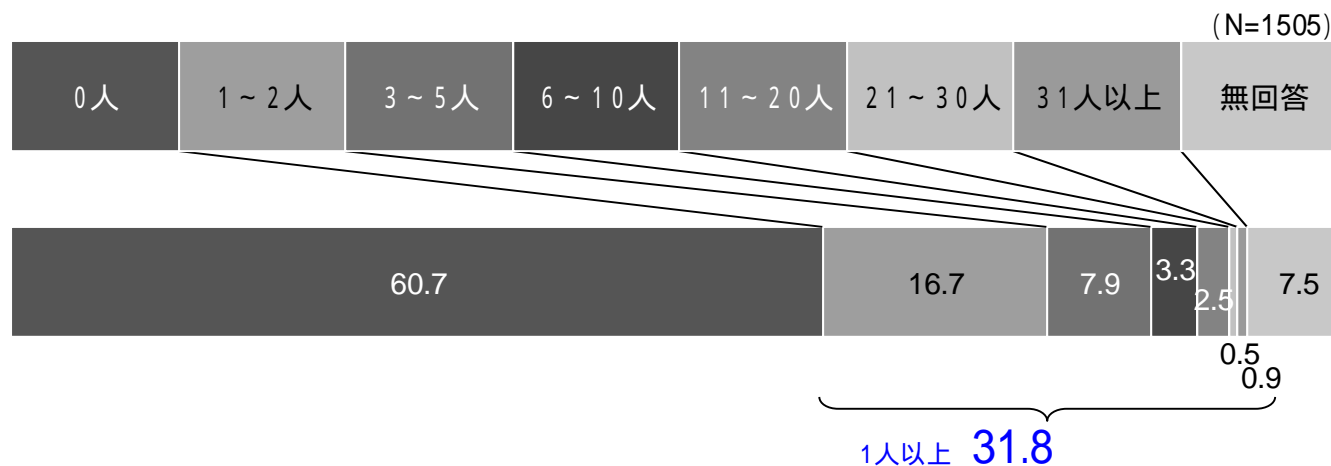
- 5 割を超える事業所が1人以上を回答している。



## 調査票 B の結果概要 ( 5 )

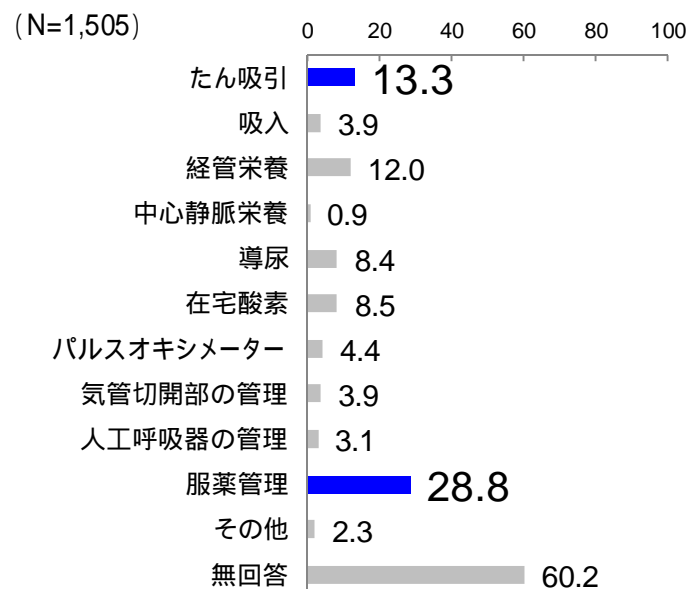
### 問10 医療的ケアの必要な方の利用者数

- 約 3 割の事業所が 1人以上を回答している。



### 問11 利用者が必要としている医療的ケア

- 「服薬管理」( 28.8% ) が最も多く、次いで「たん吸引」( 13.3% ) となっている。



# 大阪市発達障がい者支援センター ・発達障がい児専門療育機関 利用者アンケート

---

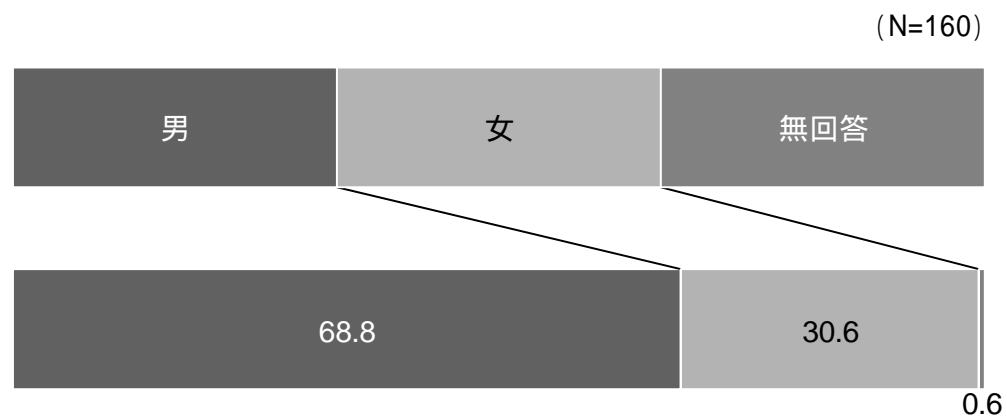
## 調査票 C

回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票Cの結果概要(1)

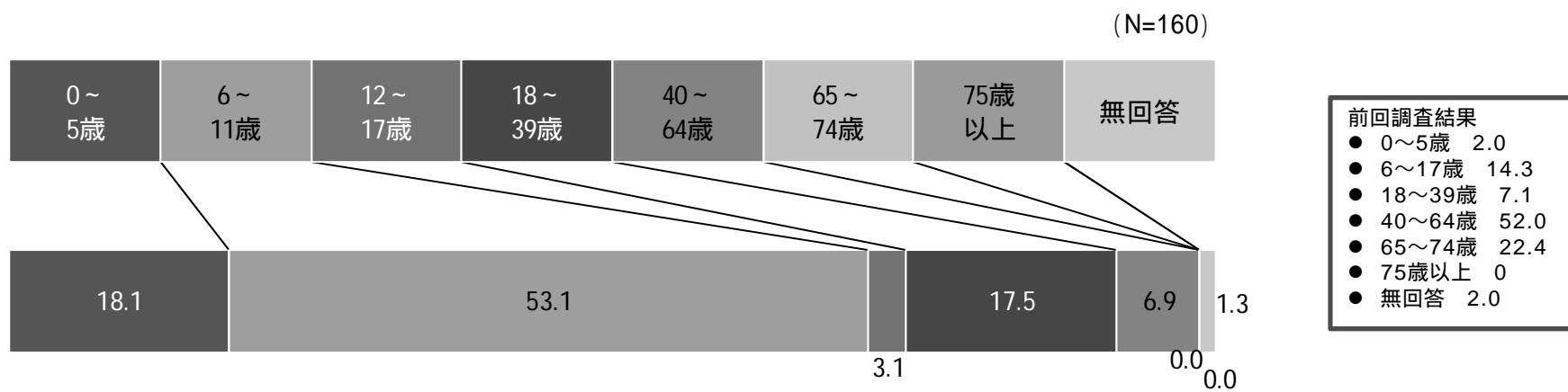
## 問2 性別

- 「男性」(68.8%)、「女性」(30.6%)となっている。



## 問3 満年齢

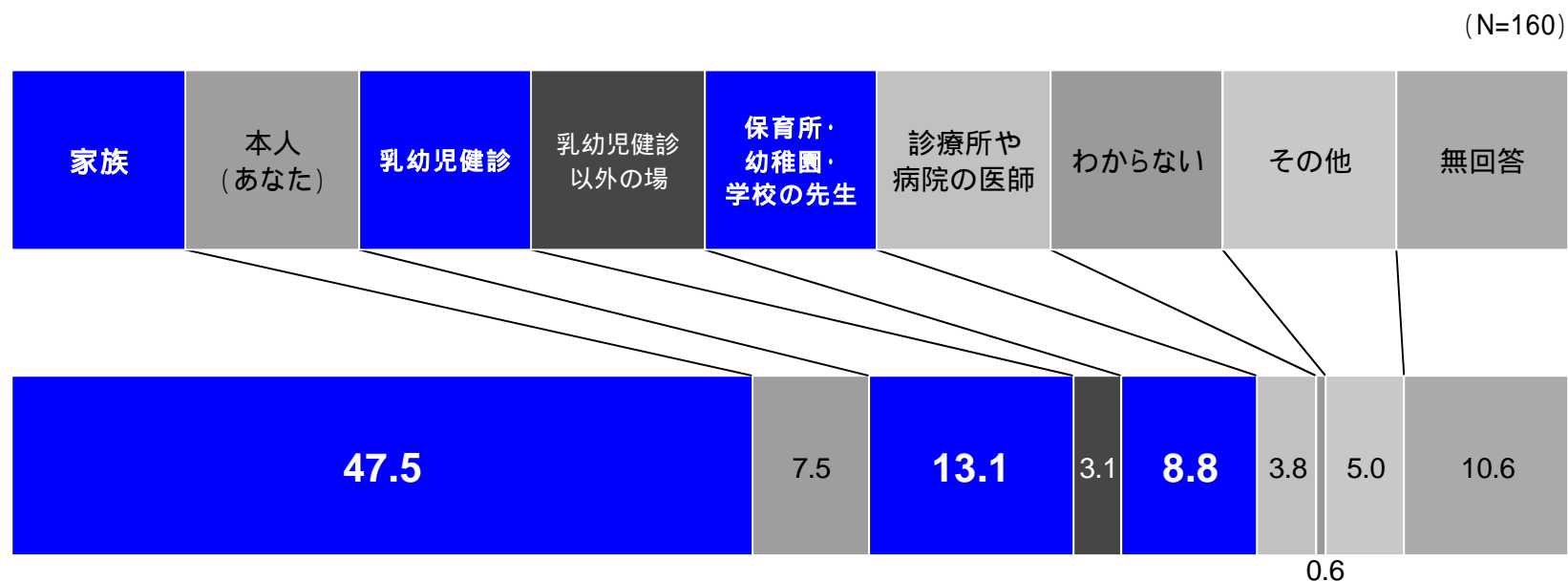
- 「6~11歳」(53.1%)が最も多く、次いで「0~5歳」(18.1%)、「18~39歳」(17.5%)となっている。



## 調査票Cの結果概要(2)

### 問25 発達障がいの可能性があると感じた方

- 「家族」(47.5%)が最も多く、次いで「乳幼児健診」(13.1%)、「保育所・幼稚園・学校の先生」(8.8%)となっている。



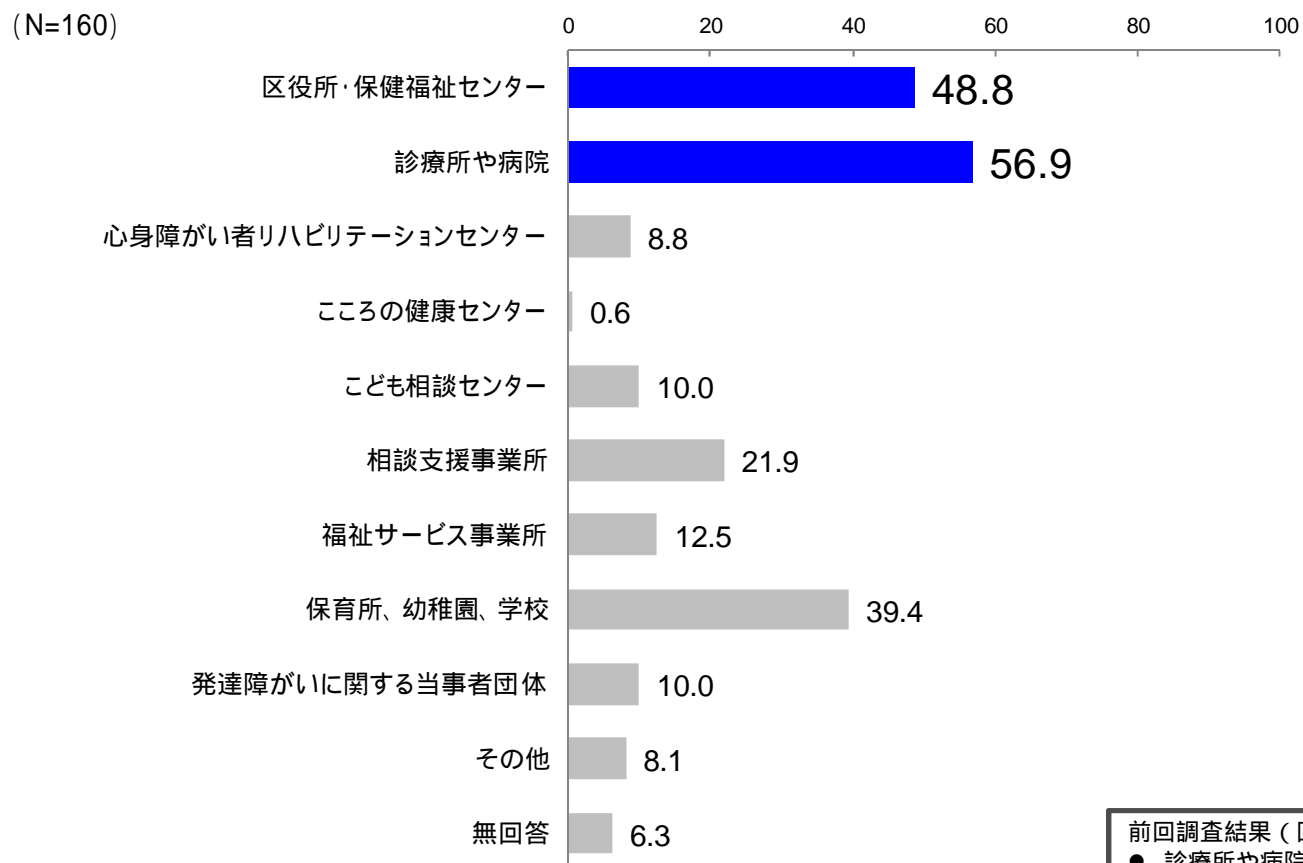
前回調査結果(回答の多いもの)

- 家族 54.1
- 本人(あなた) 26.5
- 診療所や病院の医師 21.4

## 調査票Cの結果概要(3)

### 問26 エルムおおさか以外の相談先

- 「診療所や病院」(56.9%)が最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」(48.8%)となっている。



前回調査結果(回答の多いもの)

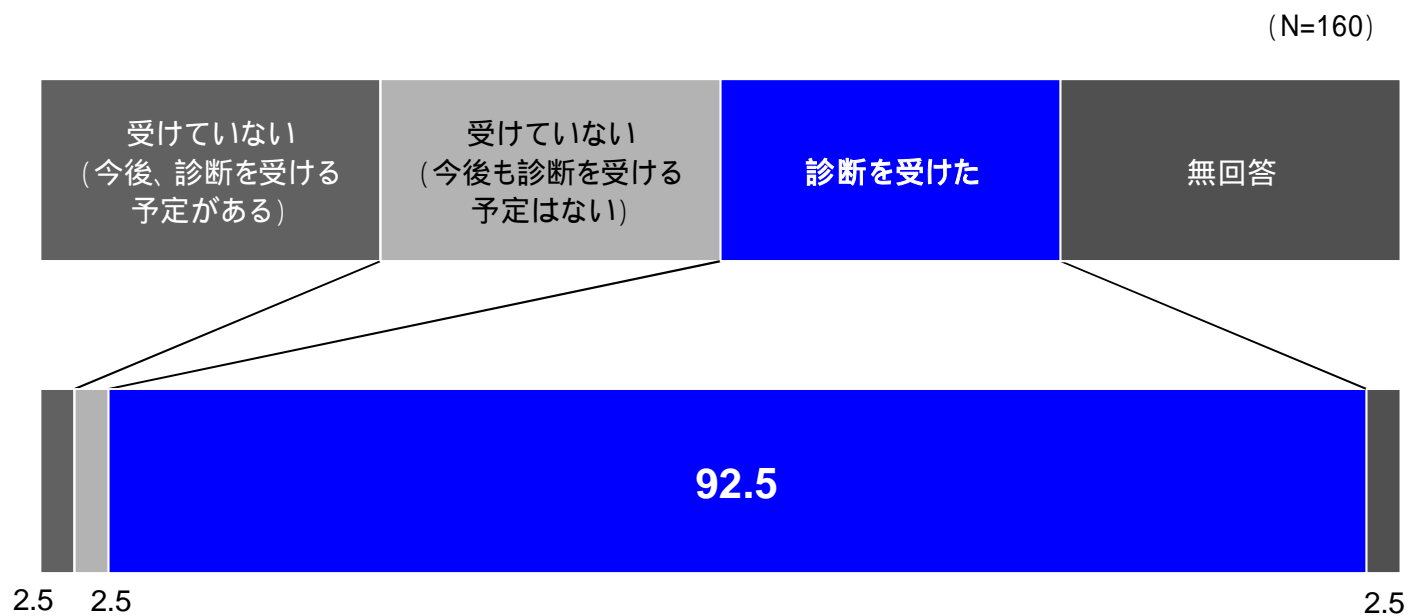
- 診療所や病院 44.9
- 区保健福祉センター 19.4
- 福祉サービス事業所 12.2



## 調査票Cの結果概要(4)

### 問27 発達障がいに関する診断

- 約9割の方が、発達障がいに関する診断を受けている。



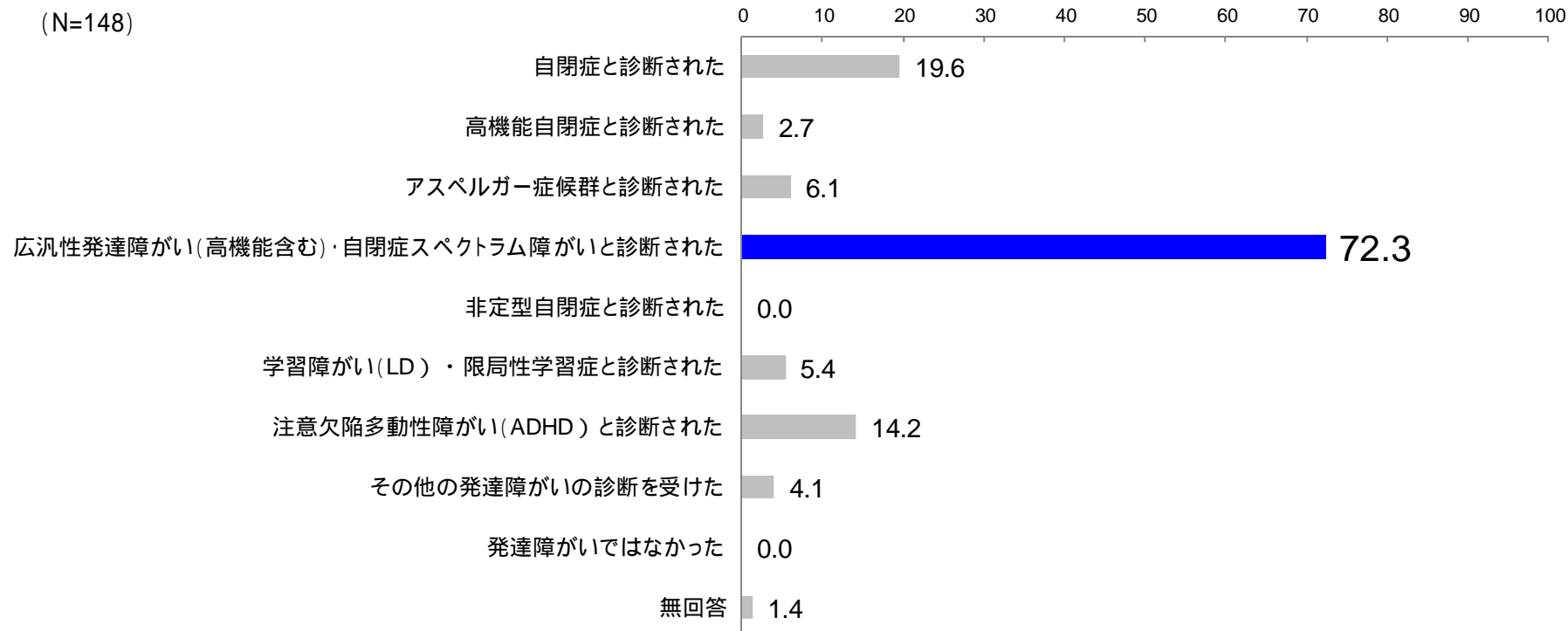
前回調査結果

- 診断を受けた方の割合 81.6

## 調査票Cの結果概要(5)

### 問27 発達障がいの診断名

- 「広汎性発達障がい(高機能含む)・自閉症スペクトラム障がいと診断された」(72.3%)が最も多い。



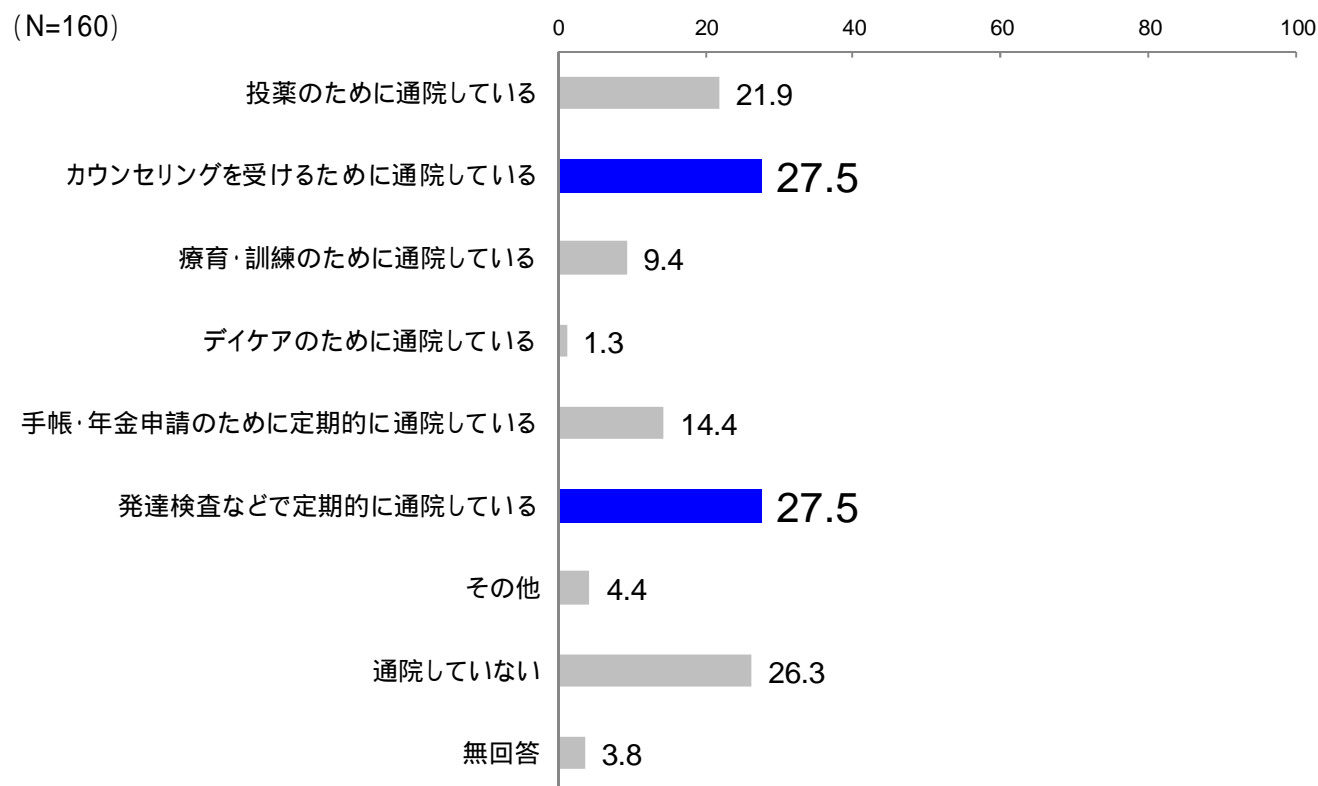
#### 前回調査結果(回答の多いもの)

- 広汎性発達障がい(高機能含む)・自閉症スペクトラム障がいと診断された 67.5
- アスペルガー症候群と診断された 21.3
- AD/HD(注意欠陥/多動性障がい)と診断された 8.8

## 調査票Cの結果概要(6)

### 問28 現在の通院状況

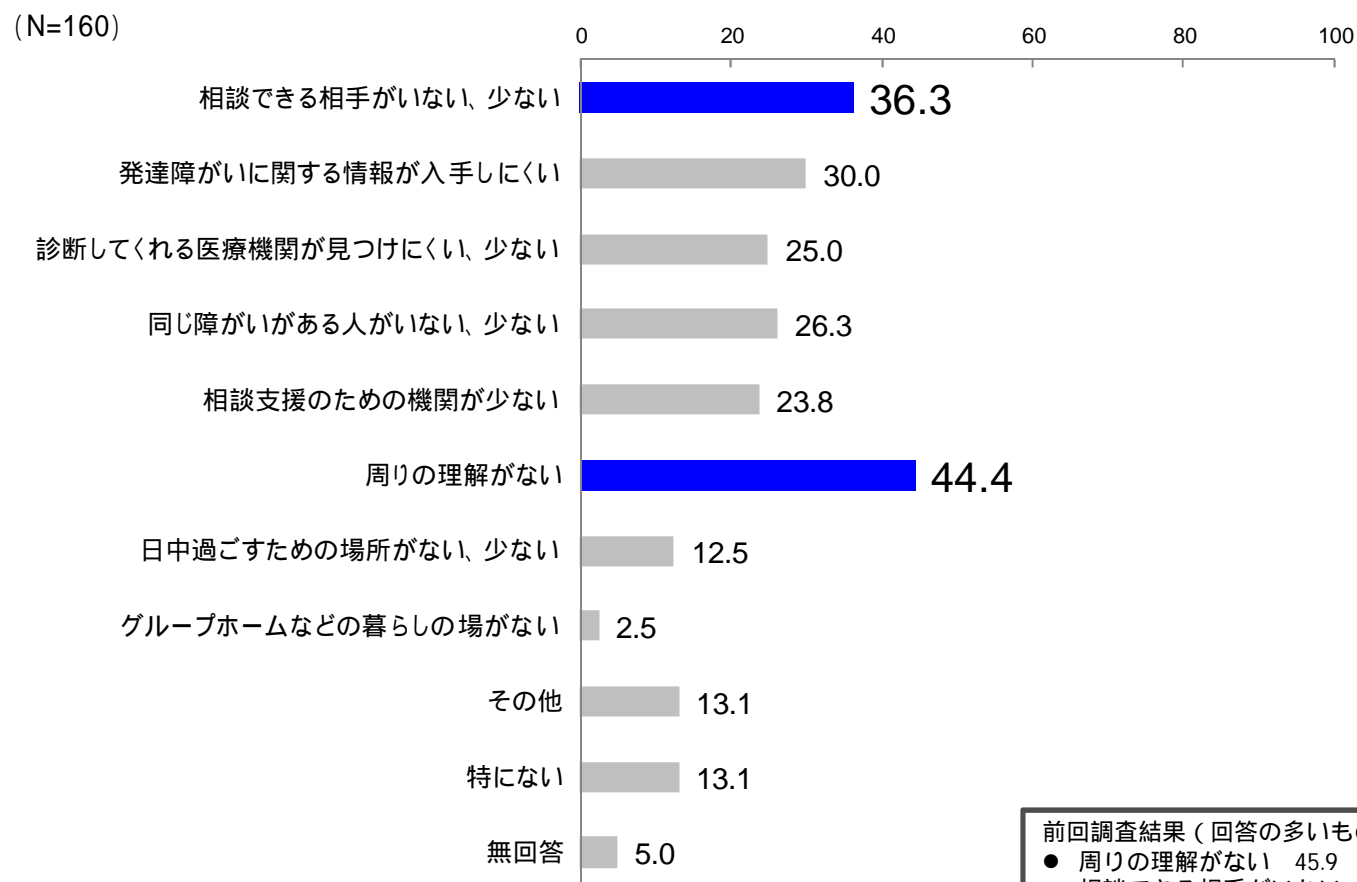
- 「カウンセリングを受けるために通院している」(27.5%)、「発達検査などで定期的に通院している」(27.5%)が最も多い。



## 調査票Cの結果概要(7)

### 問29 発達障がい困っていること

- 「周りの理解がない」(44.4%)が最も多く、次いで「相談できる相手がいない、少ない」(36.3%)となっている。



前回調査結果(回答の多いもの)

- 周りの理解がない 45.9
- 相談できる相手がいない、少ない 42.9
- 相談支援のための機関が少ない 33.7

# 高次脳機能障がいに関する アンケート

---

## 調査票 D

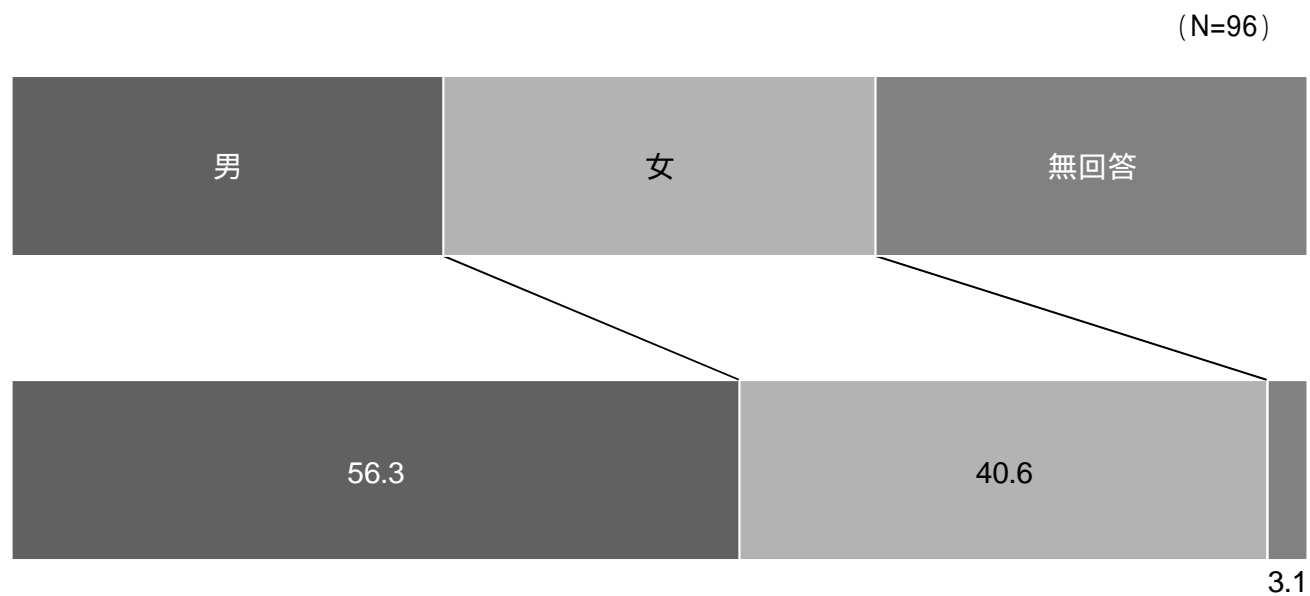
回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

## 調査票Dの結果概要(1)

---

### 問2 性別

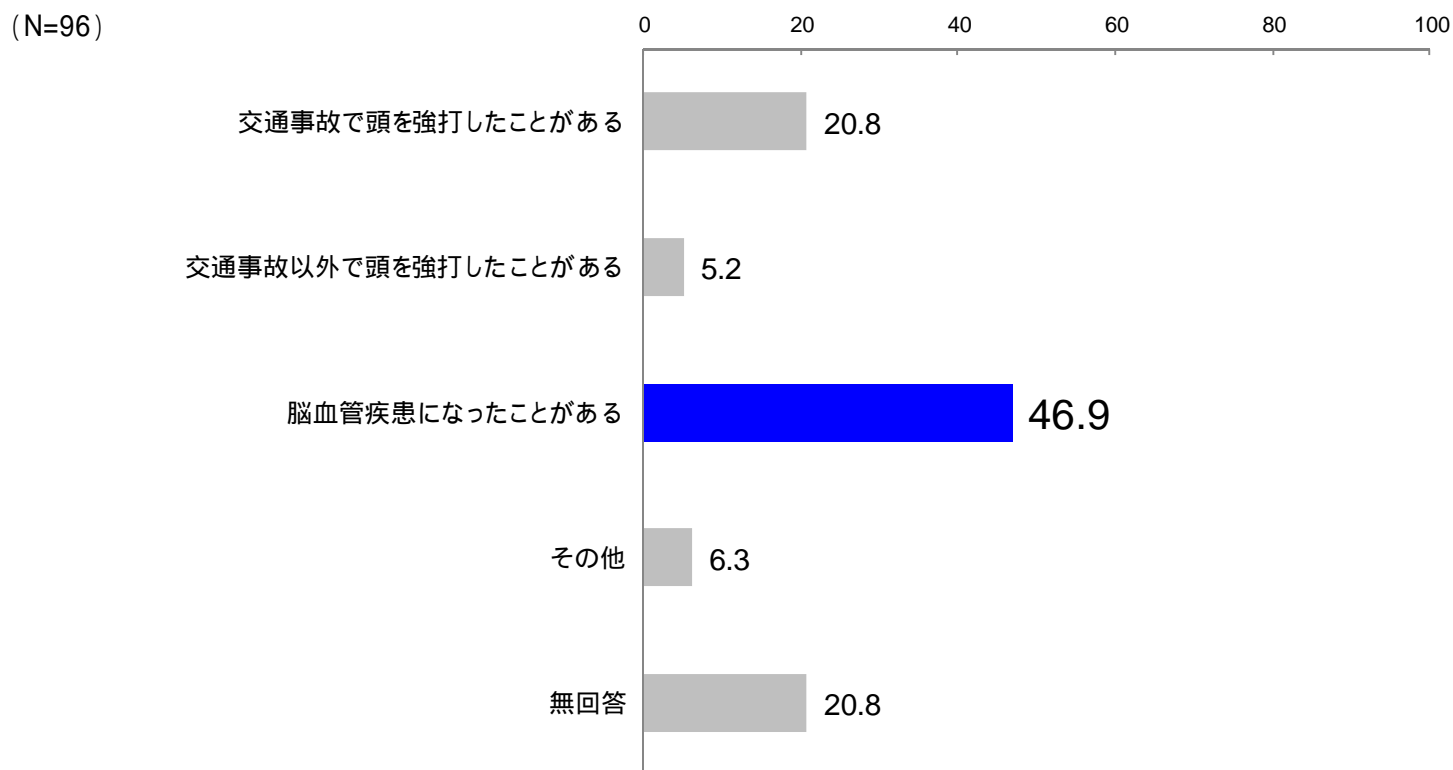
- 「男性」(56.3%)、「女性」(40.6%)となっている。



## 調査票Dの結果概要（2）

### 問33 頭を強打したり、脳血管疾患の経験

- 「脳血管疾患になったことがある」（46.9%）が最も多い。



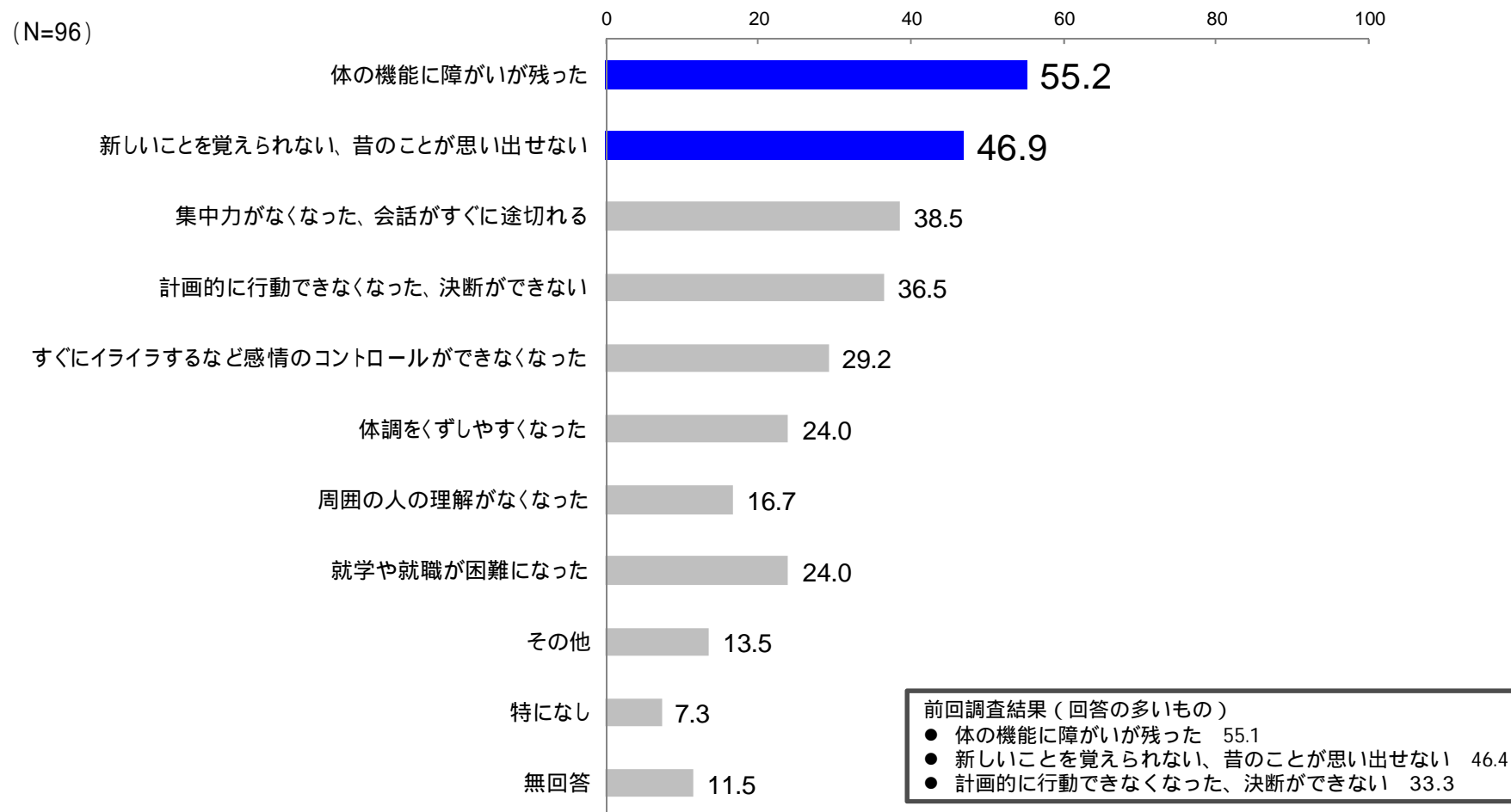
前回調査結果

- 脳血管疾患になったことがある方の割合 46.4

## 調査票Dの結果概要（3）

### 問34 高次脳機能障がい困っていること

- 「体に障がいが残った」（55.2%）が最も多く、次いで「新しいことを覚えられない、昔のことが思い出せない」（46.9%）となっている。





# 障がい者（児）基礎調査票 （施設入所者用）

---

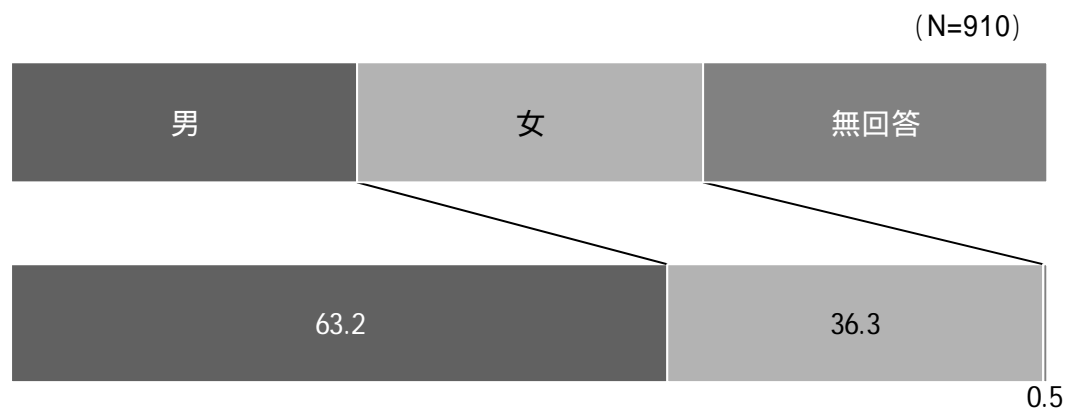
## 調査票 E 1

回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票 E 1 の結果概要 ( 1 )

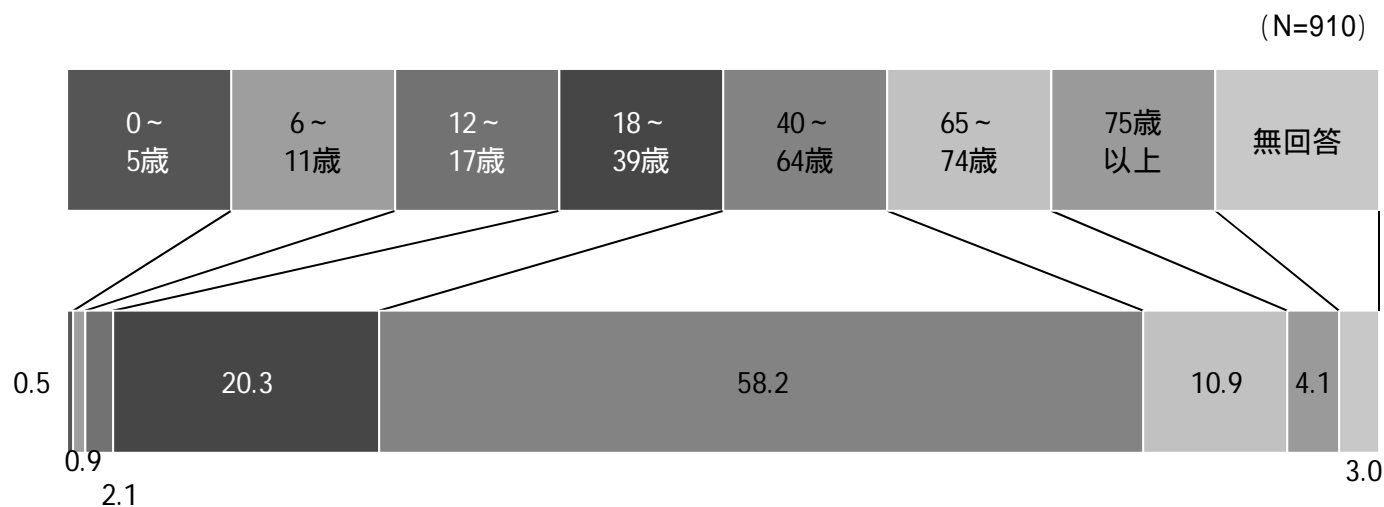
## 問2 性別

- 「男性」 ( 63.2% ) 、 「女性」 ( 36.3% ) となっている。



## 問3 満年齢

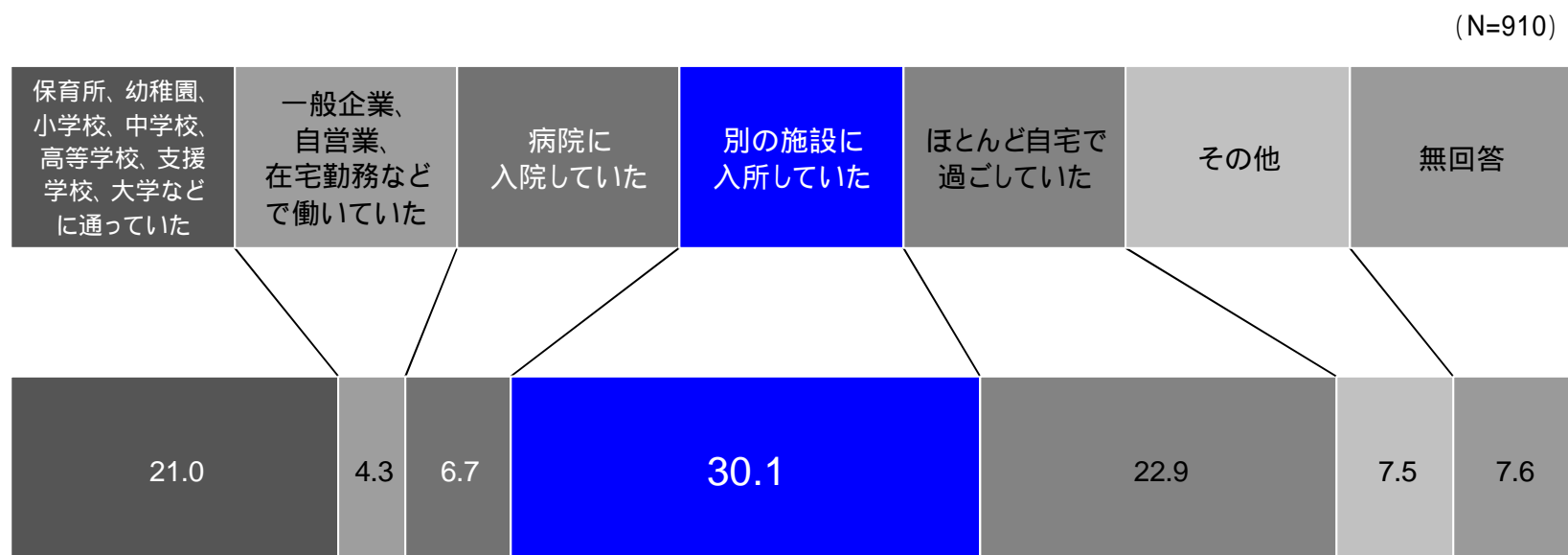
- 「40～64歳」 ( 58.2% ) が最も多い。



## 調査票 E 1 の結果概要 ( 2 )

### 問12 入所前の生活

- 「別の施設に入所していた」 ( 30.1% ) が最も多い。



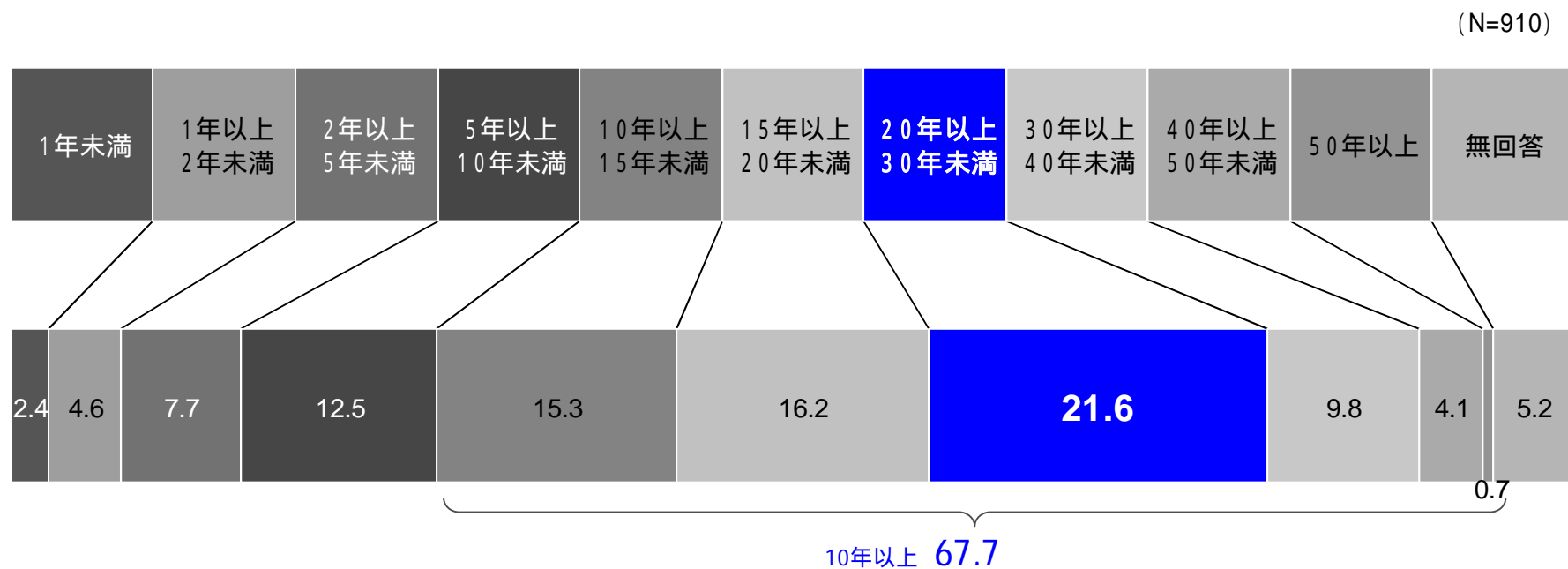
#### 前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 別の施設に入所していた 30.2
- 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、大学などに通っていた 24.7
- ほとんど家で過ごしていた 21.8

## 調査票 E 1 の結果概要 ( 3 )

### 問13 入所期間

- 「20年以上30年未満」(21.6%) が最も多く、10年以上の合計では約7割となっている。



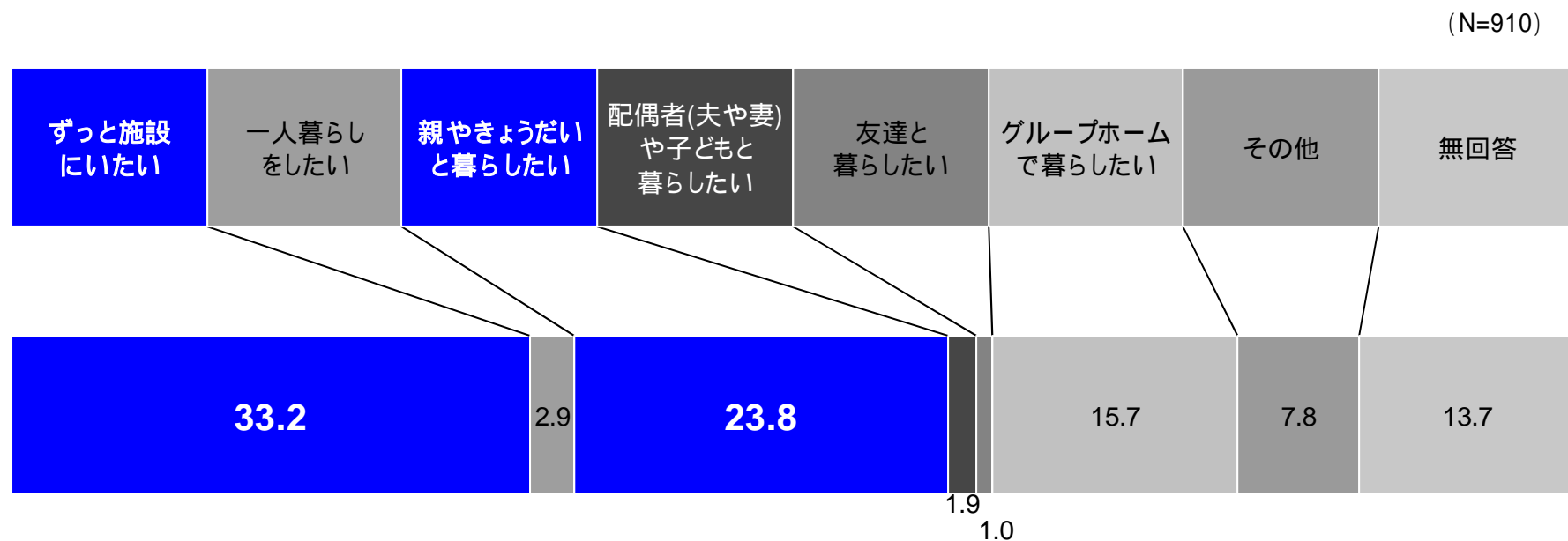
前回調査結果

- 入所期間が10年以上の方の割合 65.1

## 調査票 E 1 の結果概要 (4)

### 問20 地域移行したいと思うか

- 「ずっと施設にいたい」(33.2%) が最も多く、次いで「親やきょうだいと暮らしたい」(23.8%) となっている。



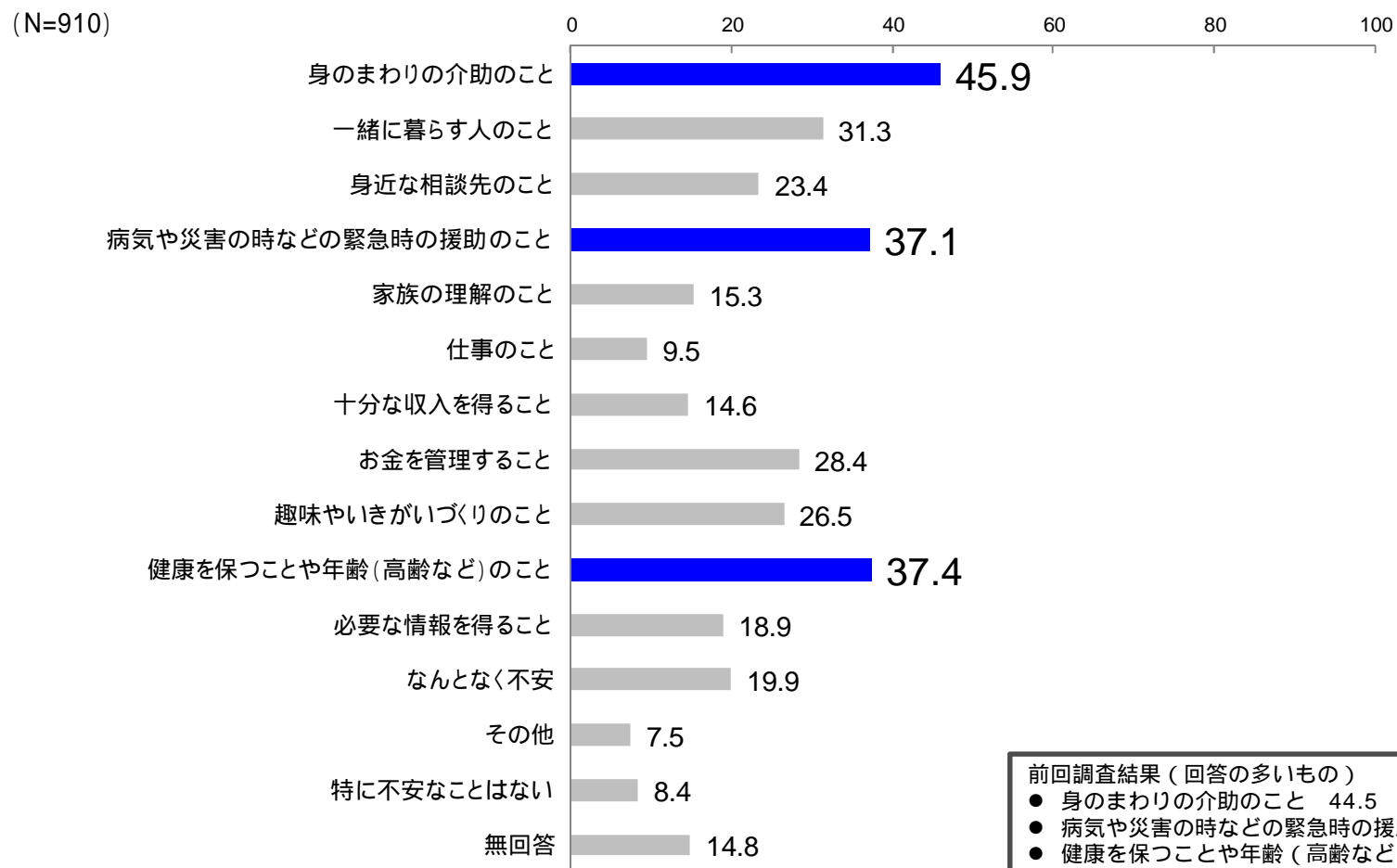
#### 前回調査結果 (回答の多いもの)

- ずっと施設にいたい 30.5
- 親やきょうだいと暮らしたい 21.9
- グループホームやケアホームで暮らしたい 12.1

# 調査票 E 1 の結果概要 ( 5 )

## 問22 地域移行で不安に思うこと

- 「身のまわりの介助のこと」( 45.9% ) が最も多く、次いで「健康を保つことや年齢( 高齢など ) のこと」( 37.4% )、「病気や災害の時などの緊急時の援助のこと」( 37.1% ) となっている。



# 障がい者（児）基礎調査票 （入所施設管理者用）

---

## 調査票 E 2

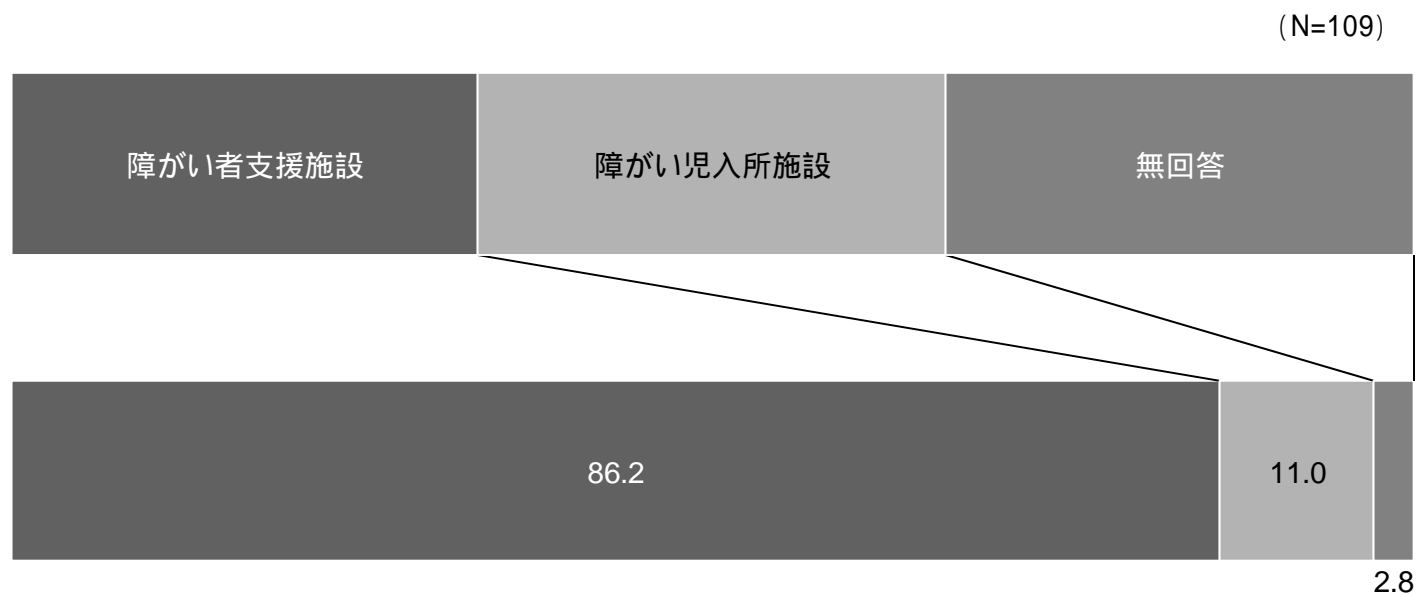
回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

## 調査票 E 2 の結果概要 ( 1 )

---

### 問 2 施設の種別

- 「障がい者支援施設」( 86.2% )、「障がい児入所施設」( 11.0% )となっている。

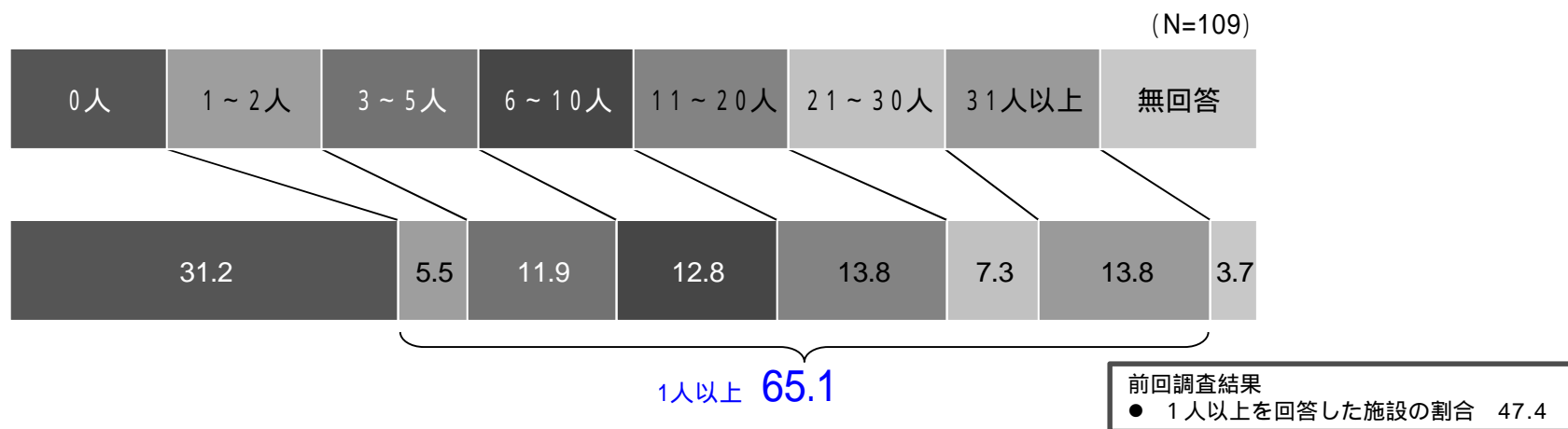




## 調査票 E 2 の結果概要 ( 2 )

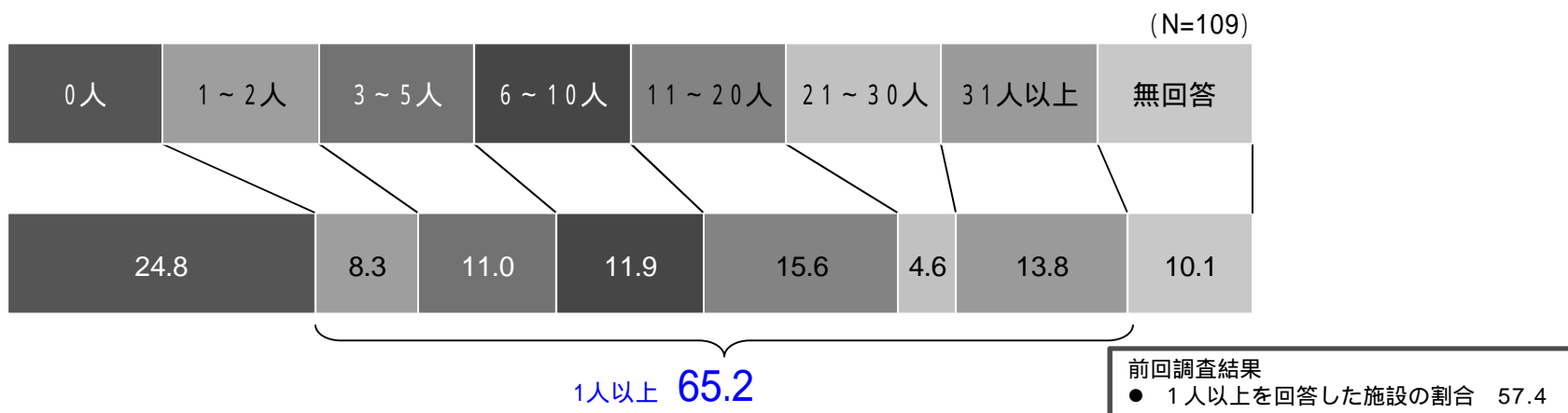
### 問7 強度行動障がいのある方の入所者数

- 6割を超える施設が1人以上を回答している。



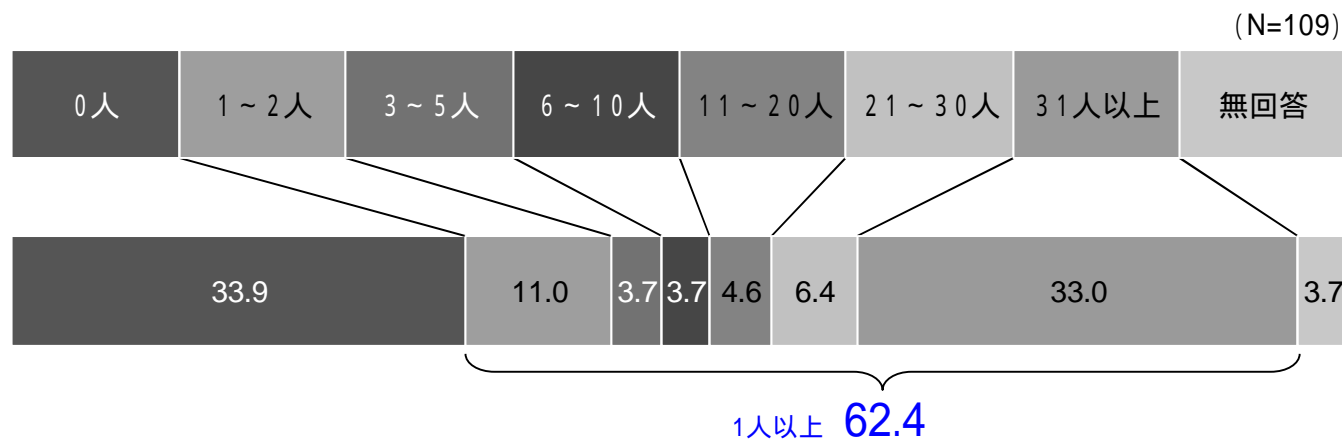
### 問13 発達障がいのある方の入所者数

- 6割を超える施設が1人以上を回答している。



## 調査票 E 2 の結果概要 ( 3 )

### 問16 医療的ケアの必要な方の入所者数

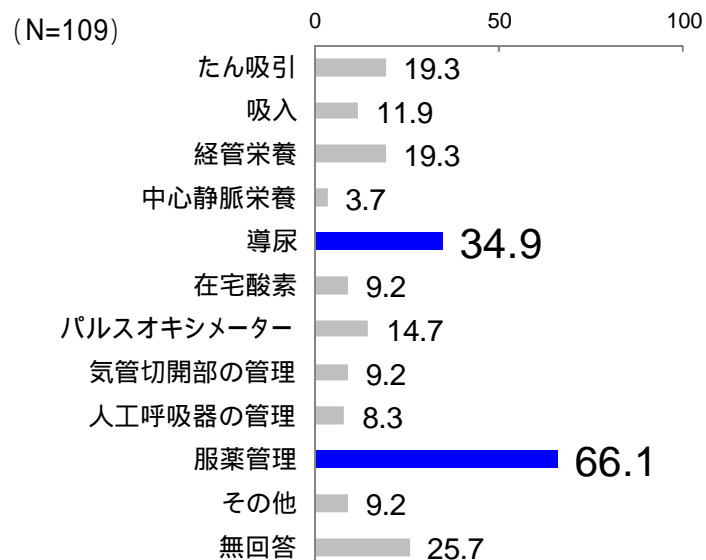


- 6割を超える施設が1人以上を回答している。

前回調査結果

- 1人以上を回答した施設の割合 72.2

### 問17 入所者が必要としている医療的ケア



- 「服薬管理」(66.1%) が最も多く、次いで「導尿」(34.9%) となっている。

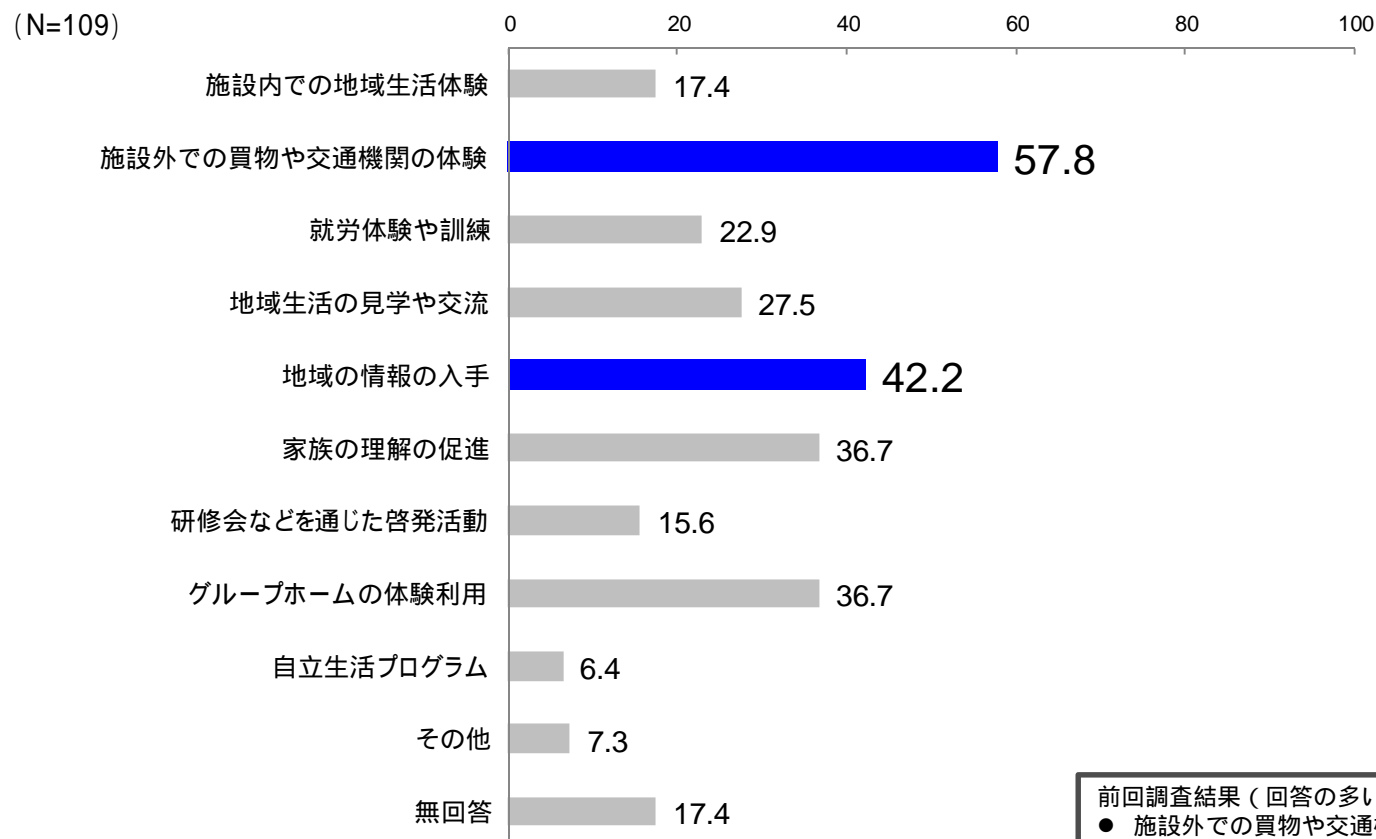
前回調査結果 (回答の多いもの)

- 服薬管理 83.8
- 導尿 38.8
- 経管栄養 27.5

## 調査票 E 2 の結果概要 ( 4 )

### 問24 地域移行に向けた取り組み内容

- 「施設外での買い物や交通機関の体験」( 57.8% ) が最も多く、次いで「地域の情報の入手」( 42.2% ) となっている。



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

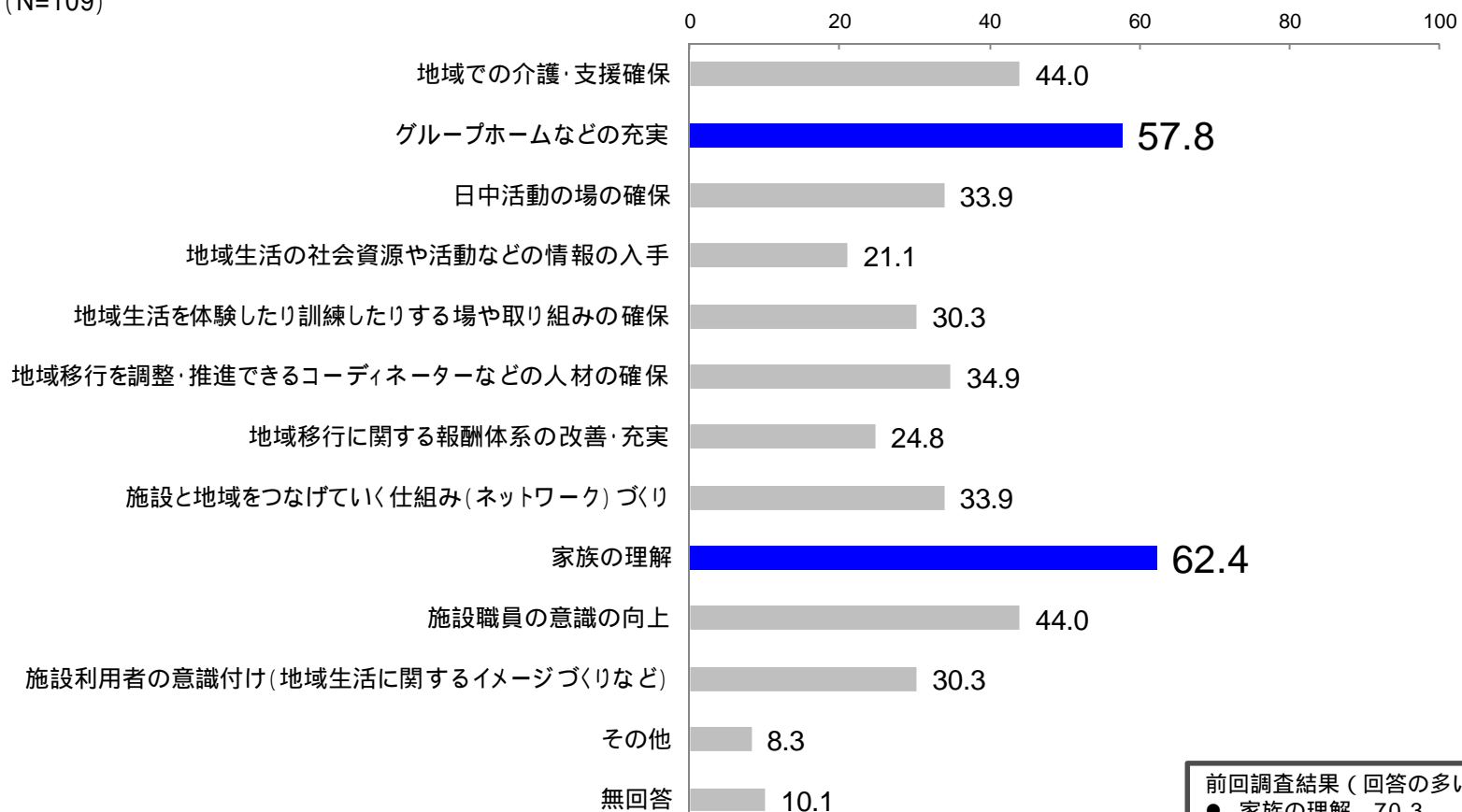
- 施設外での買い物や交通機関の体験 66.3
- 地域の情報の入手 42.6
- グループホーム、ケアホームの体験利用 41.6

## 調査票 E 2 の結果概要 ( 5 )

### 問25 地域移行を進めるうえでの課題

- 「家族の理解」( 62.4% ) が最も多く、次いで「グループホームなどの充実」( 57.8% ) となっている。

(N=109)



前回調査結果(回答の多いもの)

- 家族の理解 70.3
- グループホームなどの充実 56.4
- 地域での介護・支援確保 50.5

# 特定医療費（指定難病）助成 事業対象者基礎調査票

---

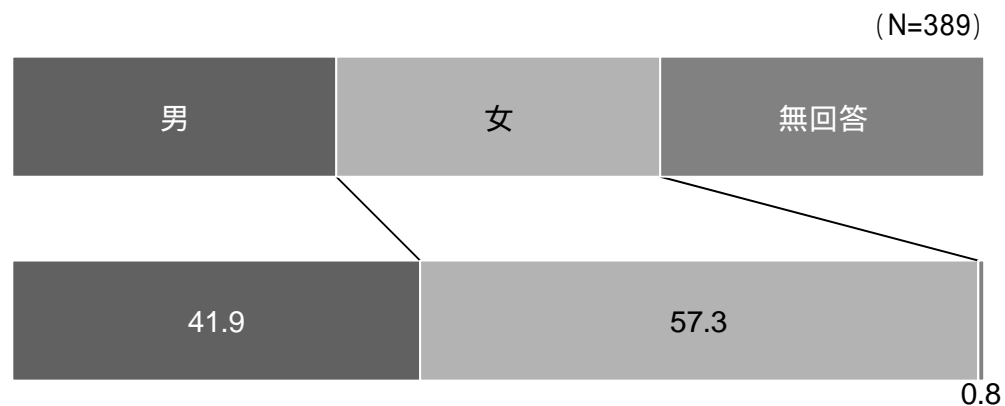
## 調査票 F

回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票 F の結果概要 ( 1 )

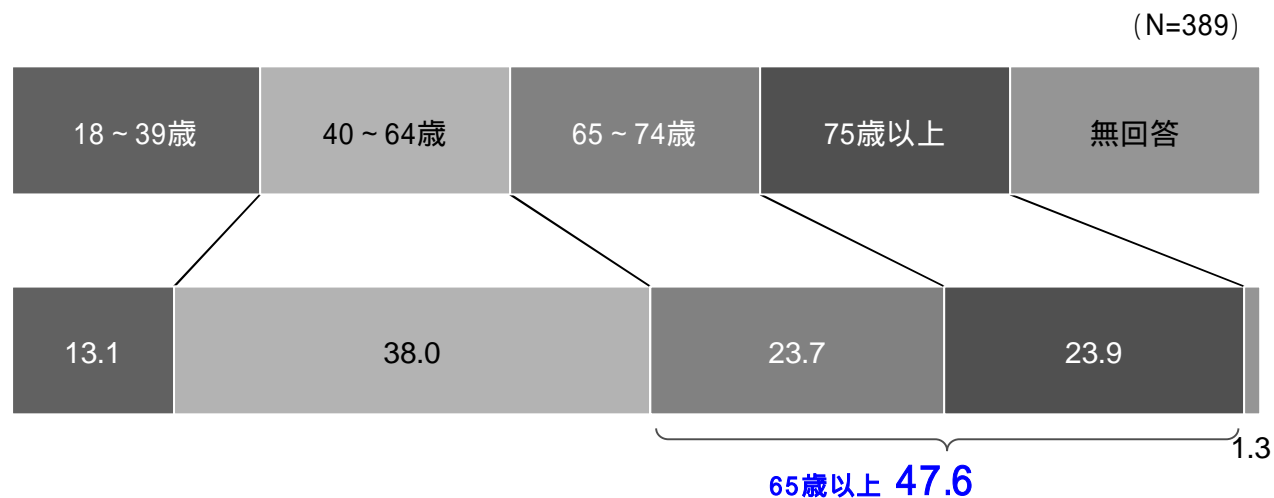
## 問2 性別

- 「男性」 ( 41.9% )、 「女性」 ( 57.3% ) となっている。



## 問3 満年齢

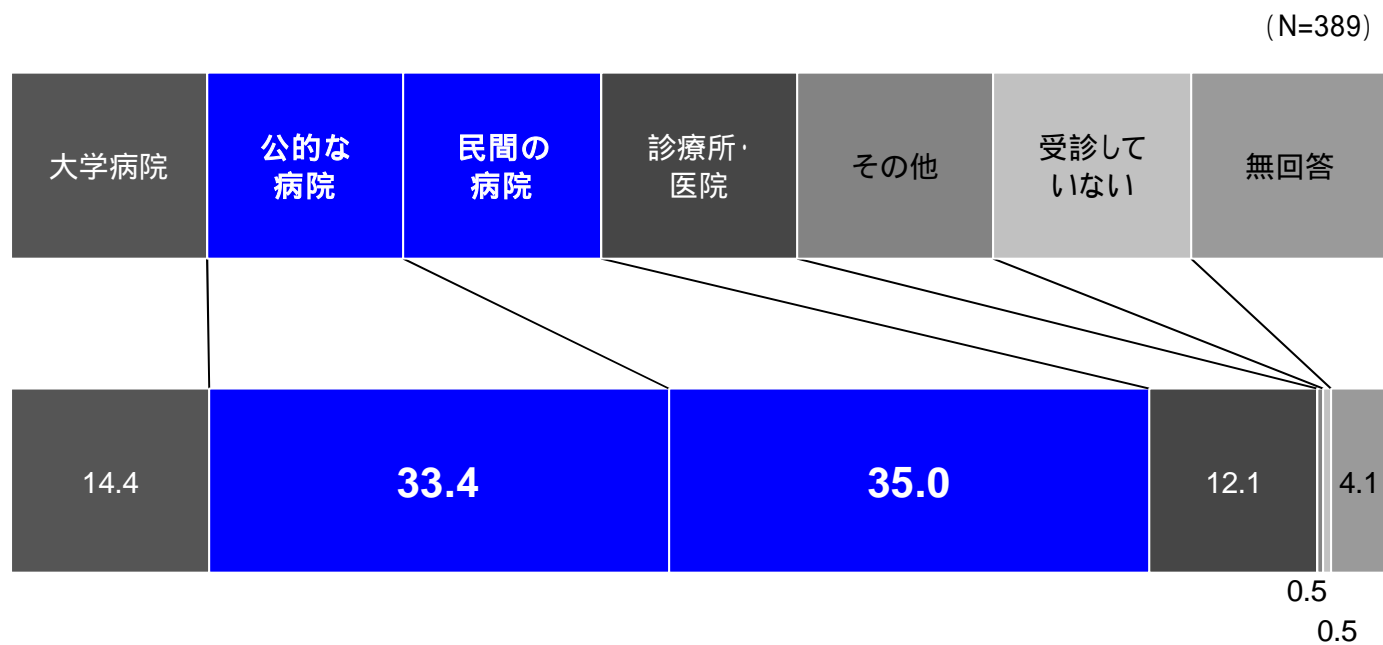
- 約 5 割の方が65歳以上となっている。



## 調査票 F の結果概要 ( 2 )

### 問11 主に受診している医療機関

- 「民間の病院」 ( 35.0% ) が最も多く、次いで「公的な病院」 ( 33.4% ) となっている。



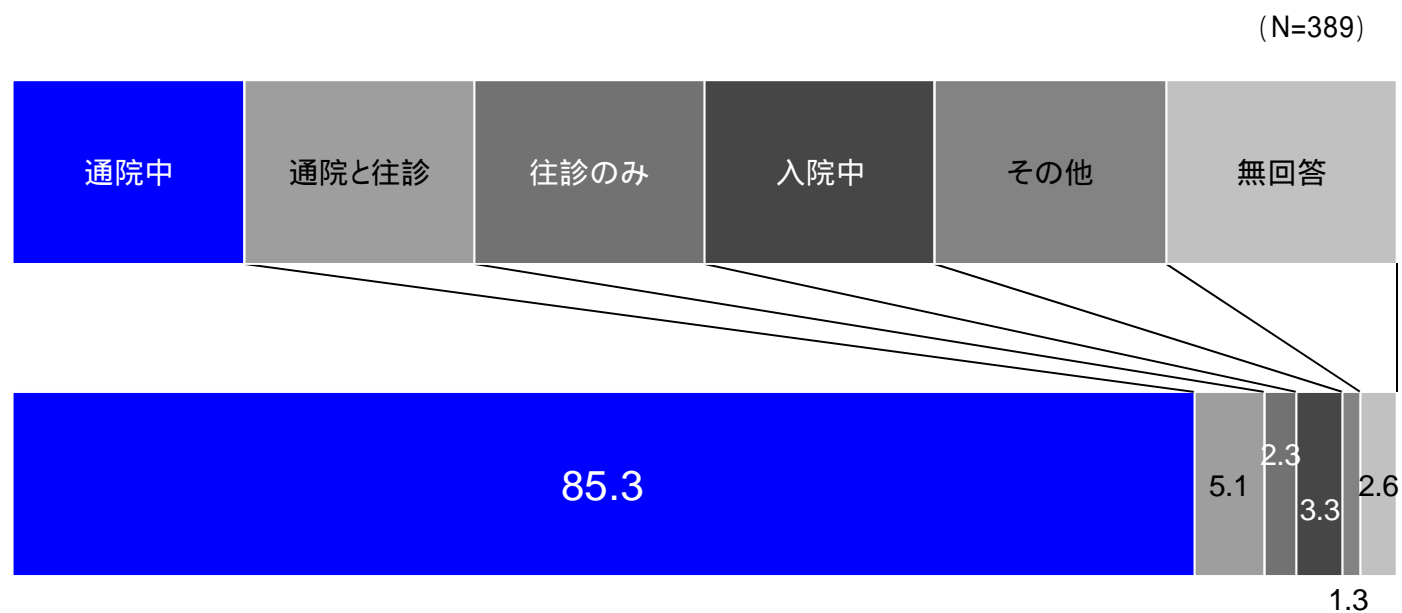
前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 民間の病院 35.8
- 公的な病院 30.2
- 大学病院 16.0

## 調査票 F の結果概要 ( 3 )

### 問12 受診状況

- 「通院中」 ( 85.3% ) が最も多い。



前回調査結果  
● 通院中の方の割合 89.0

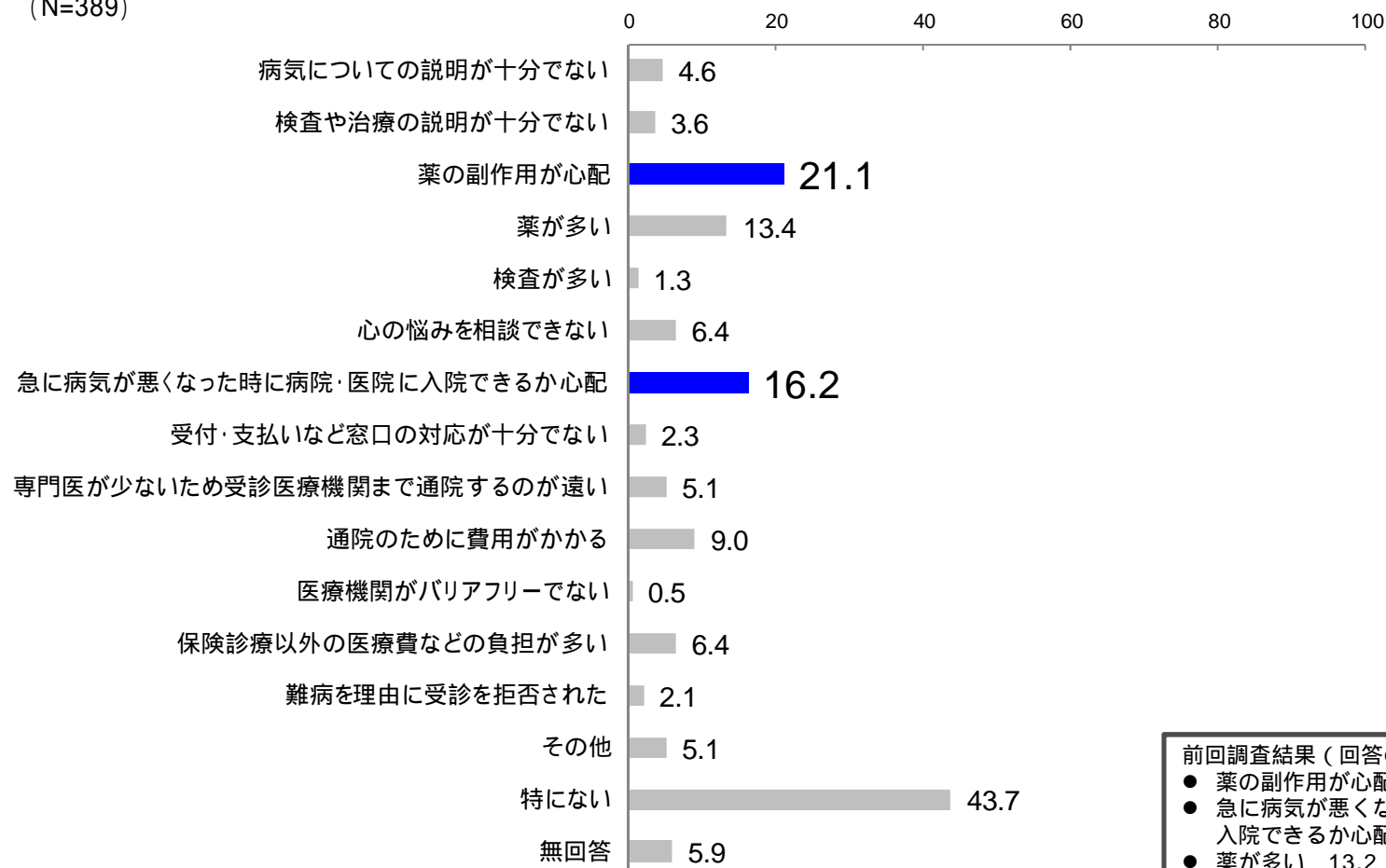


## 調査票 F の結果概要 ( 4 )

### 問15 診療についての困りごと

- 「薬の副作用が心配」( 21.1% )、「急に病気が悪くなった時に病院・医院に入院できるか心配」( 16.2% )といった回答が多い。

(N=389)



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 薬の副作用が心配 24.5
- 急に病気が悪くなった時に病院・医院に入院できるか心配 17.3
- 薬が多い 13.2

# 小児慢性特定疾病医療支援 事業対象者基礎調査票

---

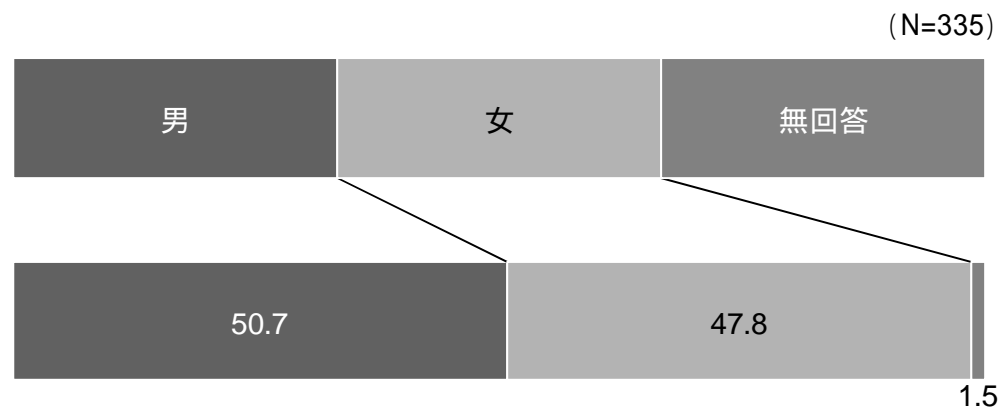
## 調査票 G

回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

# 調査票Gの結果概要(1)

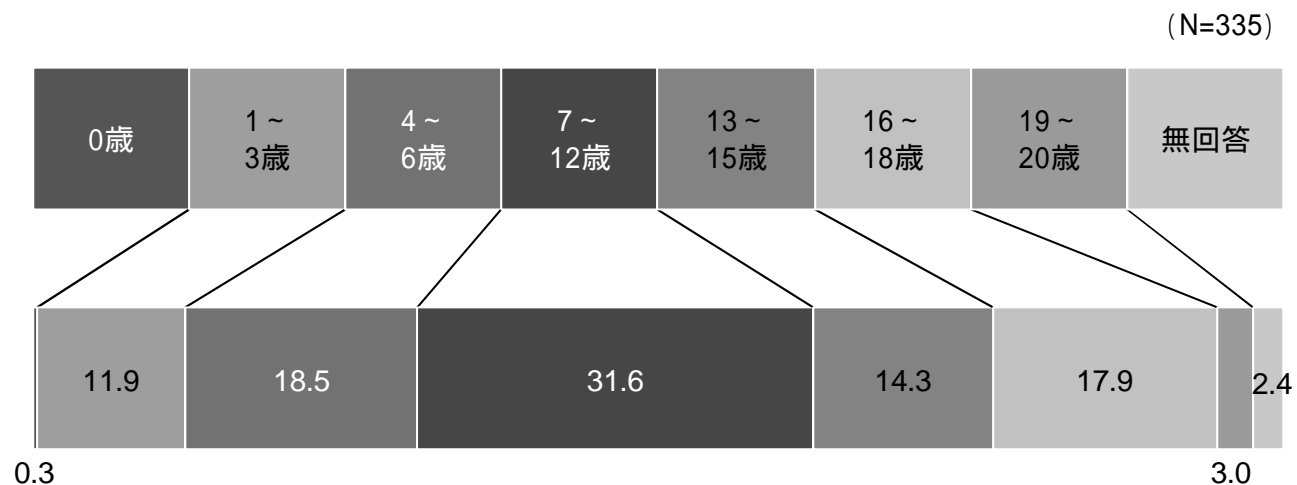
## 問2 性別

- 「男性」(50.7%)、「女性」(47.8%)となっている。



## 問3 満年齢

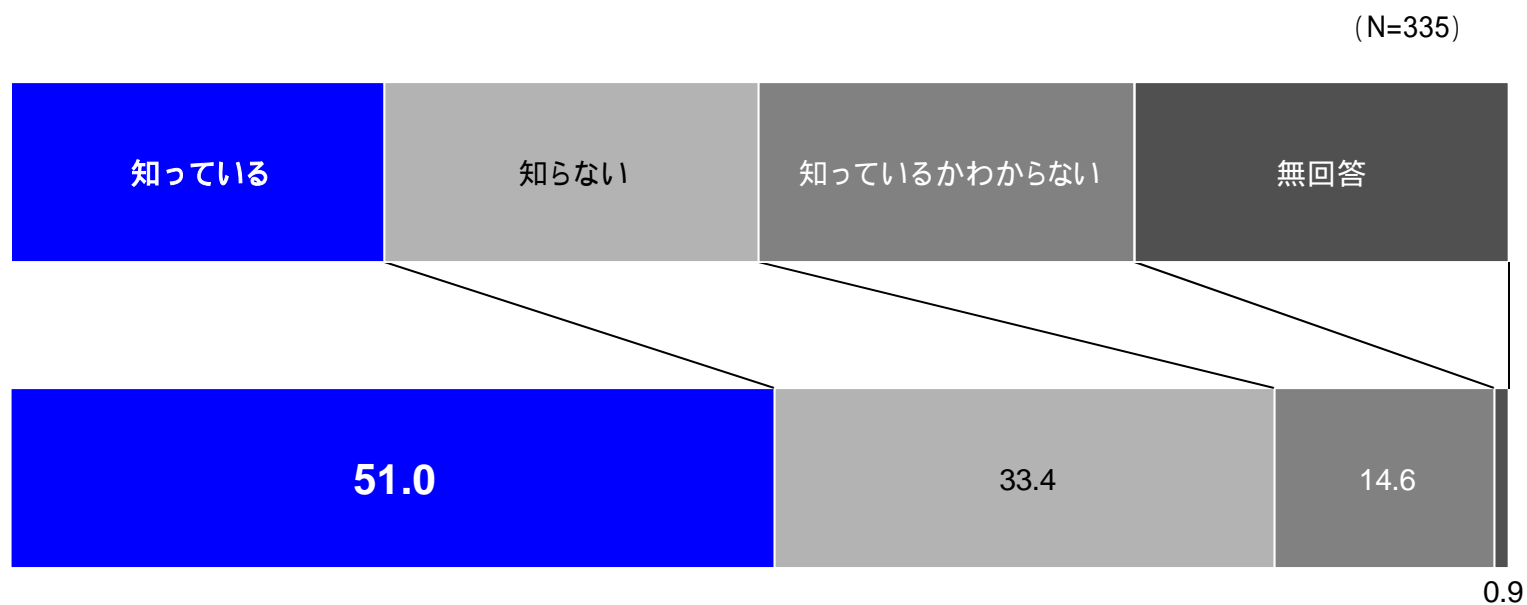
- 「7歳~12歳」(31.6%)が最も多くなっている。



## 調査票 G の結果概要 ( 2 )

### 問9 自分の病名を認知しているか

- 半数 ( 51.0% ) が自分の病名を認知している。

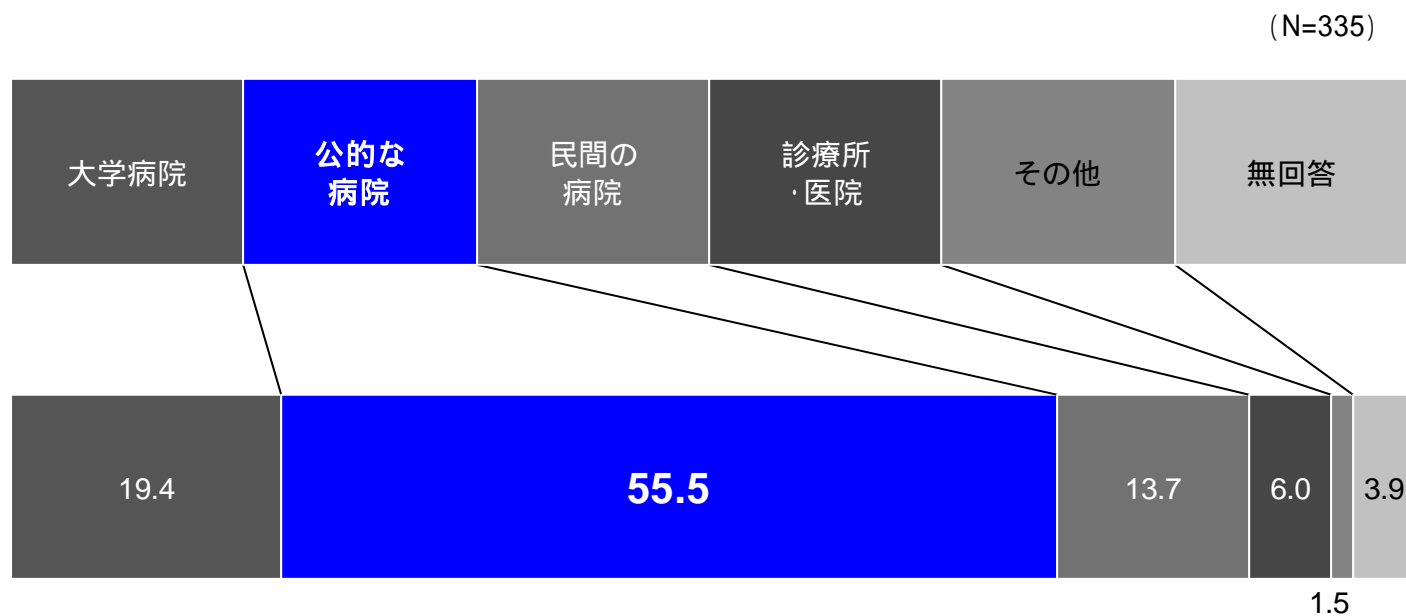


前回調査結果  
● 知っている方の割合 51.9

## 調査票 G の結果概要 ( 3 )

### 問10 主に受診している医療機関

- 「公的な病院」と回答した方が 5 割を超えている。



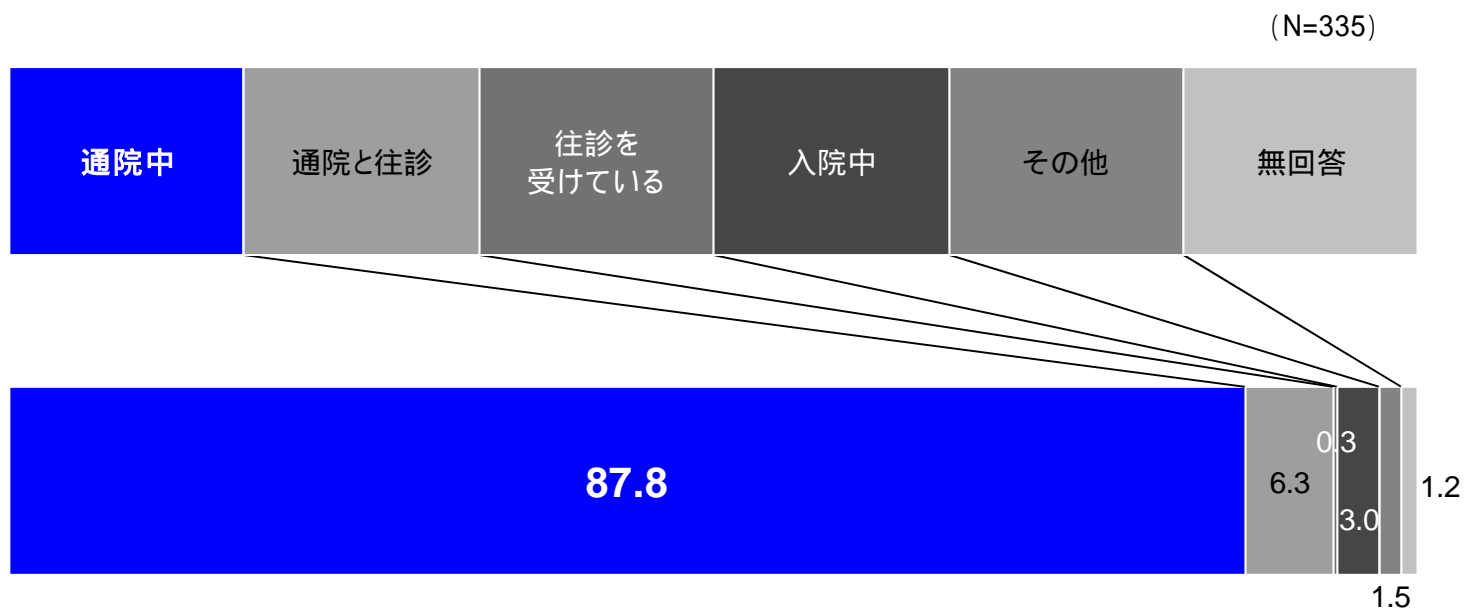
前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 公的な病院 58.8
- 大学病院 18.2
- 民間の病院 16.2

## 調査票 G の結果概要 ( 4 )

### 問11 受診状況

- 「通院中」 ( 87.8% ) が最も多い。



前回調査結果

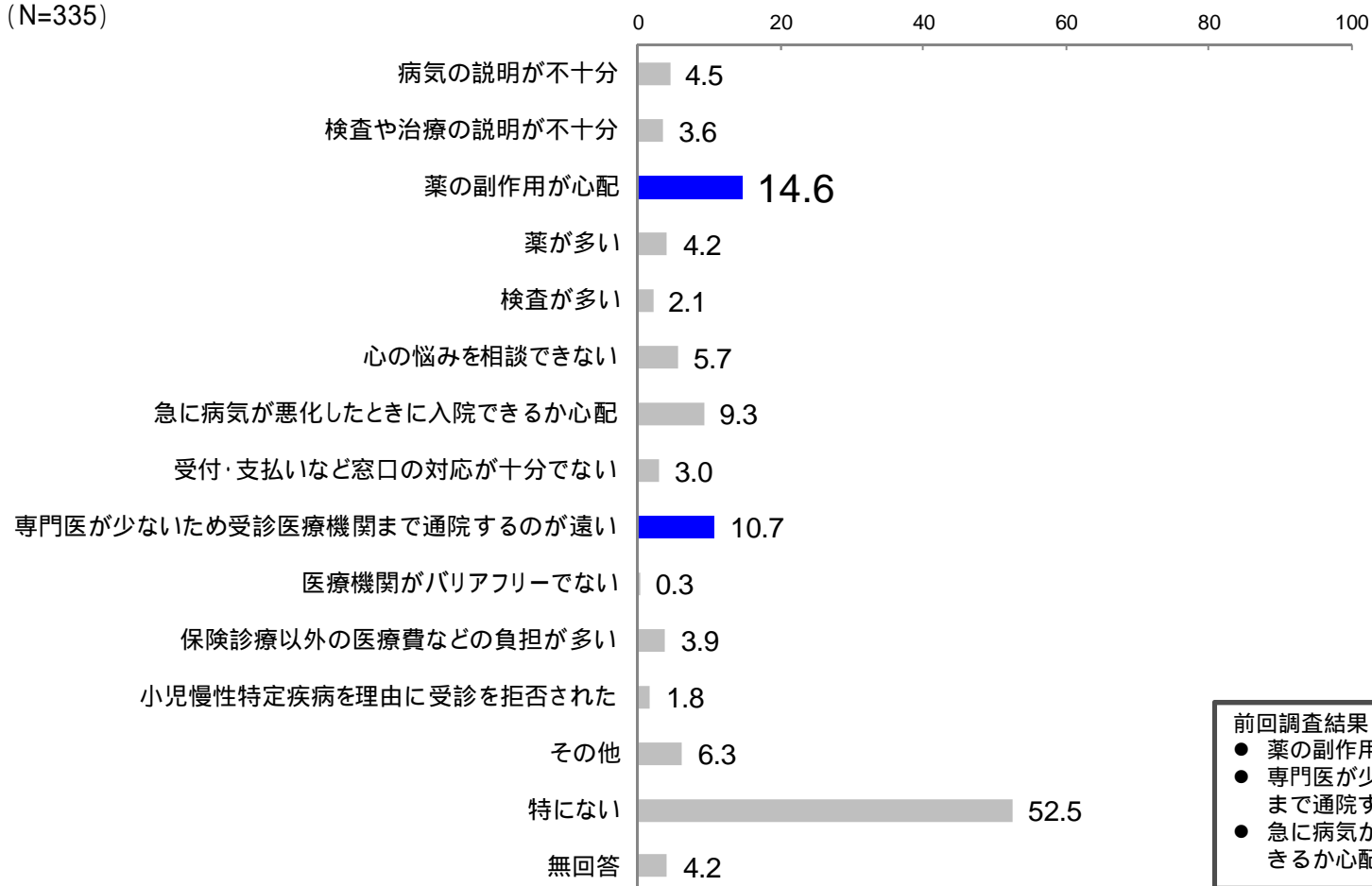
- 通院中の方の割合 93.5

## 調査票 G の結果概要 ( 5 )

### 問13 診療についての困りごと

- 「薬の副作用が心配」 ( 14.6% )、 「専門医が少ないため受診医療機関まで通院するのが遠い」 ( 10.7% ) といった回答が多い。

( N=335 )



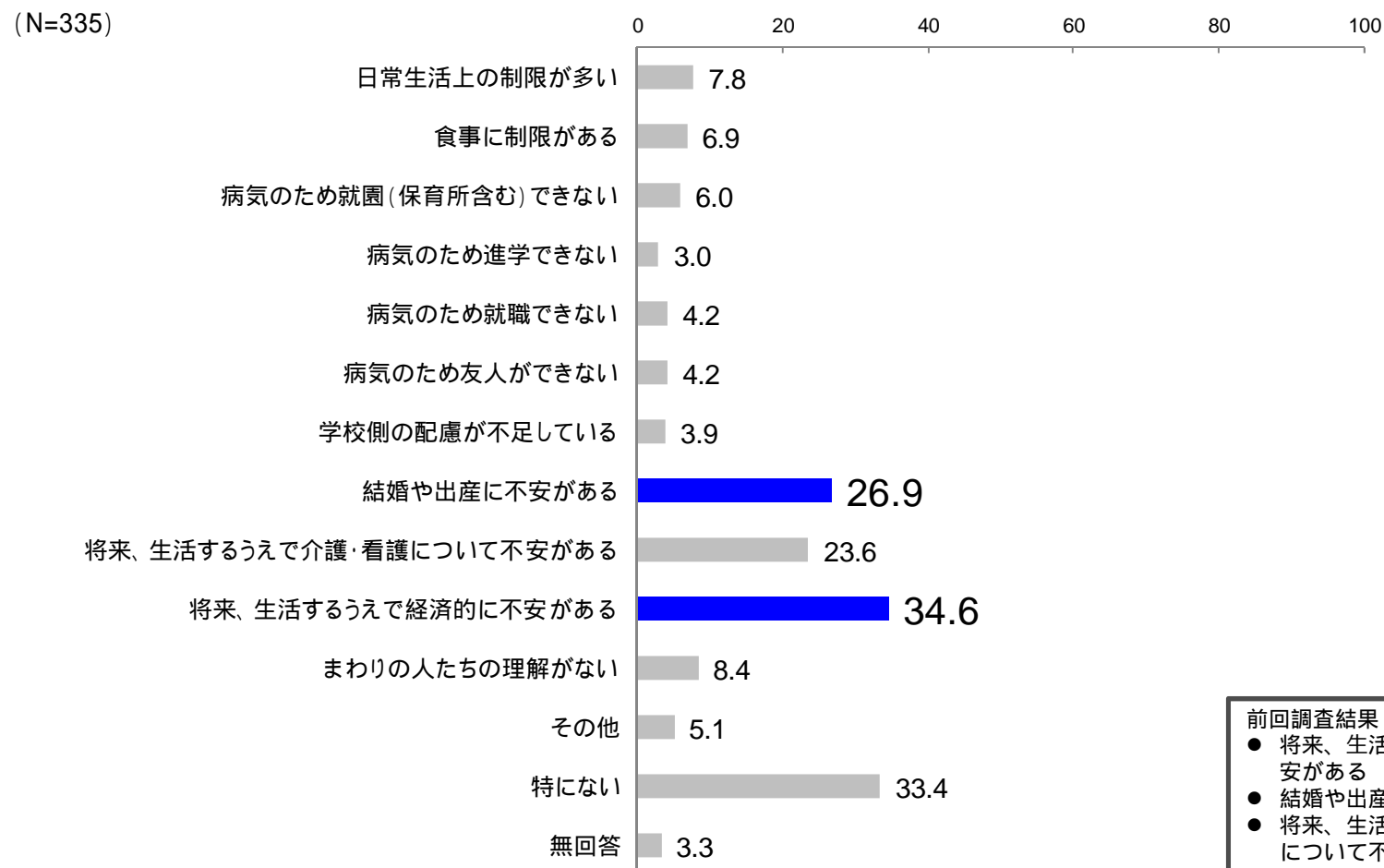
前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 薬の副作用が心配 13.7
- 専門医が少ないため受診医療機関まで通院するのが遠い 12.4
- 急に病気が悪化したときに入院できるか心配 7.9

## 調査票 G の結果概要 ( 6 )

### 問32 日常生活での困りごと ( こども )

- 「将来、生活するうえで経済的に不安がある」 ( 34.6% ) 、 「結婚や出産に不安がある」 ( 26.9% ) と  
いった回答が多い。



前回調査結果 ( 回答の多いもの )

- 将来、生活するうえで経済的に不安がある 33.7
- 結婚や出産に不安がある 25.4
- 将来、生活するうえで介護・看護について不安がある 18.2



## 調査票 G の結果概要 ( 7 )

### 問32 日常生活での困りごと ( 保護者 )

- 「将来、こどもの介護・看護ができるか不安がある」 ( 27.2% ) 「精神的な負担が大きい」 ( 23.6% ) といった回答が多い。

